

4. 各分野における取組について

4-1 設問及び回答方法

アンケートの問8で、市の各分野における取組について、満足度と重要度の調査を行った。

◆分野の区分および取組項目の設定

分野は第5次総合計画における6つの大項目「生活環境」、「健康福祉」、「産業経済」、「教育文化」、「都市整備・生活基盤整備」、「行財政・市民のまちづくり」に準じて区分し、各分野について主な取組を設定した。（詳細は、付属資料の調査票を参照）

◆回答方法

調査は6分野の各取組に対し、下表のとおり、それぞれの満足度、重要度を5段階評価を行う形式とした。

<例>	問8 上越市が、現在行っているお主な取組は60あります。以下のそれぞれの取組について、現在どれくらい満足していますか。また、今後どれくらい重要であるとお考えですか。当てはまるところに、○を付けてください。											
	分 野	質 問	現在の満足度					今後の重要度				
			満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である	たいへん重要である	ある程度重要である	どちらともいえない	あまり重要ではない	全く重要ではない
		【記入例】	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
生活環境		(1) 火災、水害、地震などへの防災対策	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
		(2) 防犯灯の設置など、防犯対策	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
		(3) 交通安全対策	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
		(4) 大気や水質・騒音などの公害対策	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
		(5) 二酸化炭素の発生抑制など、地球温暖化対策	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
		(6) 産業廃棄物の処理対策	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
		(7) 太陽光発電や風力発電など、新エネルギーの利用	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
		(8) 自然保護、環境保全をすすめる啓発活動	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
		(9) ごみの減量化とリサイクルの推進	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

◆前回調査との比較について

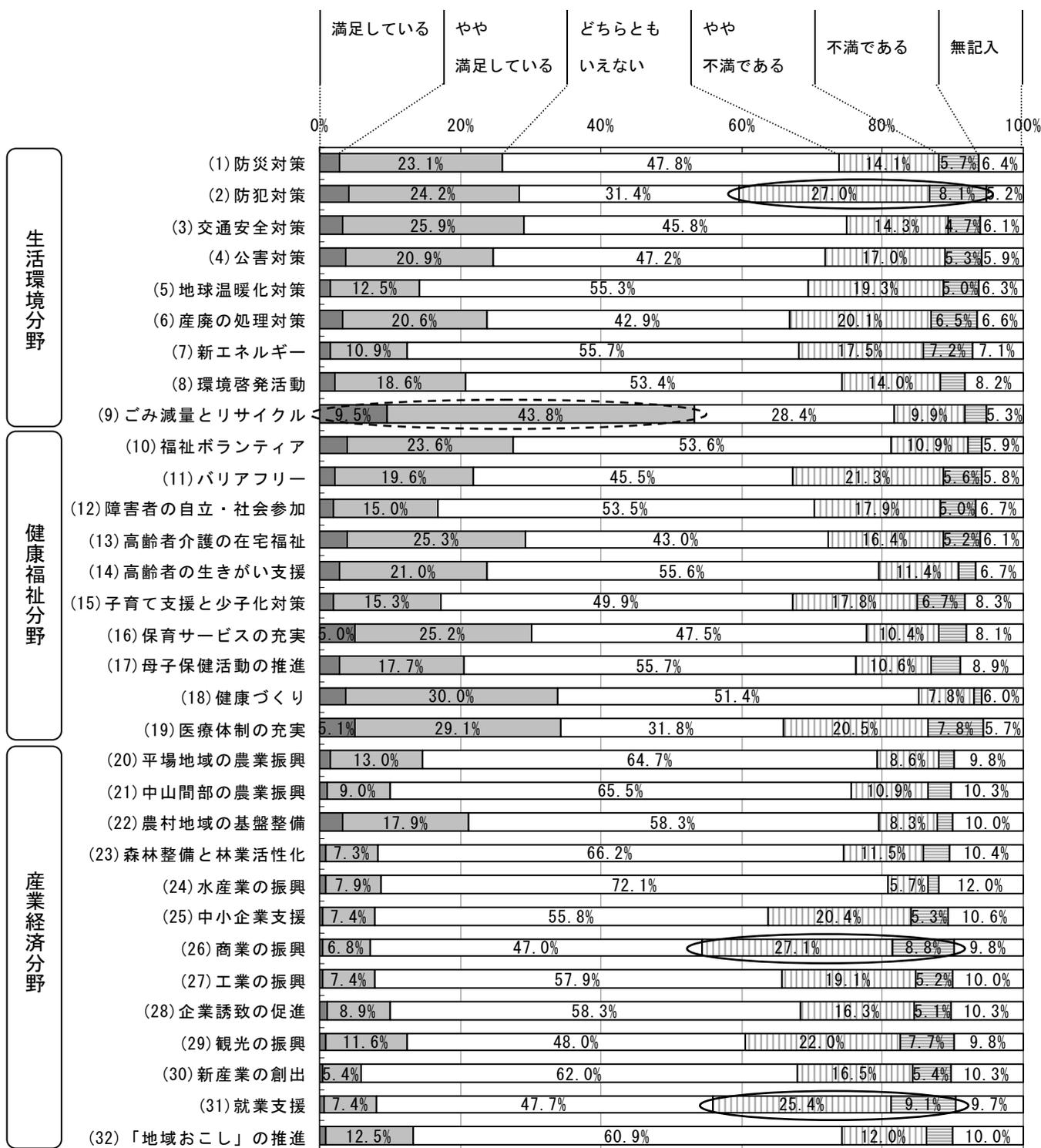
前回調査（平成14年度満足度調査：「序編 調査の全体概要」参照）では、同様に市の取組に対して満足度、重要度を調査しているが、分野別の取組に対して満足度、重要度の高い上位5項目までを選択する形式を採用しており、本調査との結果と数値を比較することはできず、単純に項目の順位を比較することとする。しかし、そもそも分野の区分および取組項目も大幅に変更されている箇所もあり、順位の比較もできない部分が存在する。

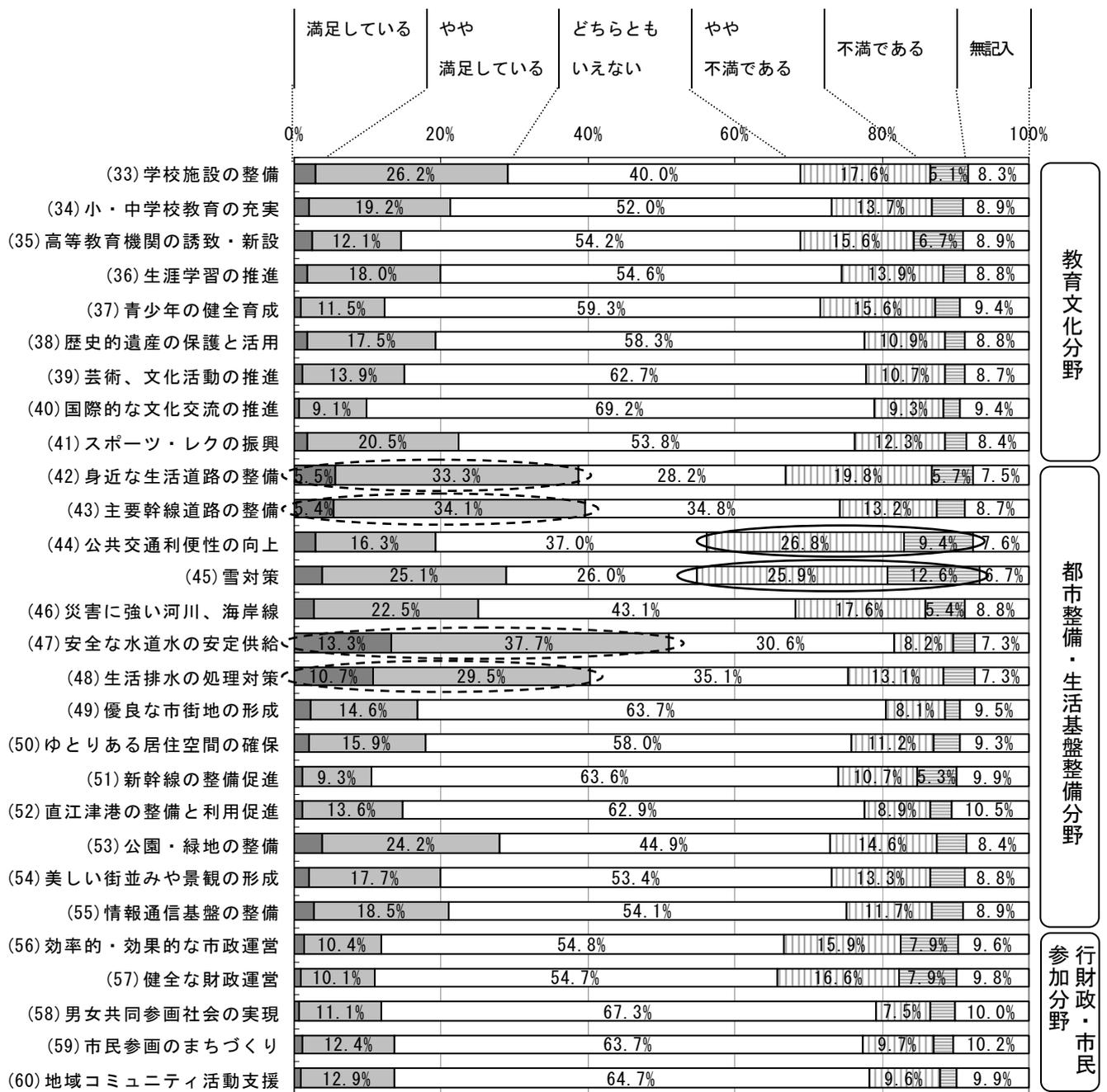
4-2 全体の満足度

ここではまず全体的な満足度について結果を見てみる。

◆単純集計

各項目に対する満足度の評価の回答は以下のとおりである。

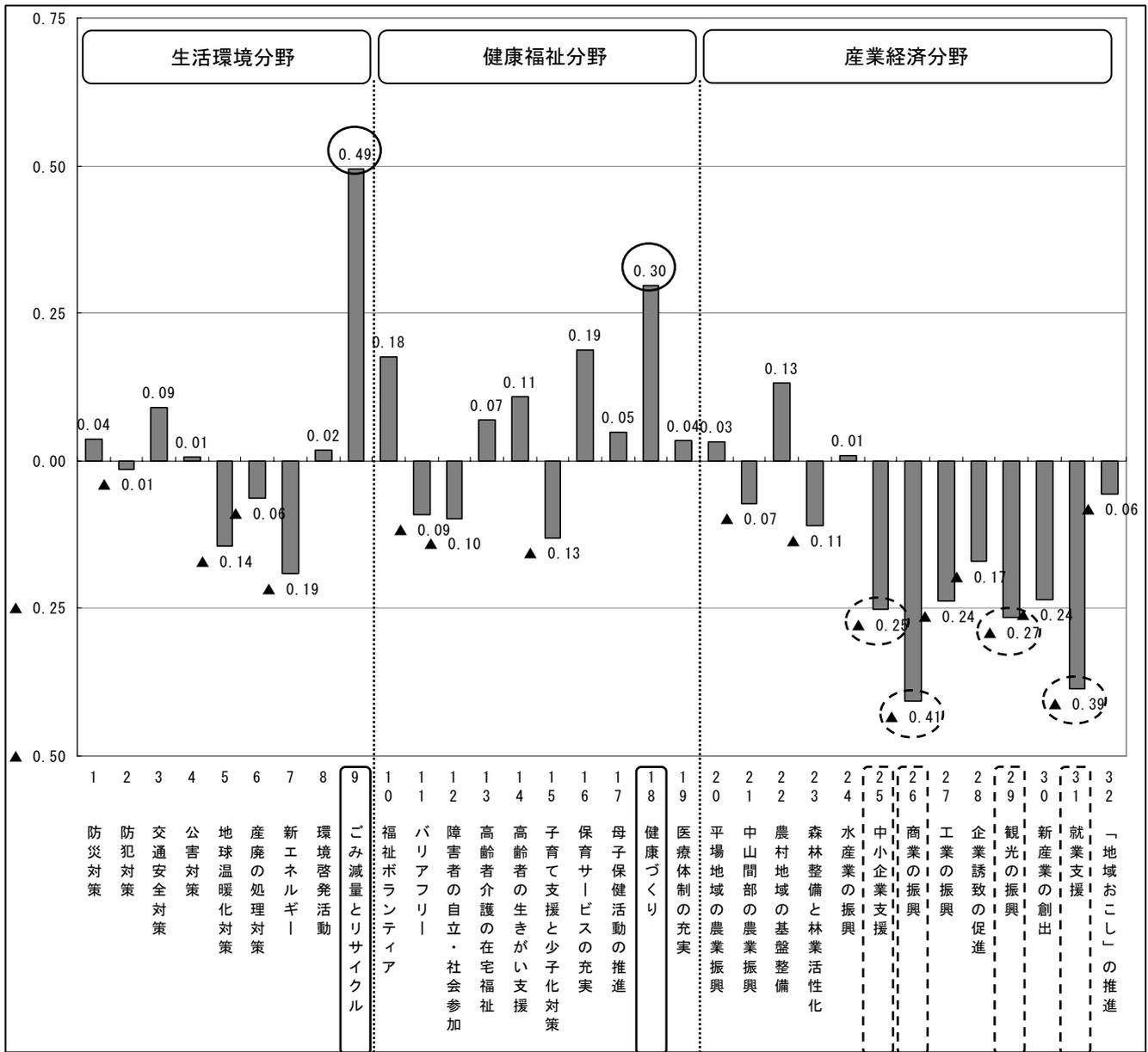




	満足度の高い取組 ※「満足している」「やや満足している」 の合計値	満足度の低い取組 ※「不満である」「やや不満である」 の合計値
1位	[9] ゴミ減量とリサイクル (53.3%)	[45] 雪対策 (38.5%)
2位	[47] 安全な水道水の安定供給 (51.0%)	[44] 公共交通利便性の向上 (36.2%)
3位	[48] 生活排水の処理対策 (40.2%)	[26] 商業の振興 (35.9%)
4位	[43] 主要幹線道路の整備 (39.5%)	[2] 防犯対策 (35.1%)
5位	[42] 身近な生活道路の整備 (38.8%)	[31] 就業支援 (34.5%)

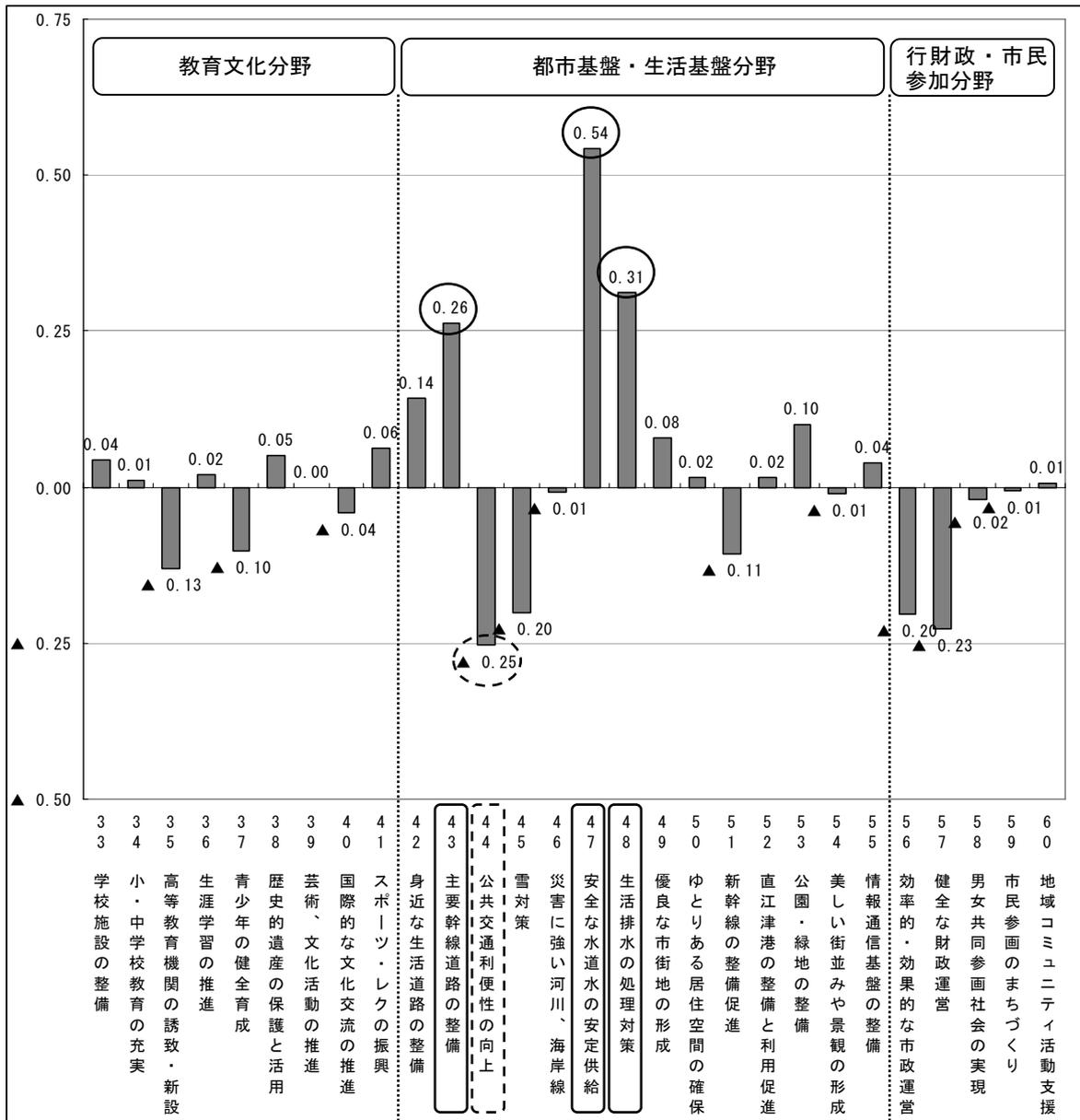
◆平均スコア

各項目に対する満足度の評価を点数化した「平均スコア」は以下のとおりである。



※ 平均スコアの算出方法

「満足している」に+2、「やや満足している」に+1、「どちらともいえない」に0、「やや不満である」に-1、「不満である」に-2を与え、その平均点を算出した。未記入の回答は計算に含めず、母数からも除外した。



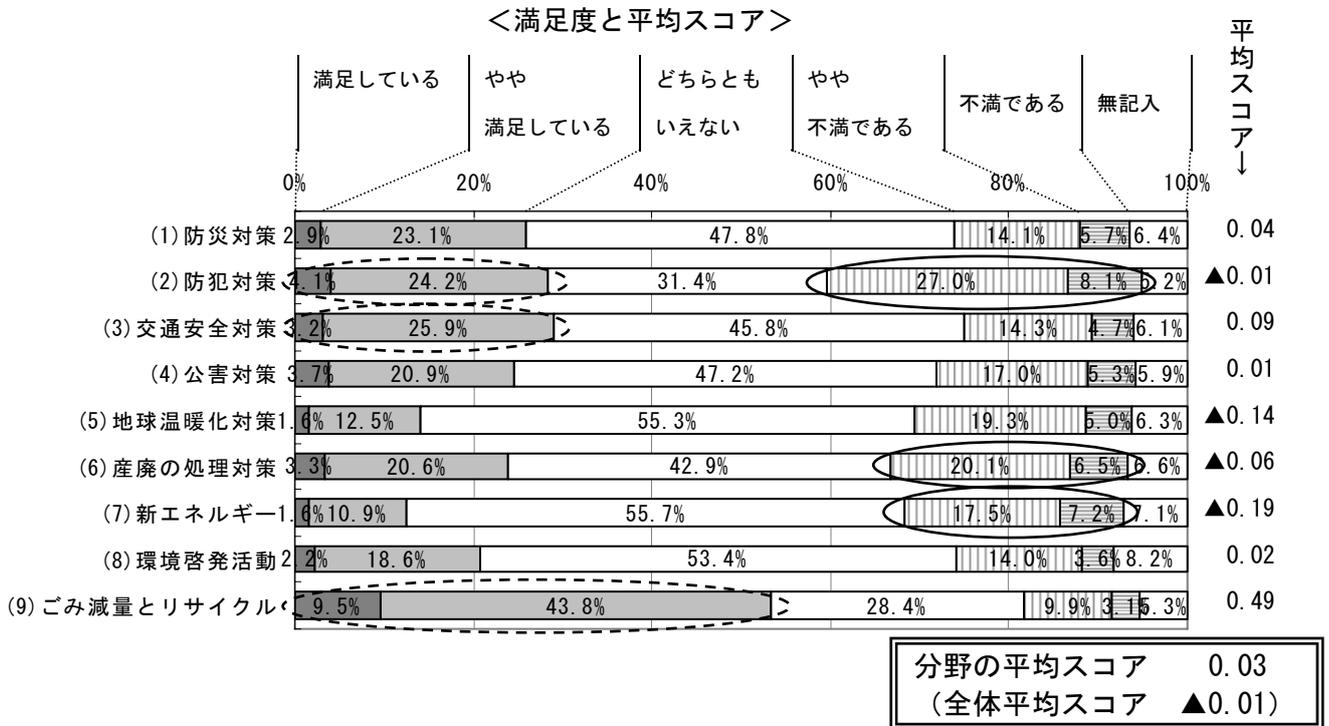
	「平均スコア」の高い取組	「平均スコア」の低い取組
1位	[47]安全な水道水の供給 (0.54)	[26]商業の振興 (▲0.41)
2位	[9]ごみ減量とリサイクル (0.49)	[31]就業支援 (▲0.39)
3位	[48]生活排水の処理対策 (0.31)	[29]観光の振興 (▲0.27)
4位	[18]健康づくり (0.30)	[25]中小企業支援 (▲0.25) /
5位	[43]主要幹線道路の整備 (0.26)	[44]公共交通利便性の向上 (▲0.25)

満足度と平均スコアとを比較してみると、「身近な生活道路の整備」は「満足している」「やや満足している」の回答が多いにも関わらず、「平均スコア」が低い。これは、「不満である」「やや不満である」の回答も多いためであり、住民によって判断が分かれていることがわかる。同様に、「雪対策」と「防犯対策」もこの逆となっており、住民の判断が分かれていることが分かる。

4-3 分野・取組別の満足度

ここでは分野ごとに取組の満足度について結果を見てみる。

● 生活環境分野 ●



＜前回調査との比較：満足度の高い取組＞

※平成 17 年度の数値はすべて「合併前の上越市」を対象とした結果を用いているため、上記のグラフと数値が異なる。

順位	平成 14 年度 (11 項目中 5 項目まで選択)	平成 17 年度
1	上水道の水不足の不安を解消し、水質のよさを保つ 31.1%	ごみの減量化とリサイクルの推進 55.2%
2	ごみゼロを目指して減量化とリサイクルを進める (生ごみ資源化など) 28.4%	交通安全対策 27.3%
3	下水道の整備を進める 24.8%	防犯灯の設置など、防犯対策 26.0%
4	雪に対する対策を進める (除雪、融雪、利雪など) 23.9%	火災、水害、地震などへの防災対策 25.9%
5	街路や空地などで緑化を進める 22.6%	大気や水質・騒音などの公害対策 22.6%

「満足している」「やや満足している」の合計が高い取組は、「ごみ減量とリサイクル」が突出して高く、次いで「交通安全対策」、「防犯対策」である。逆に、「不満である」「やや不満である」の合計が高い取組は、上位から順に、「防犯対策」、「産廃の処理対策」、「新エネルギー」である。

「分野の平均スコア」は 0.03 で、「全体の平均スコア」-0.01 より高く、6 分野中 3 番目と、満足度の高い分野であるといえる。

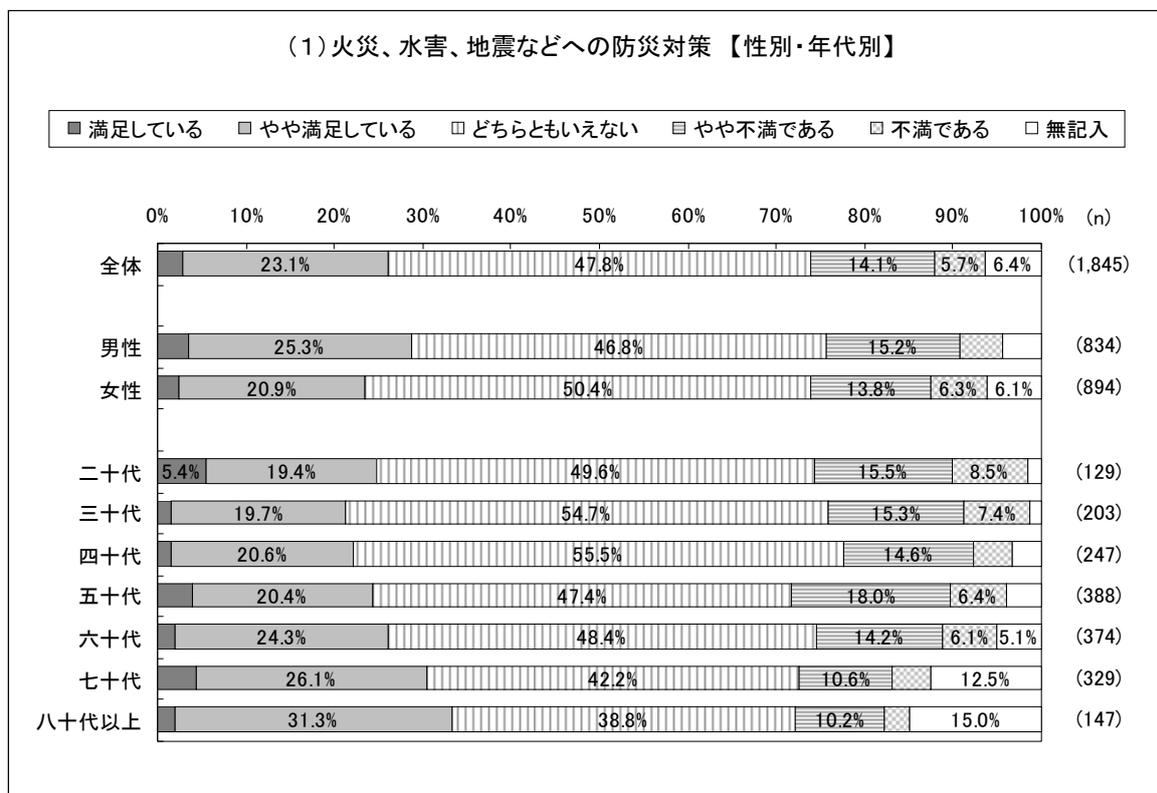
「平均スコア」の高い取組は、上位から順に、「ごみ減量とリサイクル」、「交通安全対策」、「防災対策」である。逆に「平均スコア」の低い取組は、上位から順に、「新エネルギー」、「地球温暖化対策」、「産廃の処理対策」である。

「ごみ減量とリサイクル」については、これまでの取組 (全国の自治体で初の ISO14001 取得・リサイクルの推進) が評価され、満足度が高くなっているものと思われる。

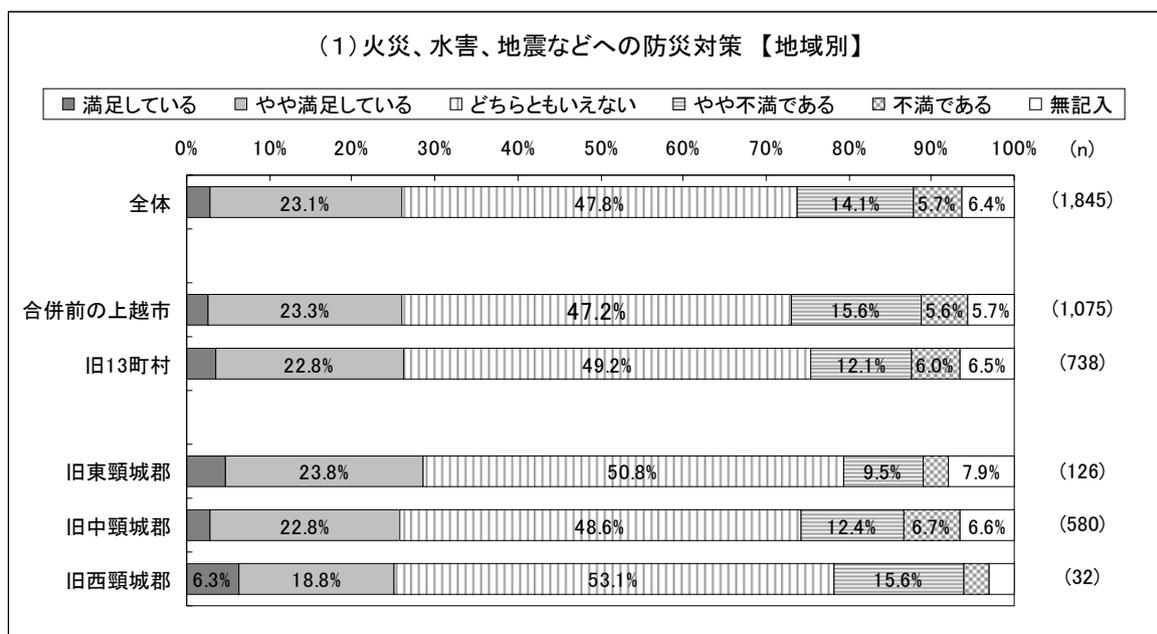
「防犯対策」は住民の判断が分かれているが、20 代~40 代の満足度が低い、合併前の上越市に比べて旧 13 町村の満足度が若干高い、などの傾向が出ている。

(1) 火災、水害、地震などへの防災対策

<クロス集計（性別・年代別）>

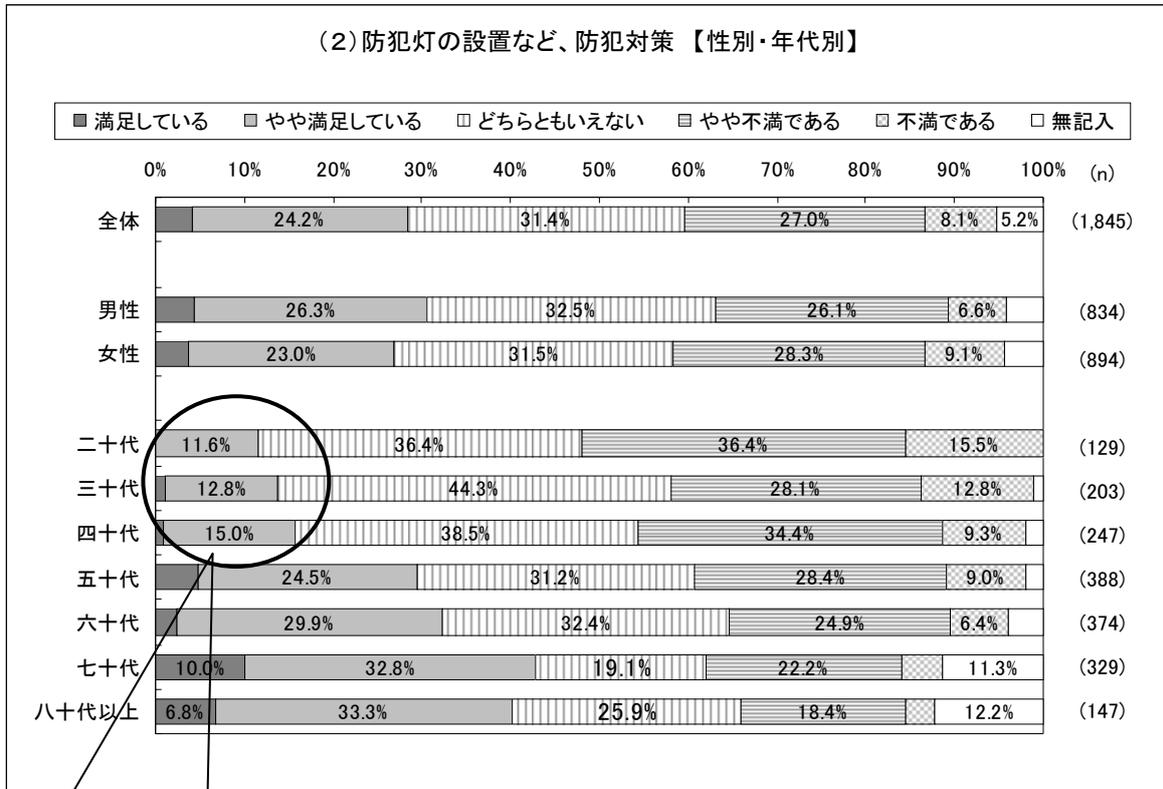


<クロス集計（地域別）>



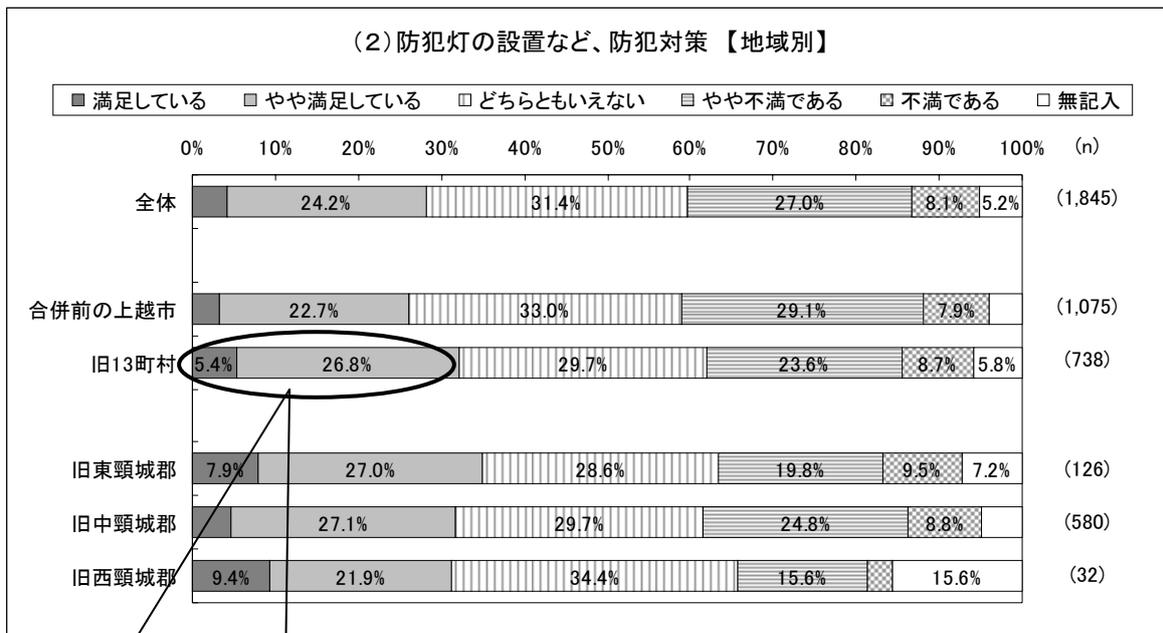
(2) 防犯灯の設置など、防犯対策

<クロス集計（性別・年代別）>



20代~40代の満足度が低い。

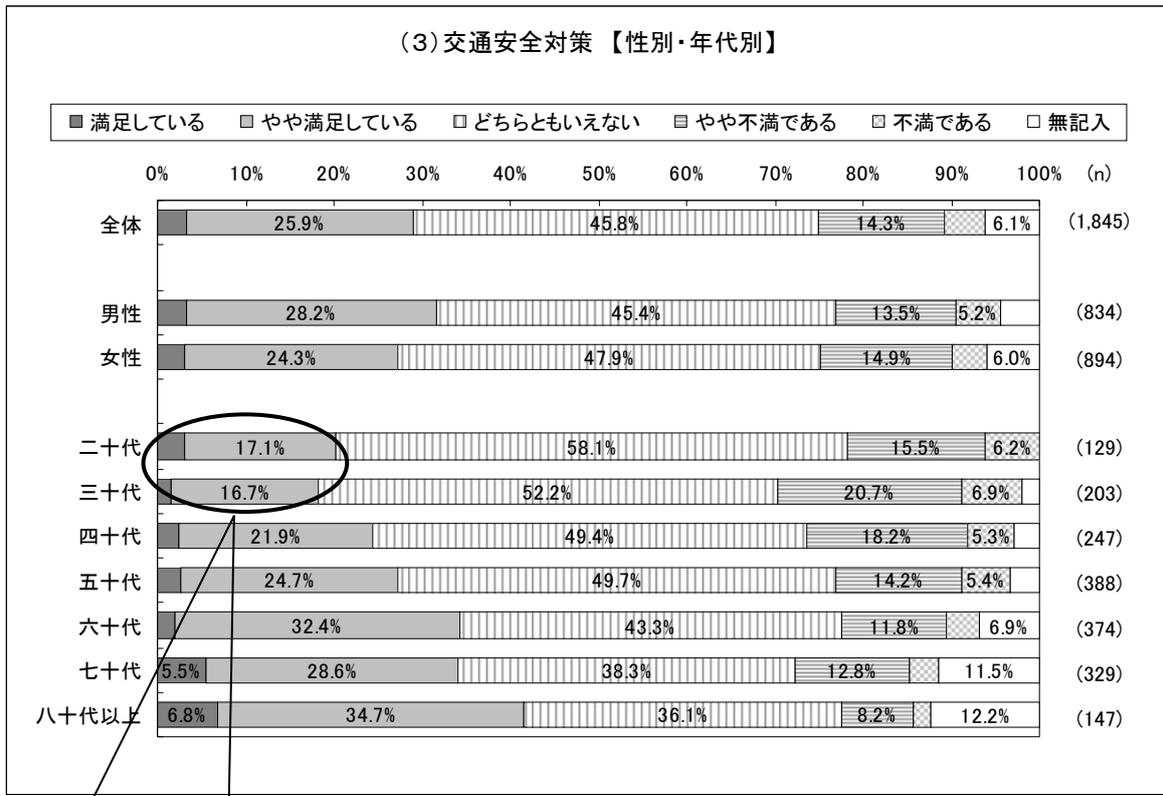
<クロス集計（地域別）>



合併前の上越市に比べて旧13町村の満足度が高い

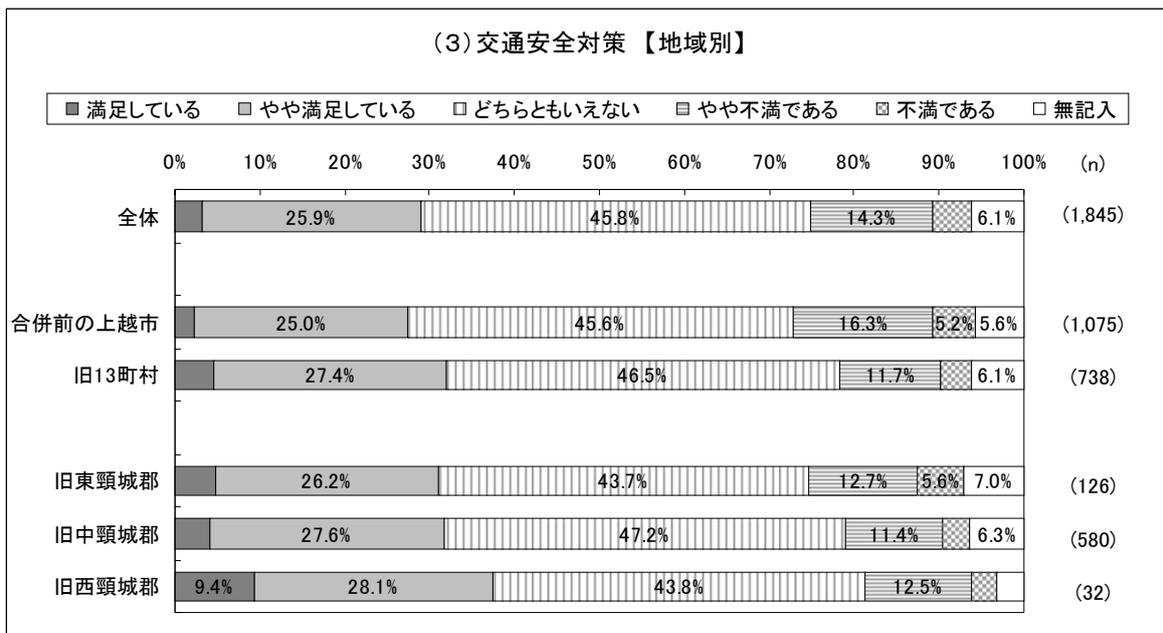
(3) 交通安全対策

<クロス集計（性別・年代別）>



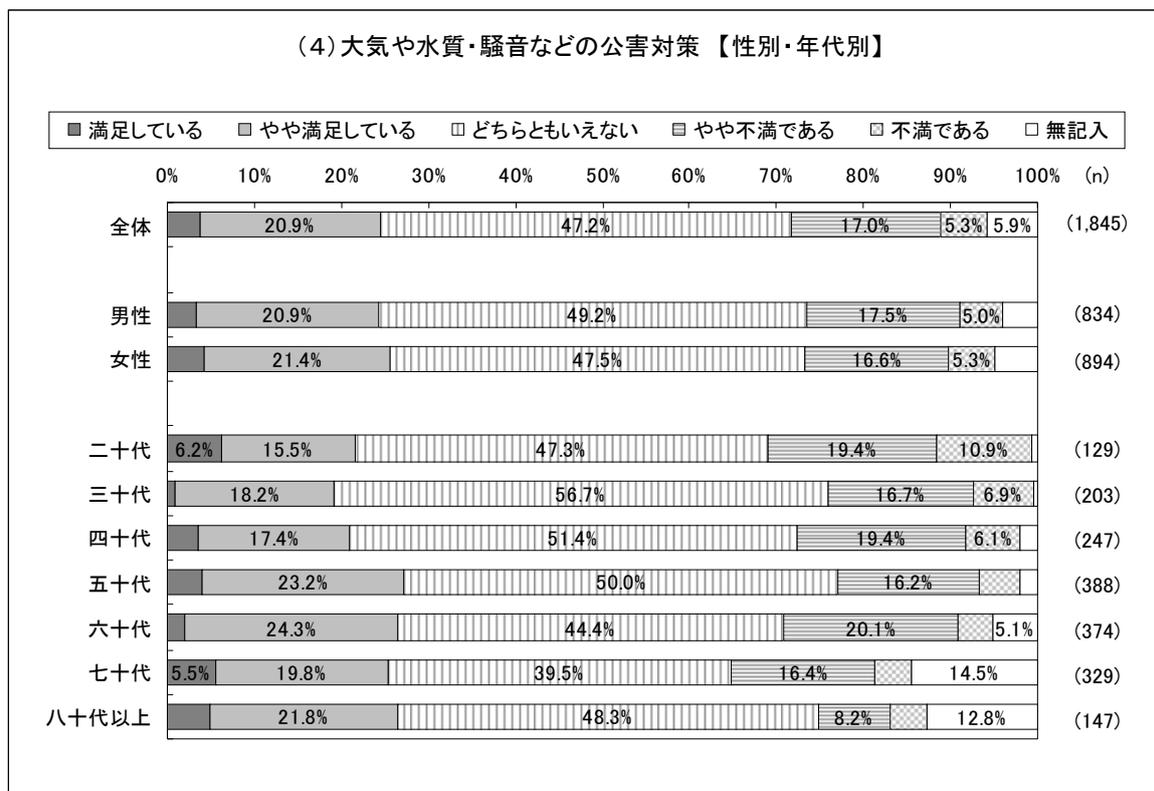
20代、30代の満足度が低い。

<クロス集計（地域別）>

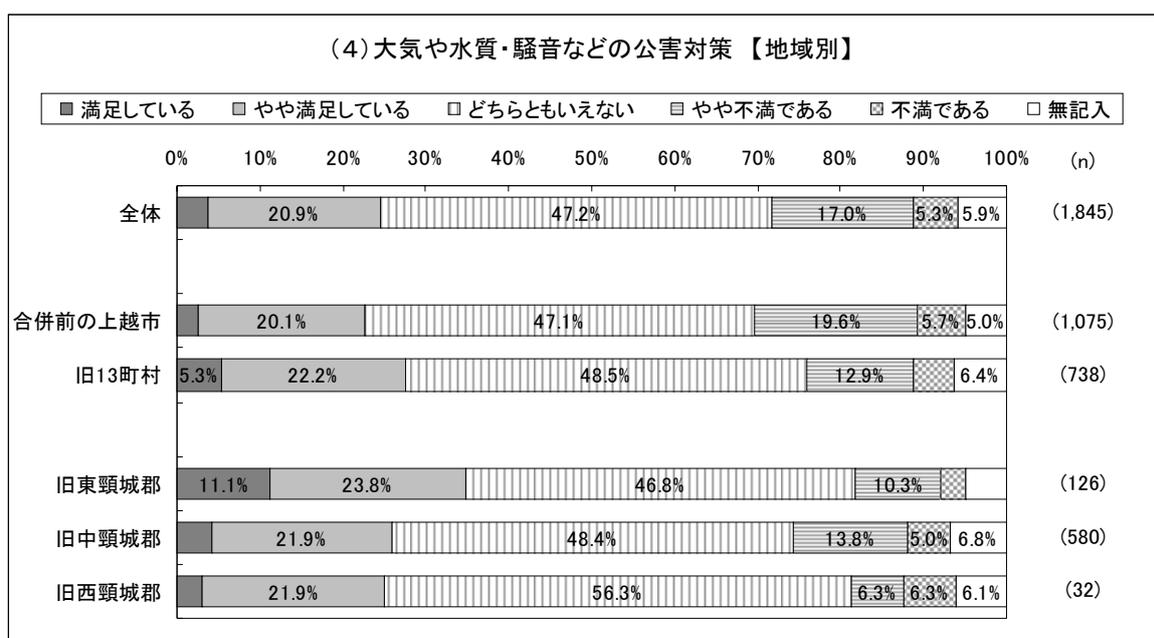


(4) 大気や水質・騒音などの公害対策

<クロス集計（性別・年代別）>

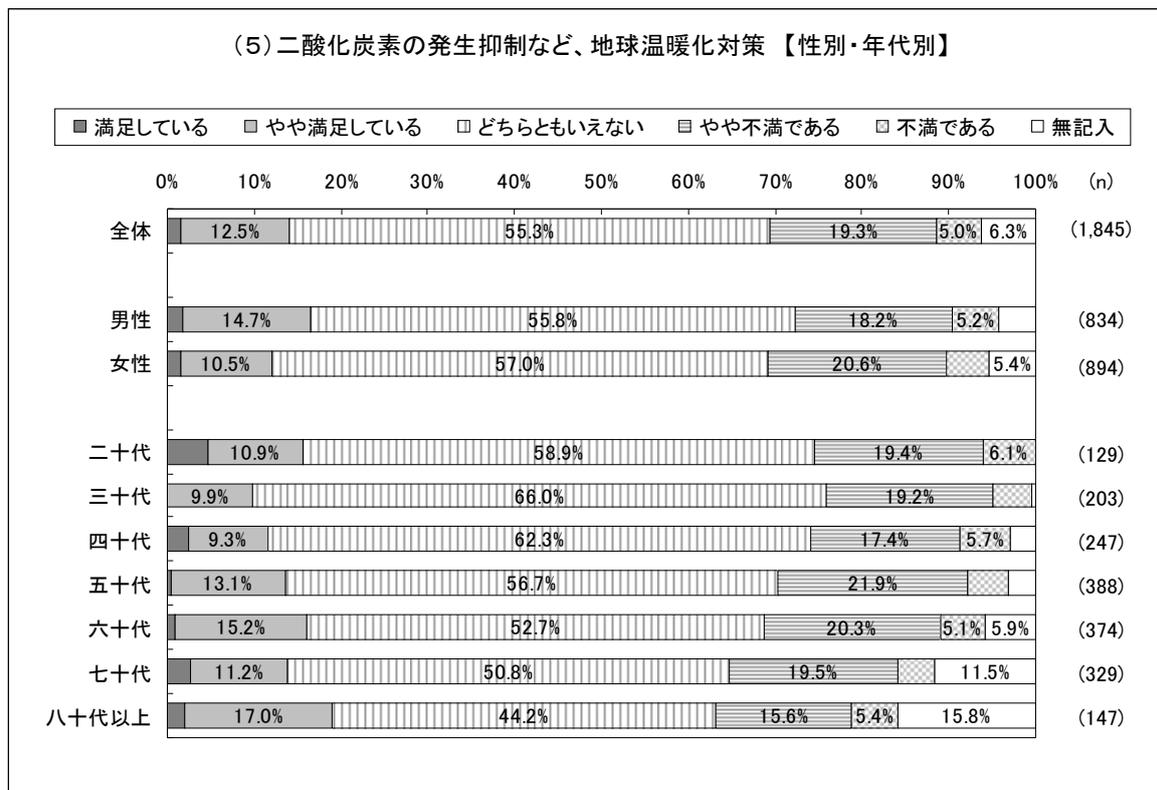


<クロス集計（地域別）>

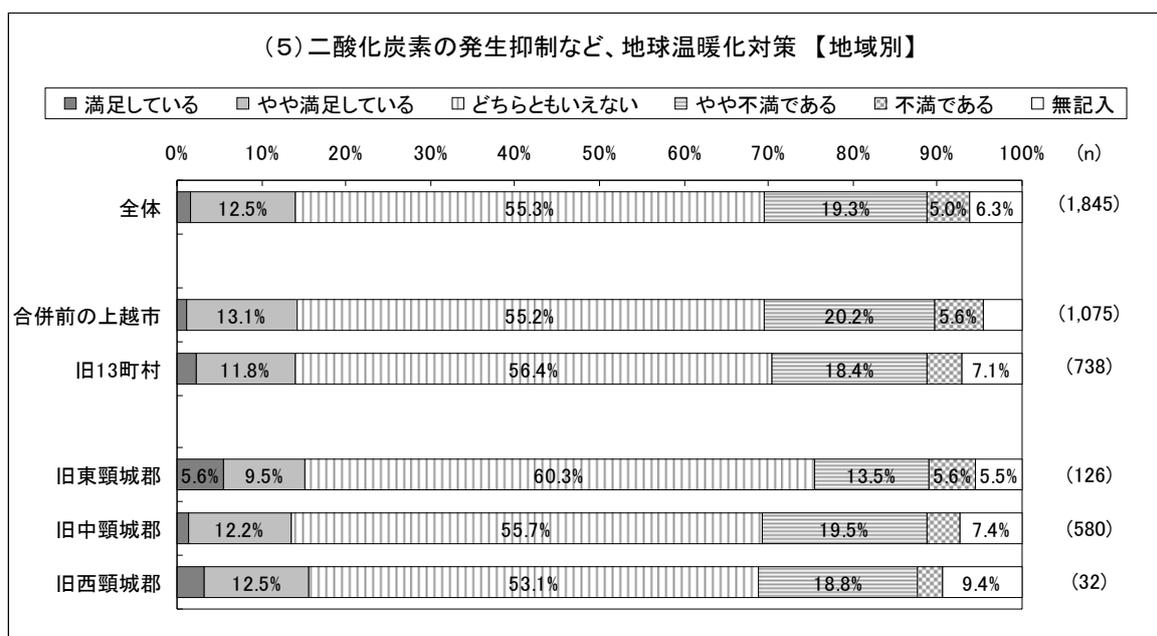


(5) 二酸化炭素の発生抑制など、地球温暖化対策

<クロス集計（性別・年代別）>

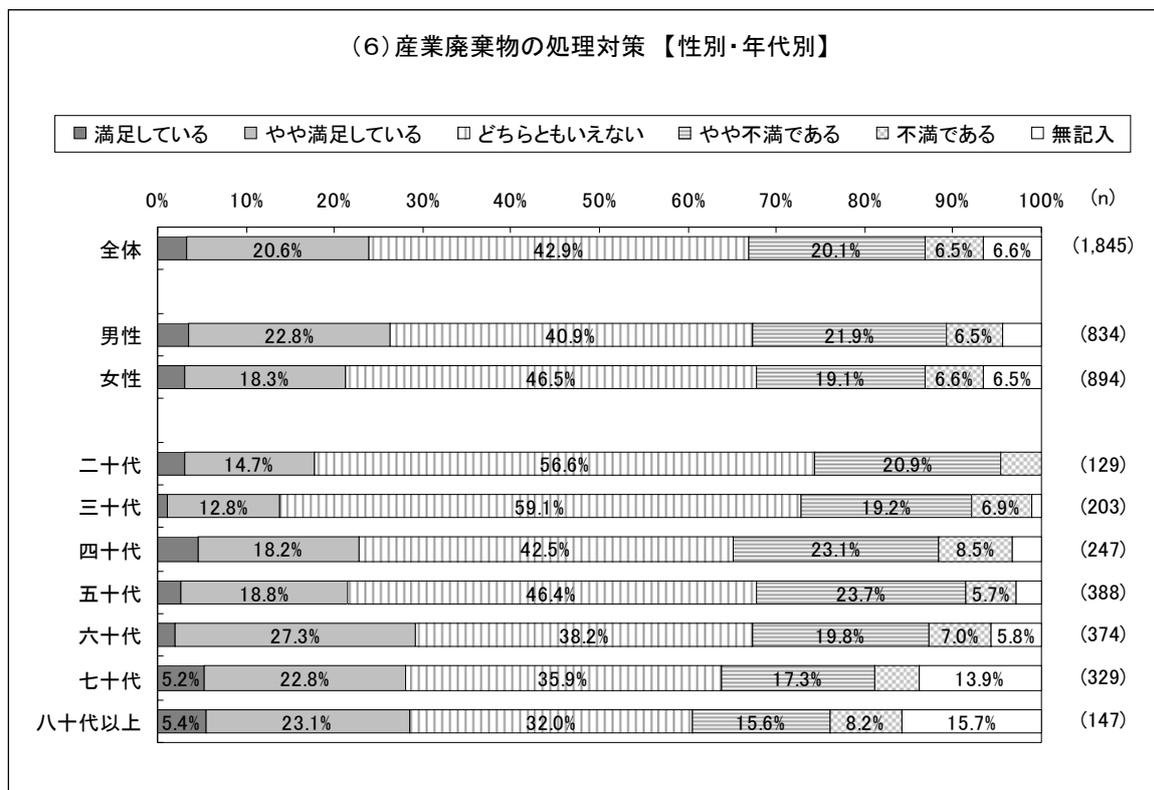


<クロス集計（地域別）>

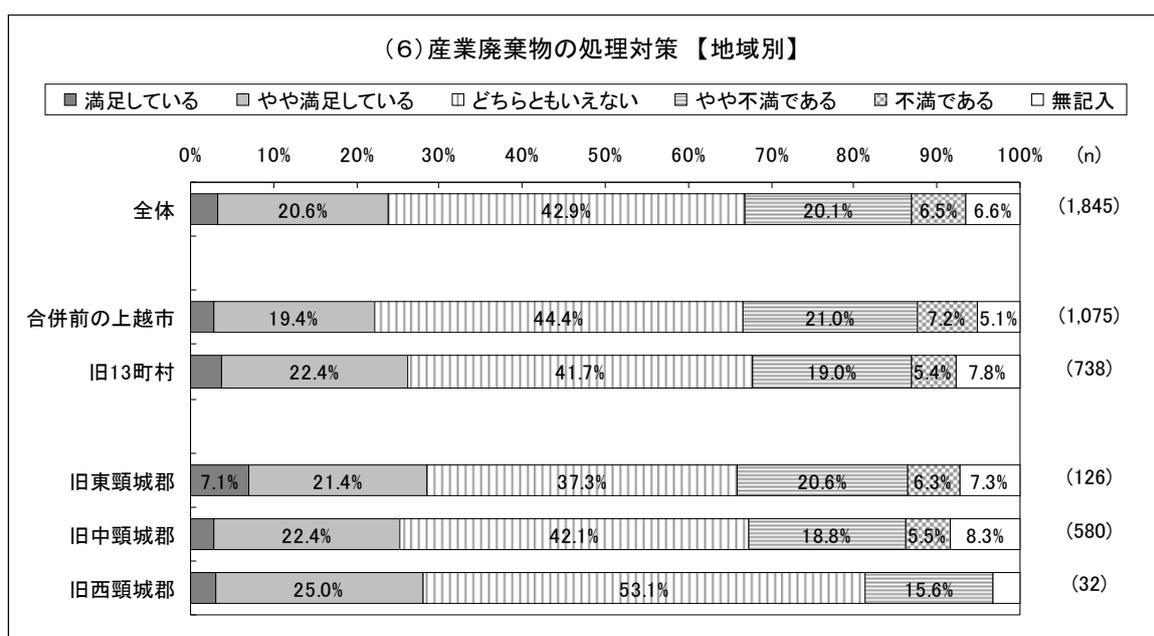


(6) 産業廃棄物の処理対策

<クロス集計（性別・年代別）>

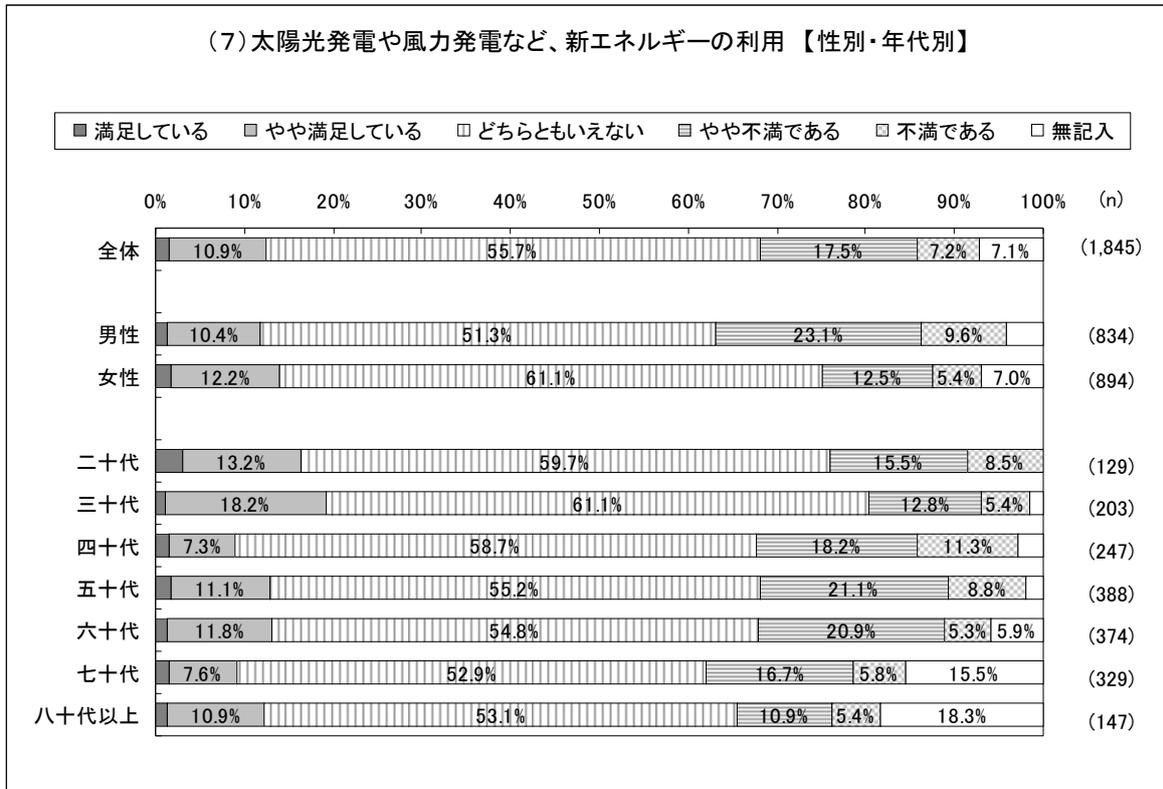


<クロス集計（地域別）>

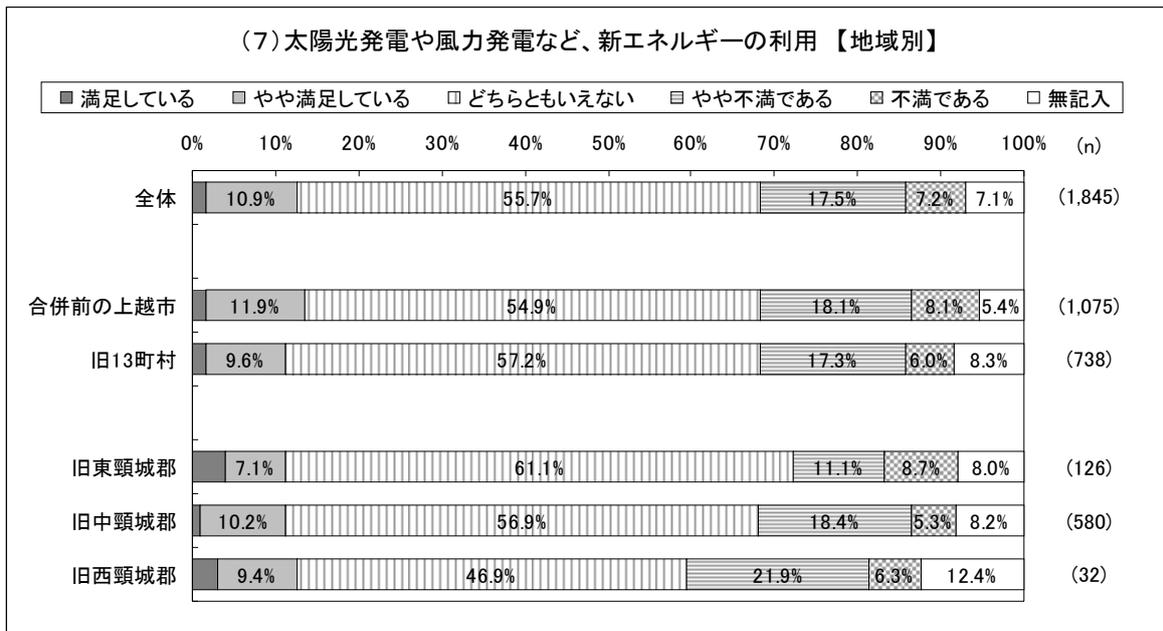


(7) 太陽光発電や風力発電など、新エネルギーの利用

<クロス集計（性別・年代別）>

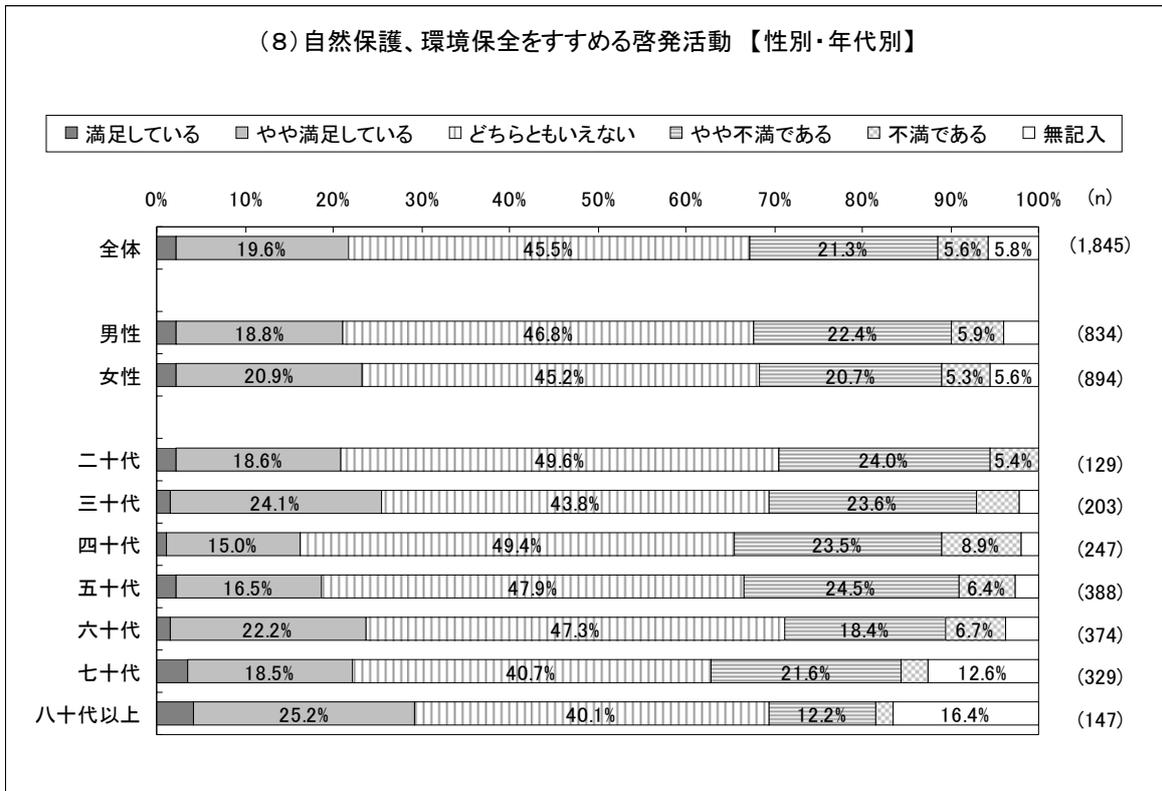


<クロス集計（地域別）>

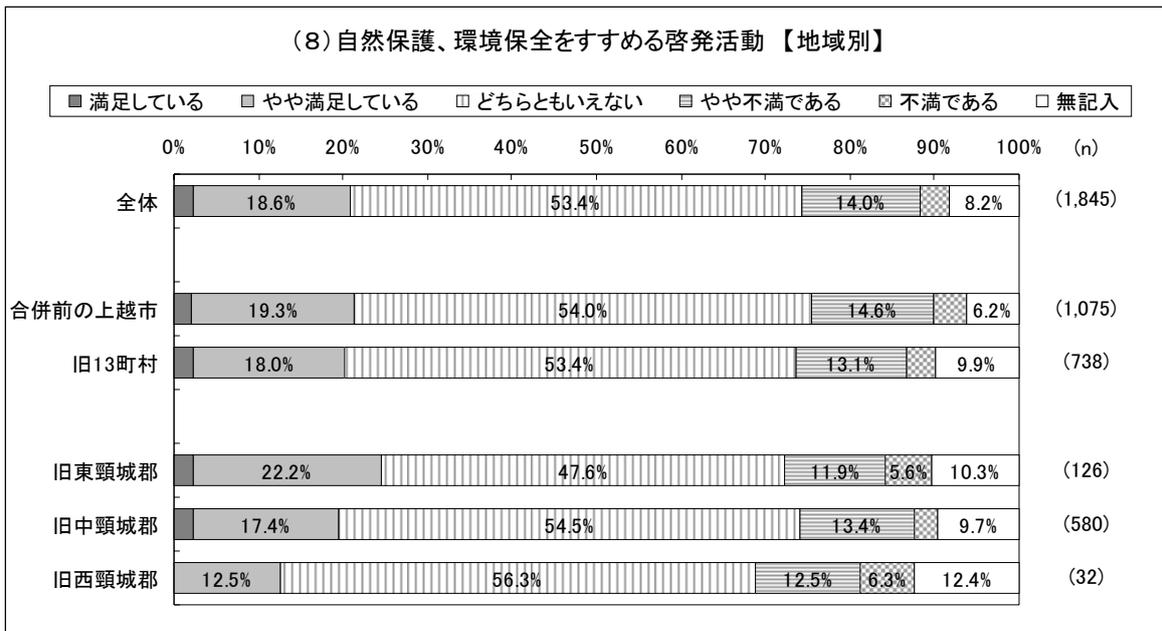


(8) 自然保護、環境保全をすすめる啓発活動

<クロス集計（性別・年代別）>

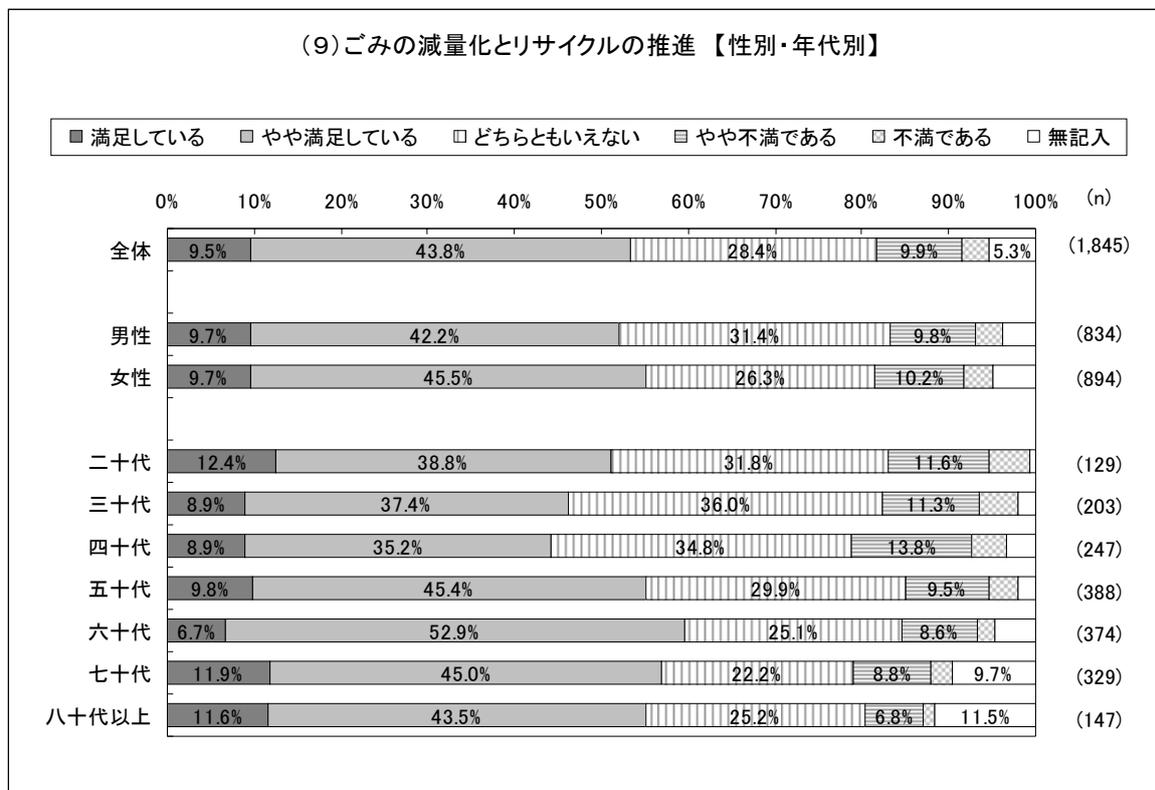


<クロス集計（地域別）>

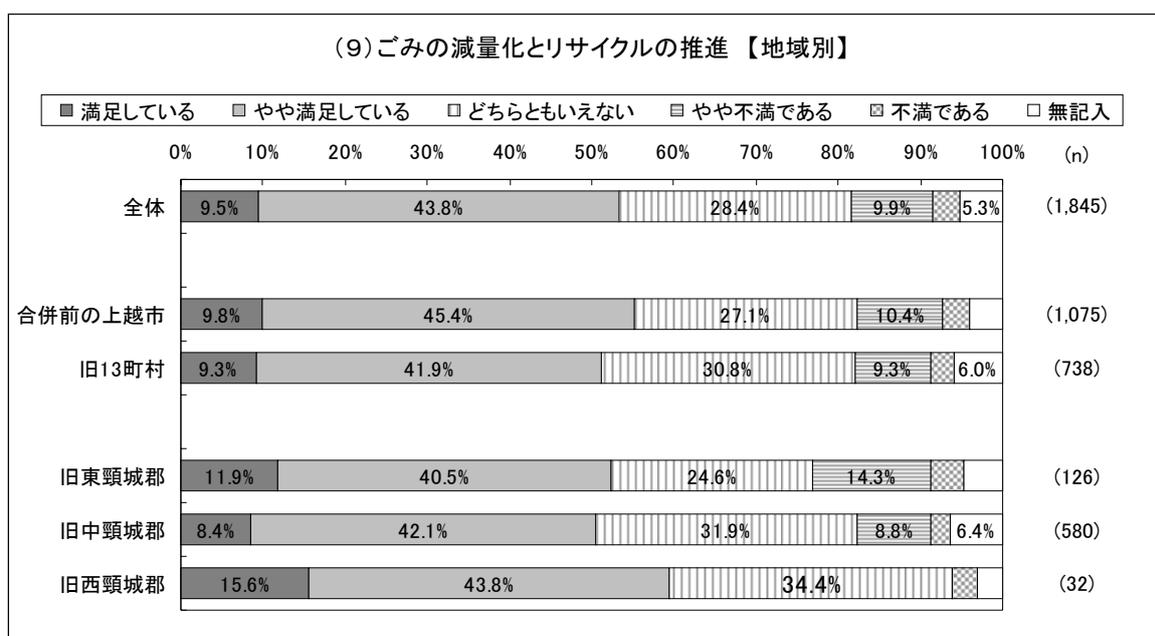


(9) ごみの減量化とリサイクルの推進

<クロス集計（性別・年代別）>

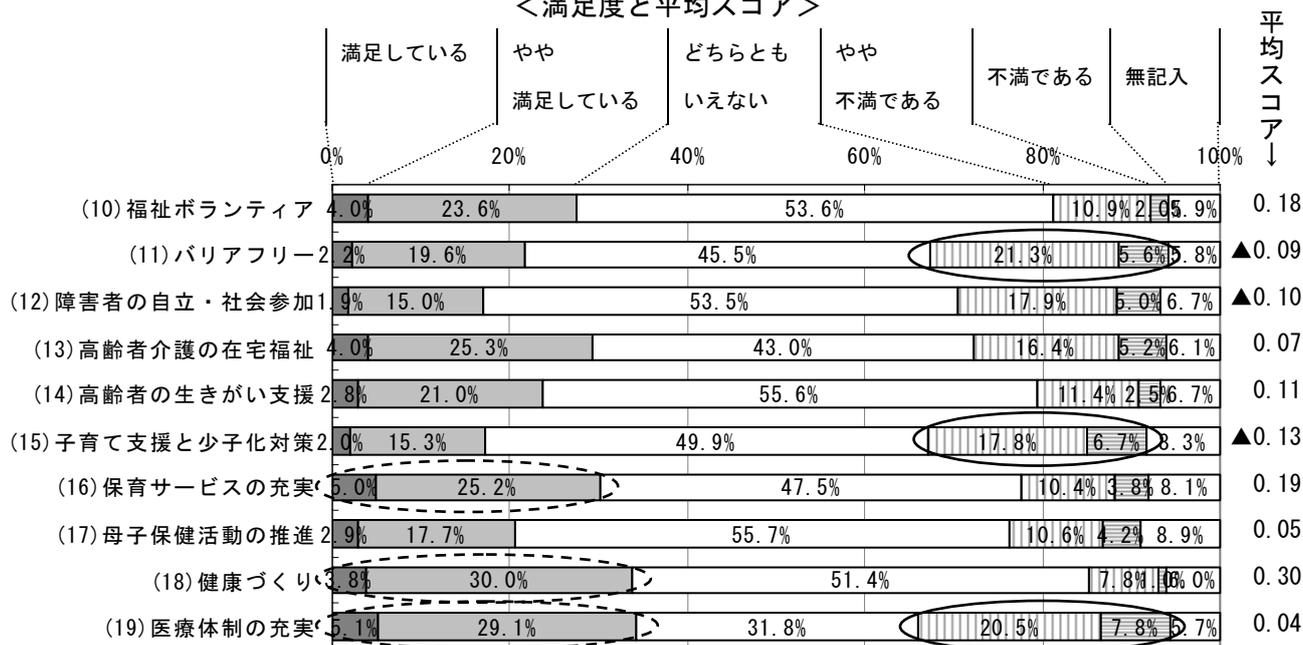


<クロス集計（地域別）>



● 健康福祉分野 ●

＜満足度と平均スコア＞



分野の平均スコア 0.06
 (全体平均スコア ▲0.01)

＜前回調査との比較：満足度の高い取組＞

※平成 17 年度の数値はすべて「合併前の上越市」を対象とした結果を用いているため、上記のグラフと数値が異なる。

順位	平成 14 年度 (11 項目中 5 項目まで選択)		平成 17 年度	
	取組	割合	取組	割合
1	救急・休日・夜間の医療体制を充実させる	21.1%	救急、休日、夜間の医療体制の充実	37.9%
2	健康づくり運動など、地域全体での健康増進の取り組みを進める	16.8%	健康意識の向上と健康づくり活動の推進	34.1%
3	保育園の時間延長、24 時間保育など保育体制を整える	15.2%	保育園の時間延長など、保育サービスの充実	28.6%
4	生きがい対策や生活支援施設の整備を進める	11.6%	高齢者の介護のための在宅福祉制度と施設整備	27.2%
5	ホームヘルパーや在宅福祉など在宅介護の体制の充実を進める	11.1%	地域福祉を支えてくださる市民のボランティア活動への支援	25.2%

「満足している」「やや満足している」の合計が高い取組は、上位から順に、「医療体制の充実」、「健康づくり」、「保育サービスの充実」である。逆に、「不満である」「やや不満である」の合計が高い取組は、上位から順に、「医療体制の充実」、「バリアフリー」、「子育て支援と少子化対策」である。

「分野の平均スコア」は 0.06 で、「全体の平均スコア」-0.01 より高く、6 分野中 2 番目と、満足度の高い分野であるといえる。

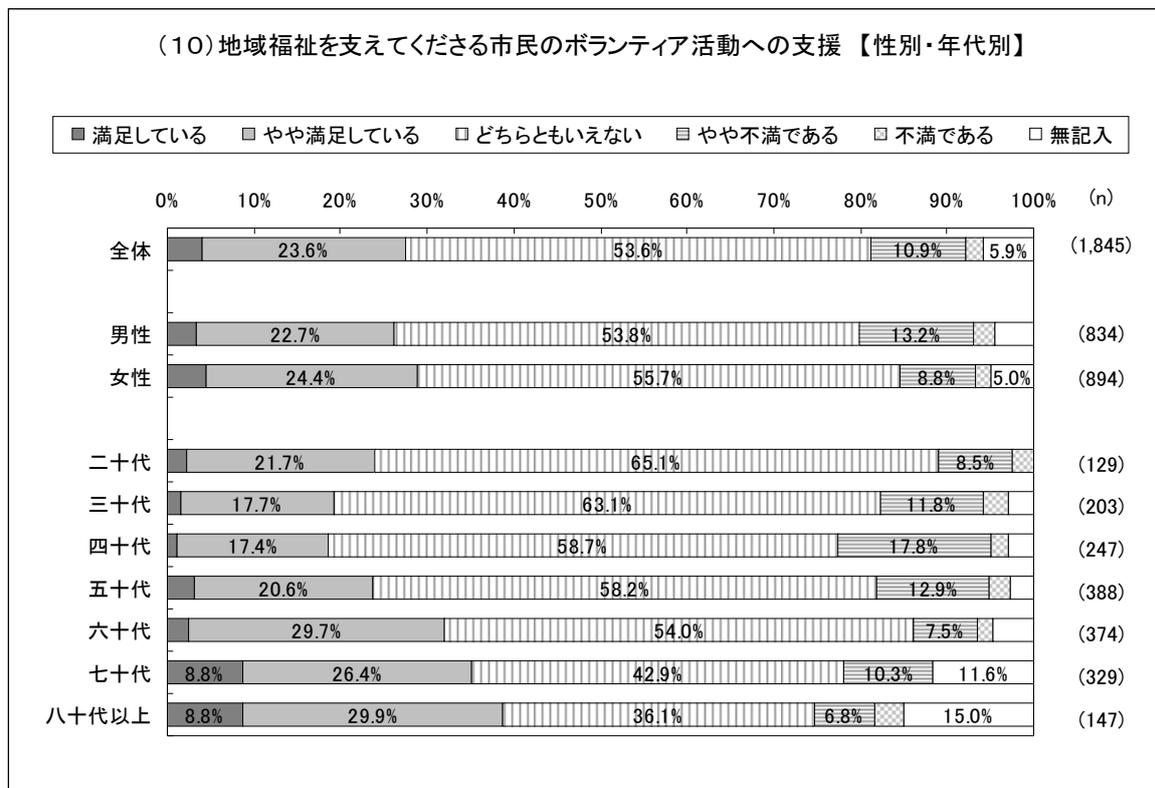
「平均スコア」の高い取組は、上位から順に、「健康づくり」、「保育サービスの充実」、「福祉ボランティア」である。逆に「平均スコア」の低い取組は、上位から順に、「子育て支援と少子化対策」、「バリアフリー」、「障害者の自立・社会参加」である。

「医療体制の充実」は満足と不満の両方が分野の中で最も多く、住民の判断が分かれている。満足度は、高い年代ほど高くなっているほか、旧 13 町村に比べて合併前の上越市の方が若干高くなっている。これは、合併前の上越市の方が救急医療の環境が整っているためであると考えられる。

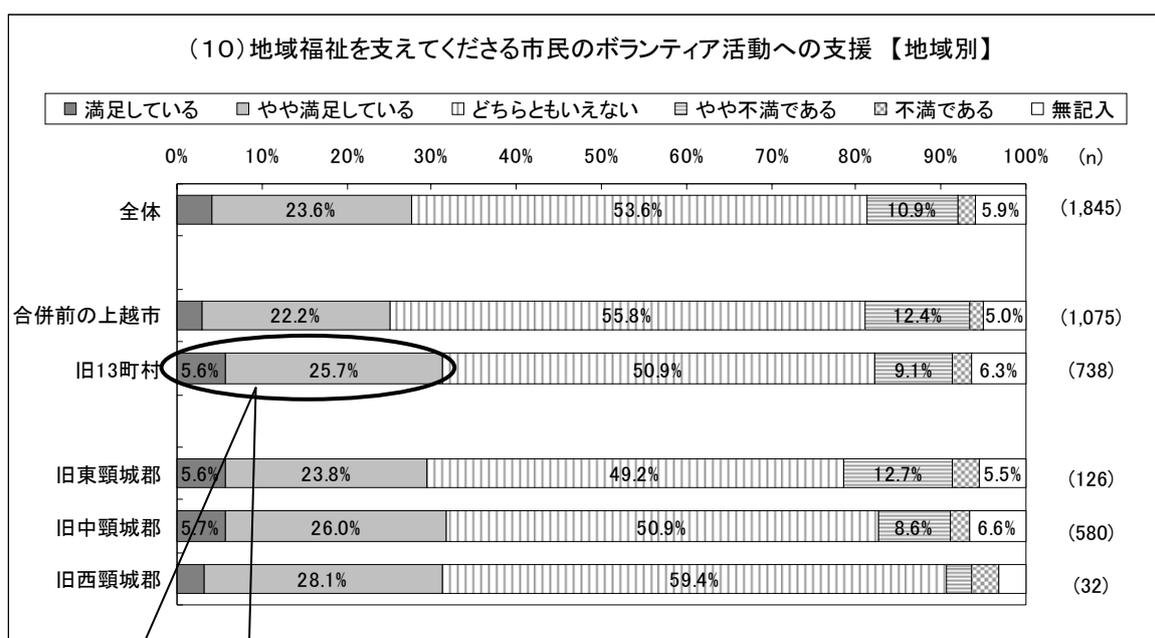
前回調査との比較では、上位 3 項目に変化がなく、前回 4 位の「生きがい支援」への満足度が低下した一方で、今回調査では「福祉ボランティア」への満足度が増加した。ボランティアが地域福祉の現場で大きな役割を担っていることがうかがわれる。

(10) 地域福祉を支えてくださる市民のボランティア活動への支援

<クロス集計（性別・年代別）>



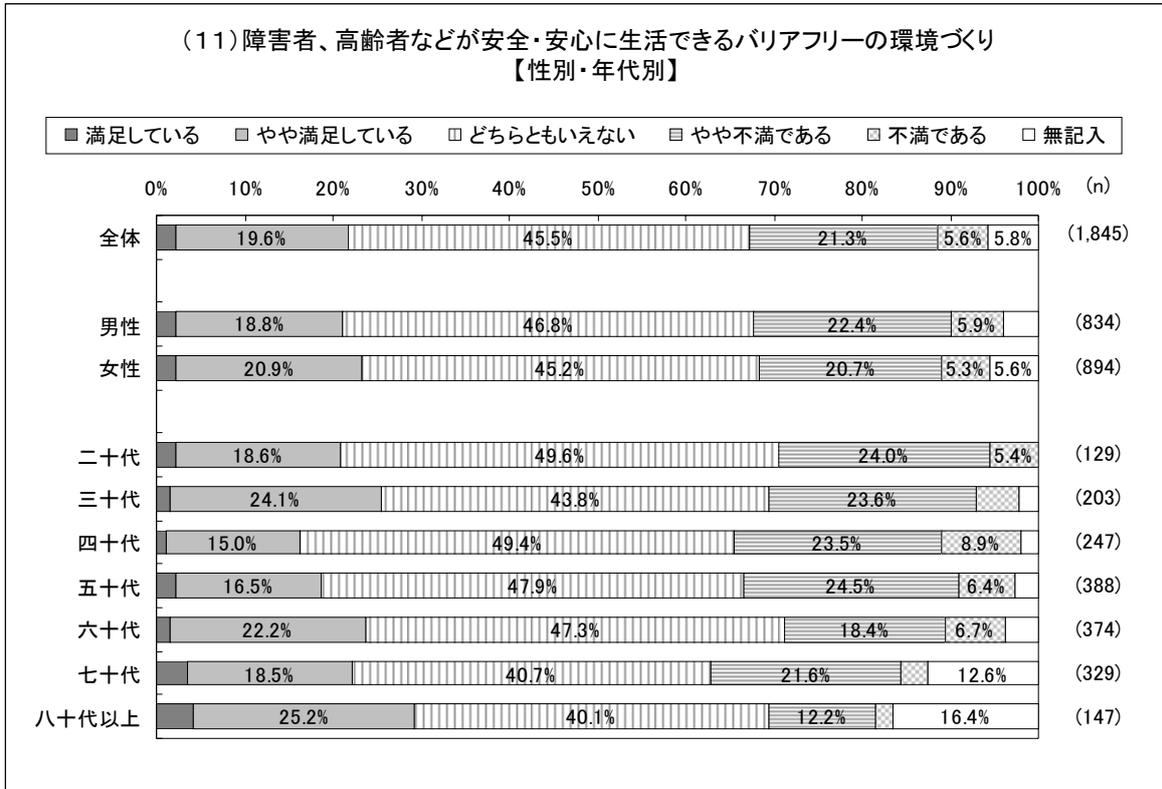
<クロス集計（地域別）>



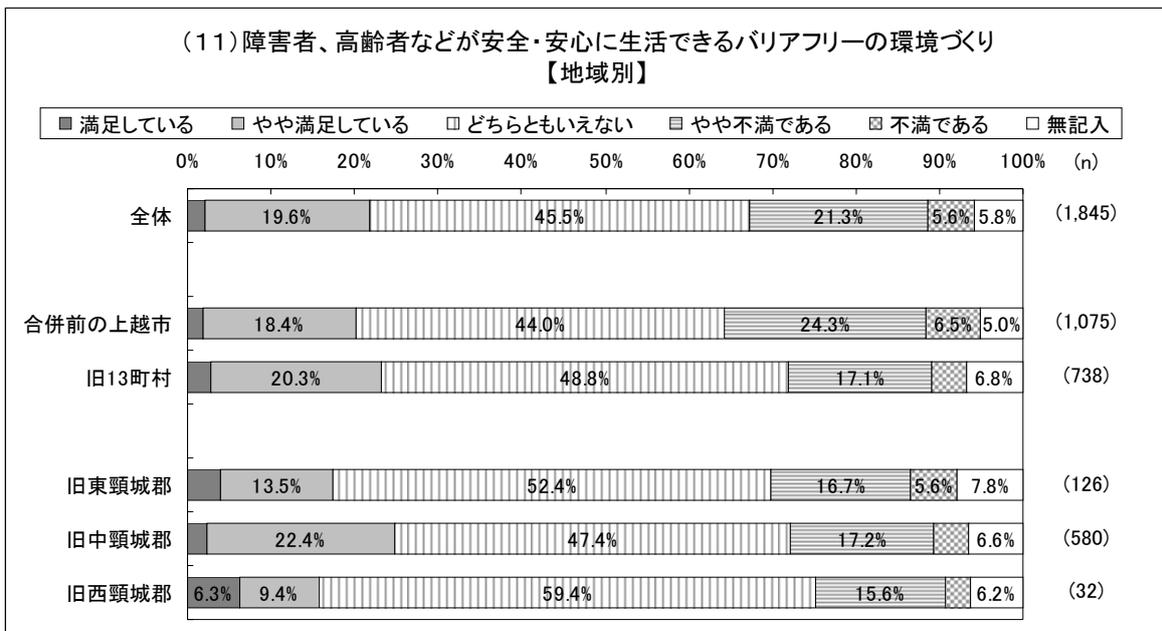
旧13町村の満足度のほうが高い。

(11) 障害者、高齢者などが安全・安心に生活できるバリアフリーの環境づくり

<クロス集計（性別・年代別）>

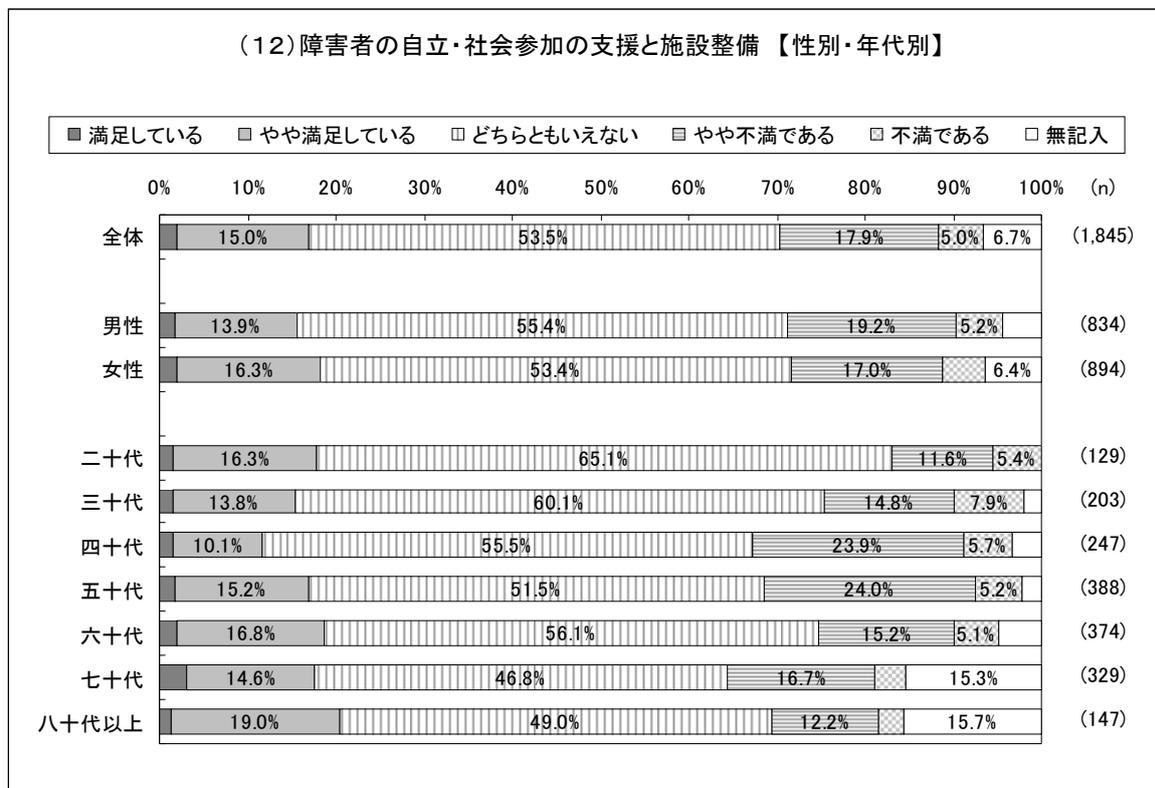


<クロス集計（地域別）>

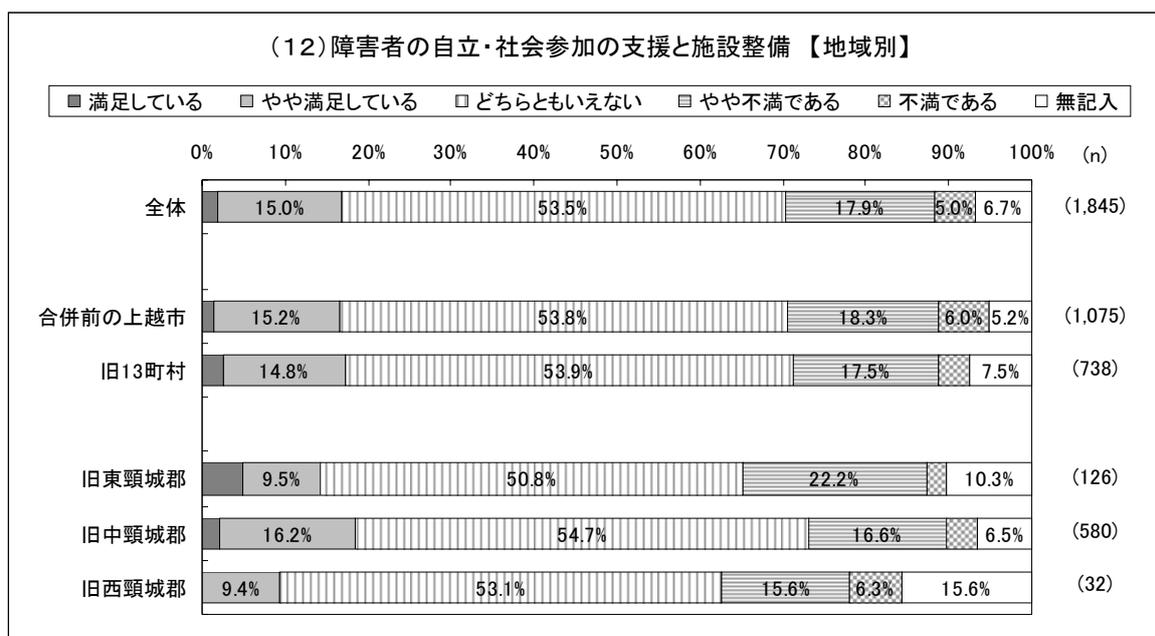


(12) 障害者の自立・社会参加の支援と施設整備

<クロス集計（性別・年代別）>

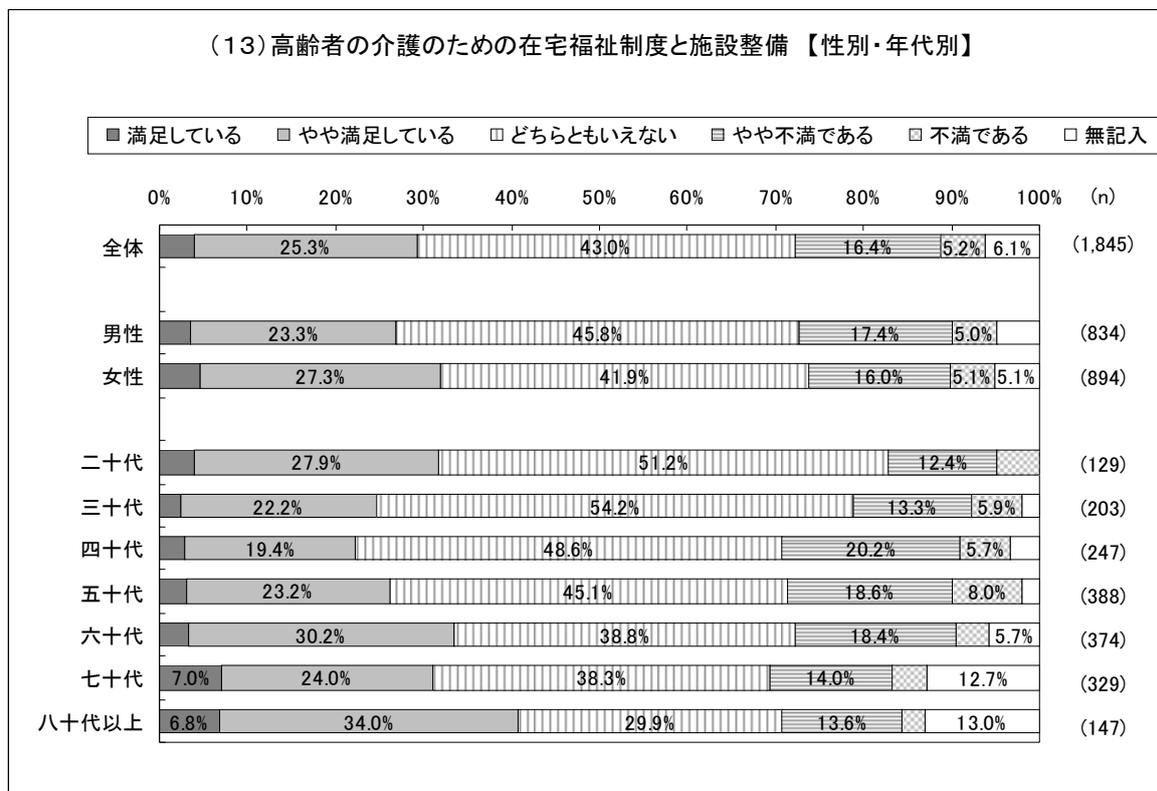


<クロス集計（地域別）>

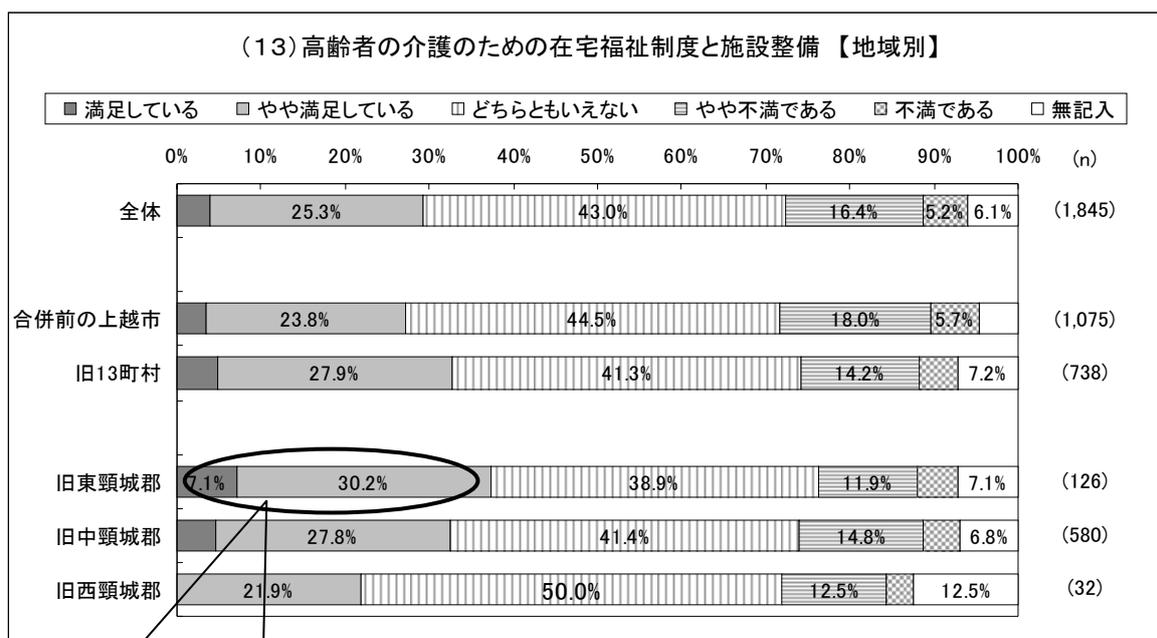


(13) 高齢者の介護のための在宅福祉制度と施設整備

<クロス集計（性別・年代別）>



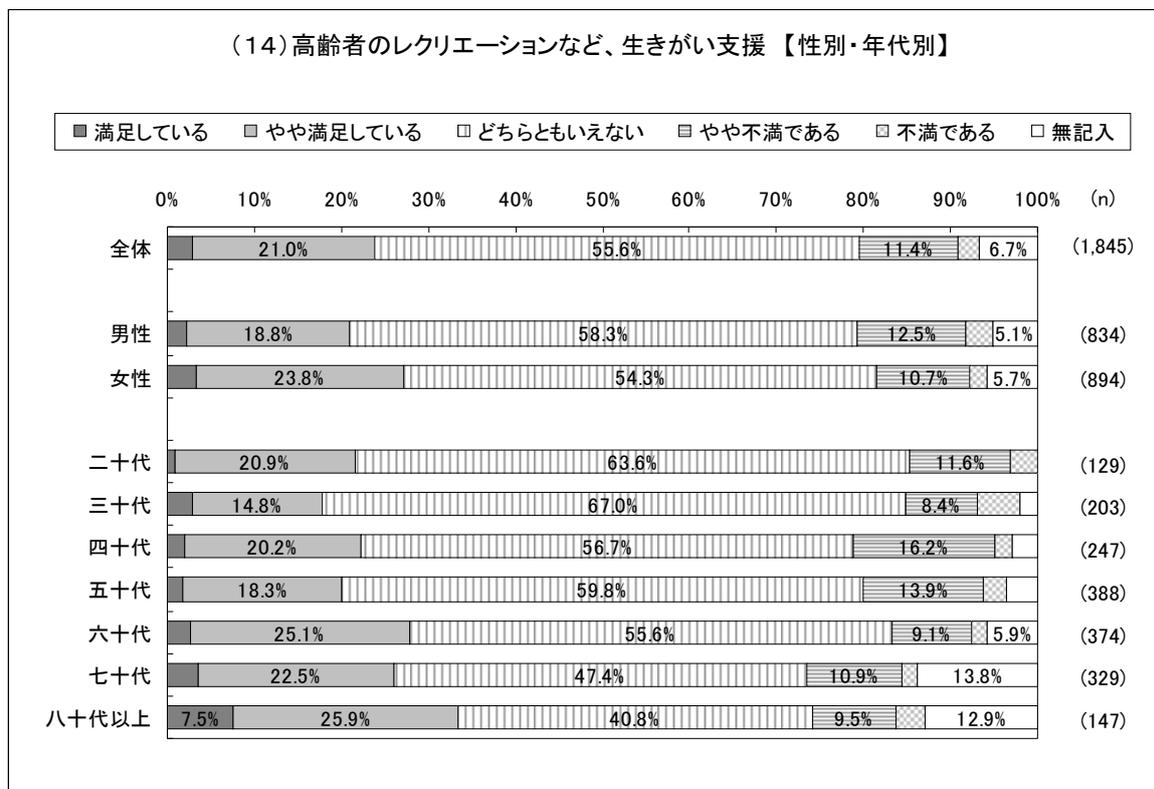
<クロス集計（地域別）>



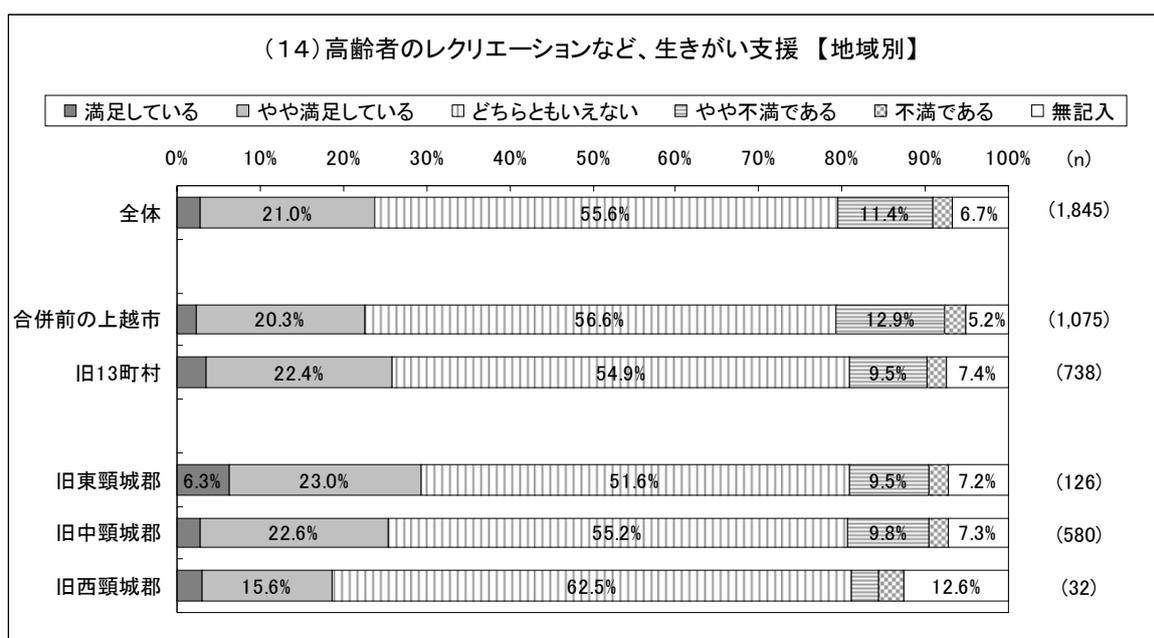
旧東頸城郡の満足度が高い。

(14) 高齢者のレクリエーションなど、生きがい支援

<クロス集計（性別・年代別）>

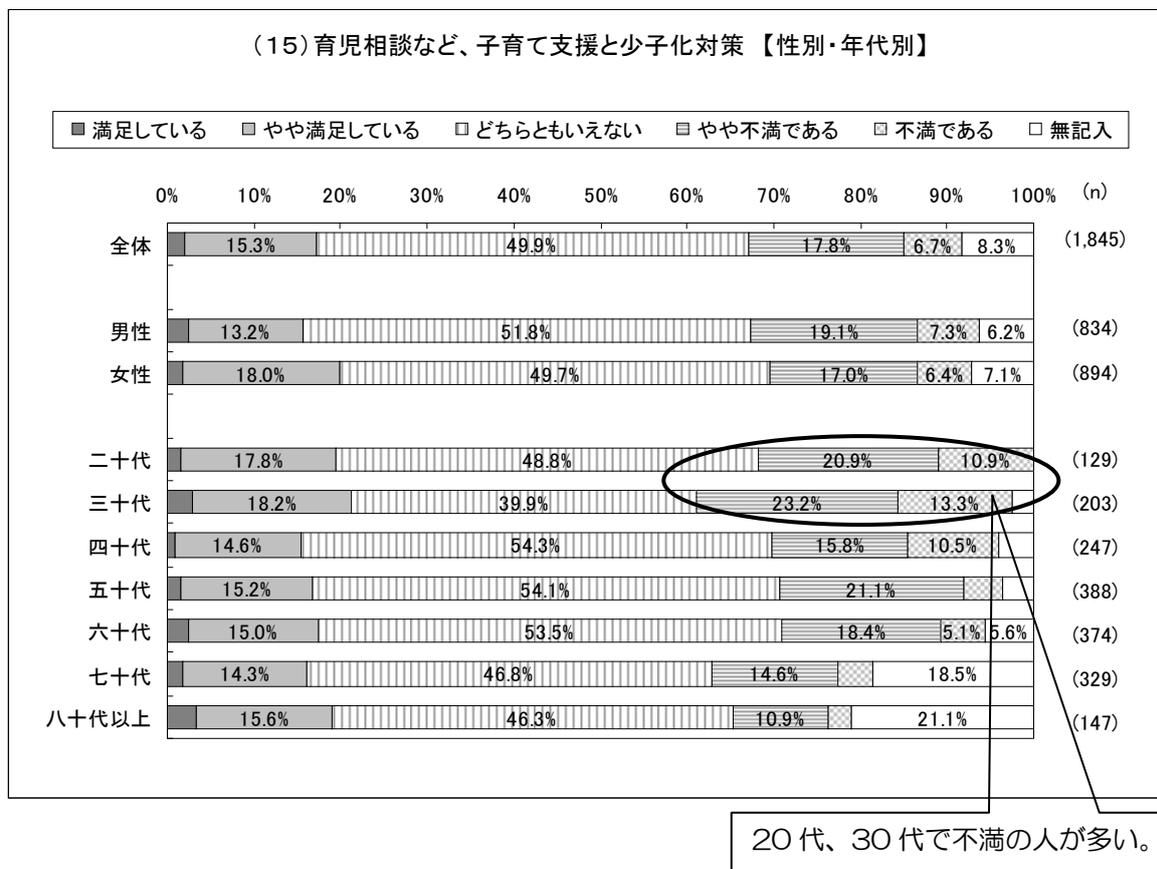


<クロス集計（地域別）>

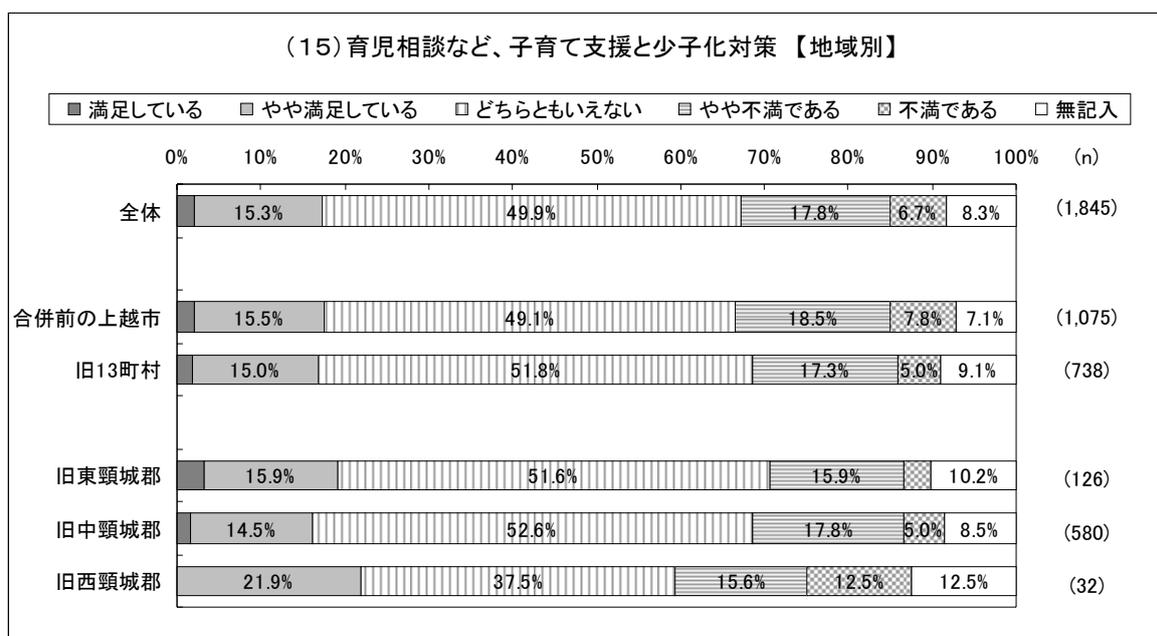


(15) 育児相談など、子育て支援と少子化対策

<クロス集計（性別・年代別）>

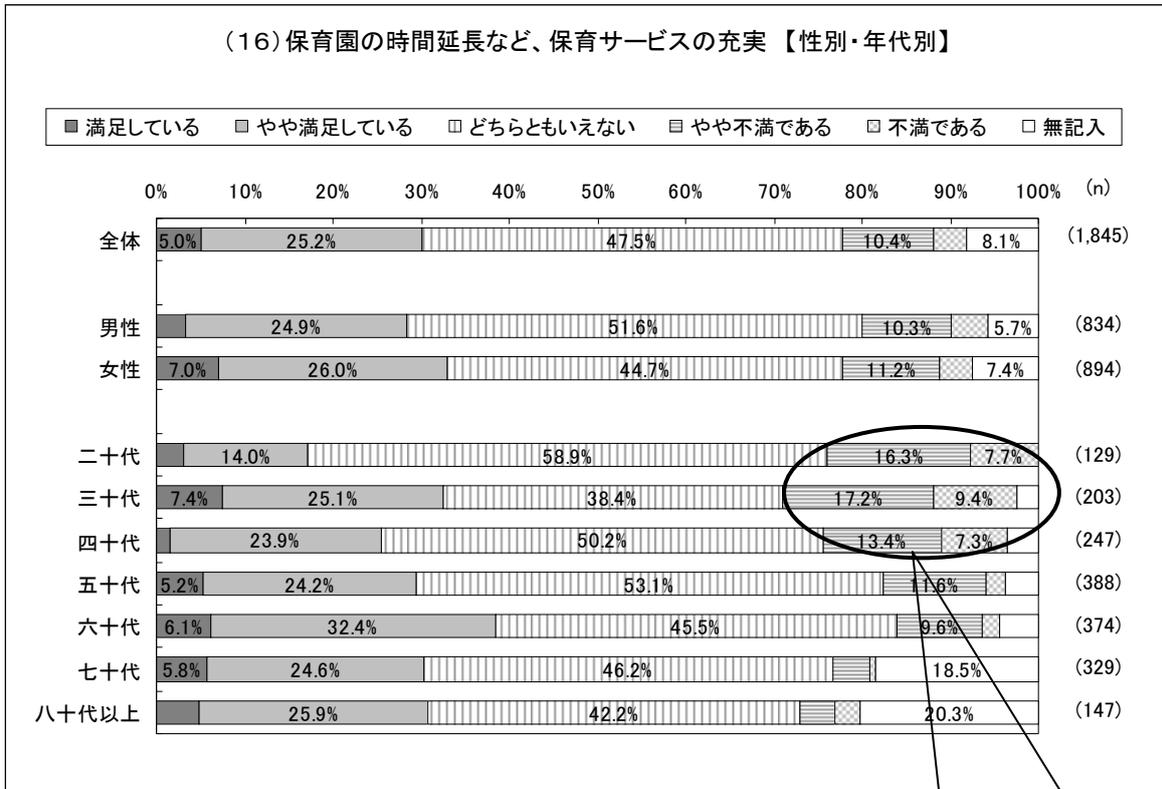


<クロス集計（地域別）>



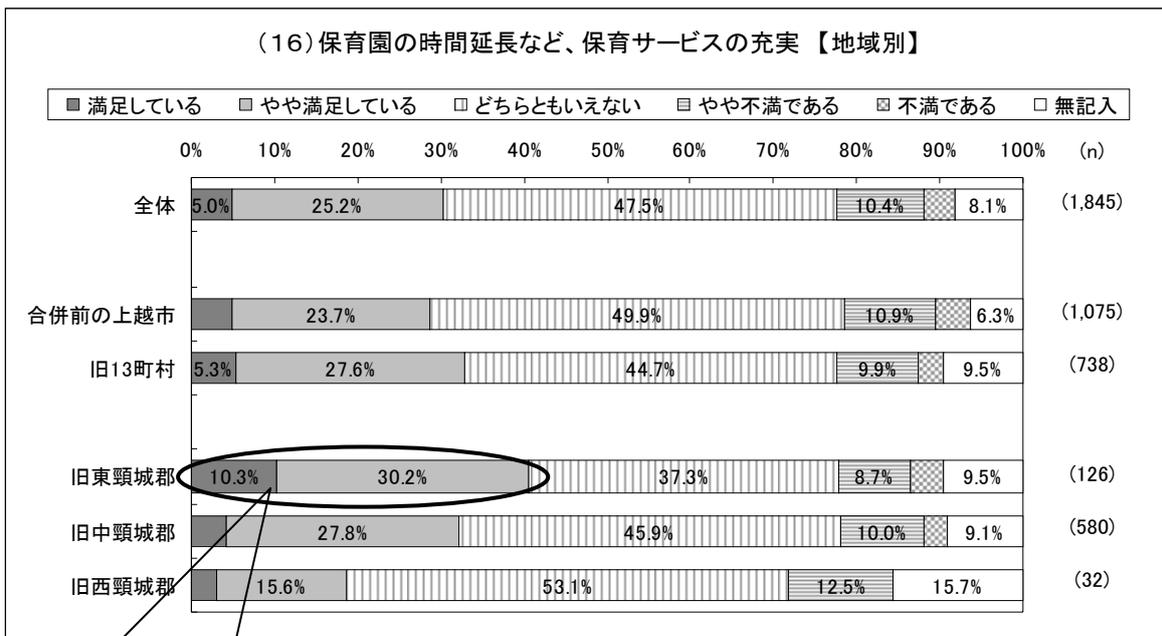
(16) 保育園の時間延長など、保育サービスの充実

<クロス集計（性別・年代別）>



20代、30代、40代で不満の人が多い。

<クロス集計（地域別）>



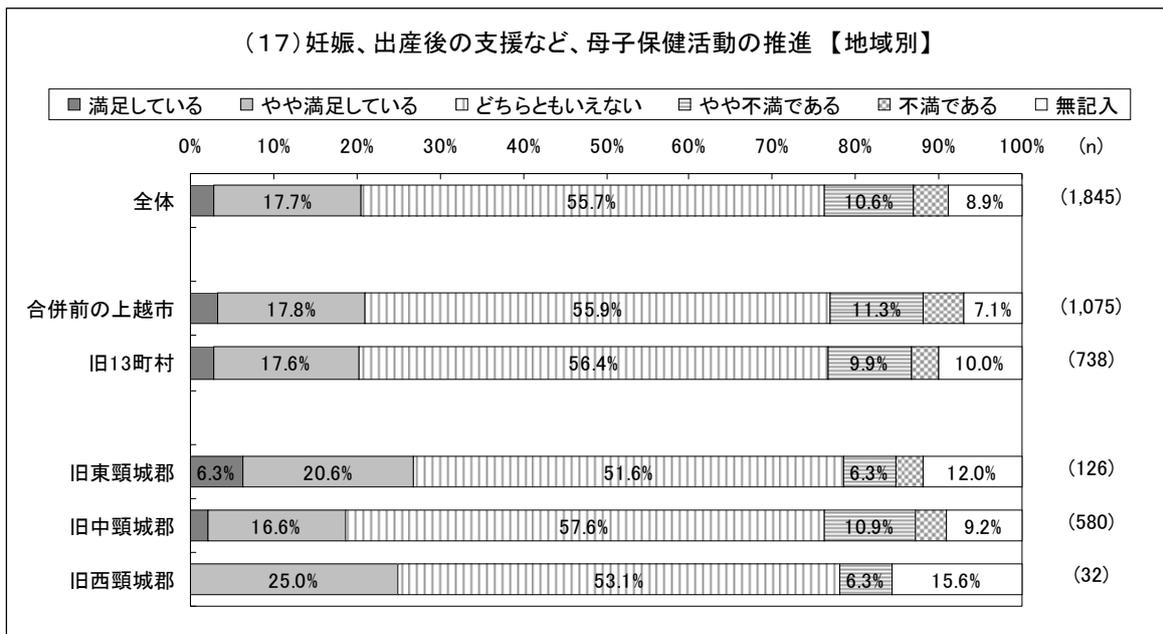
旧東頸城郡の満足度が高い。

(17) 妊娠、出産後の支援など、母子保健活動の推進

<クロス集計（性別・年代別）>

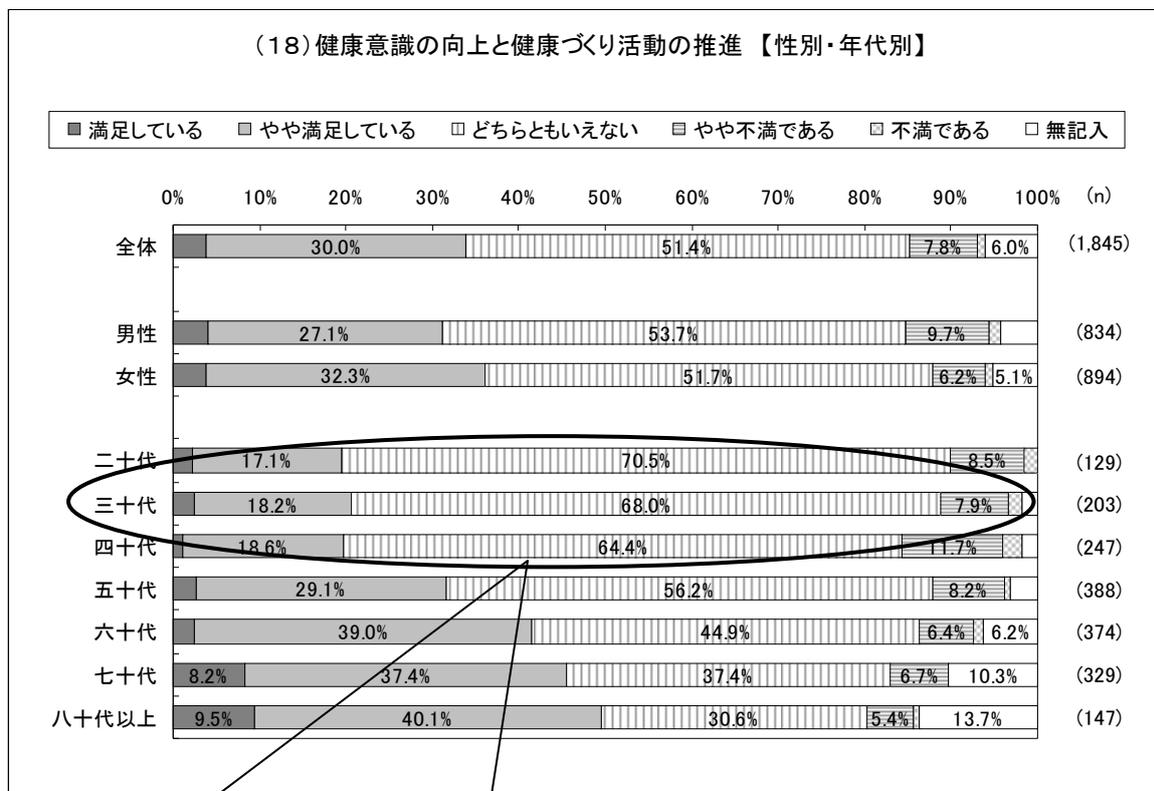


<クロス集計（地域別）>



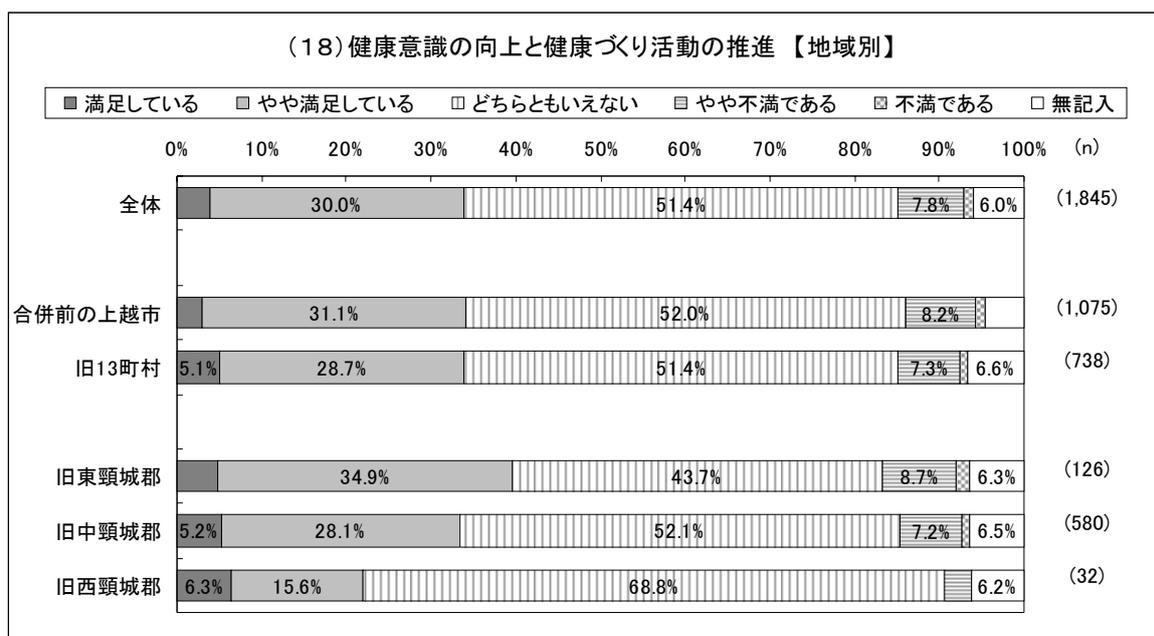
(18) 健康意識の向上と健康づくり活動の推進

<クロス集計(性別・年代別)>



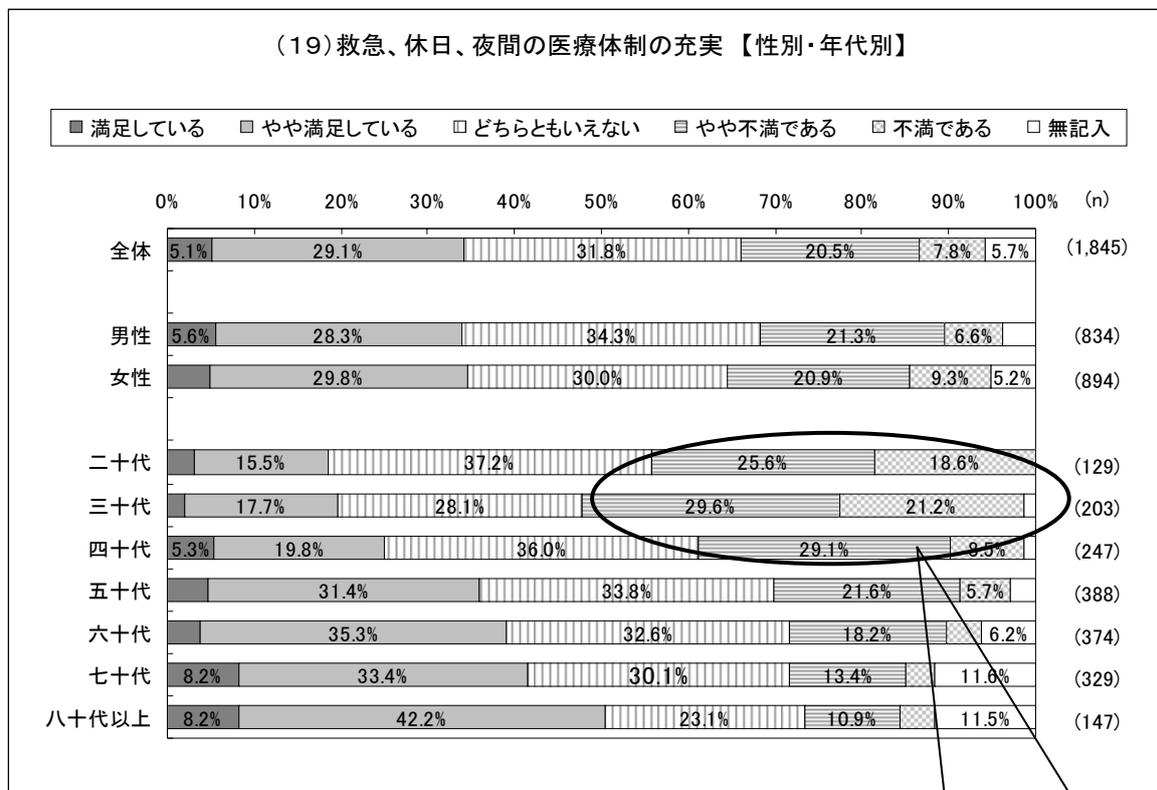
20代、30代、40代で満足度が低く、どちらともいえないと回答する無関心層が多い。

<クロス集計(地域別)>



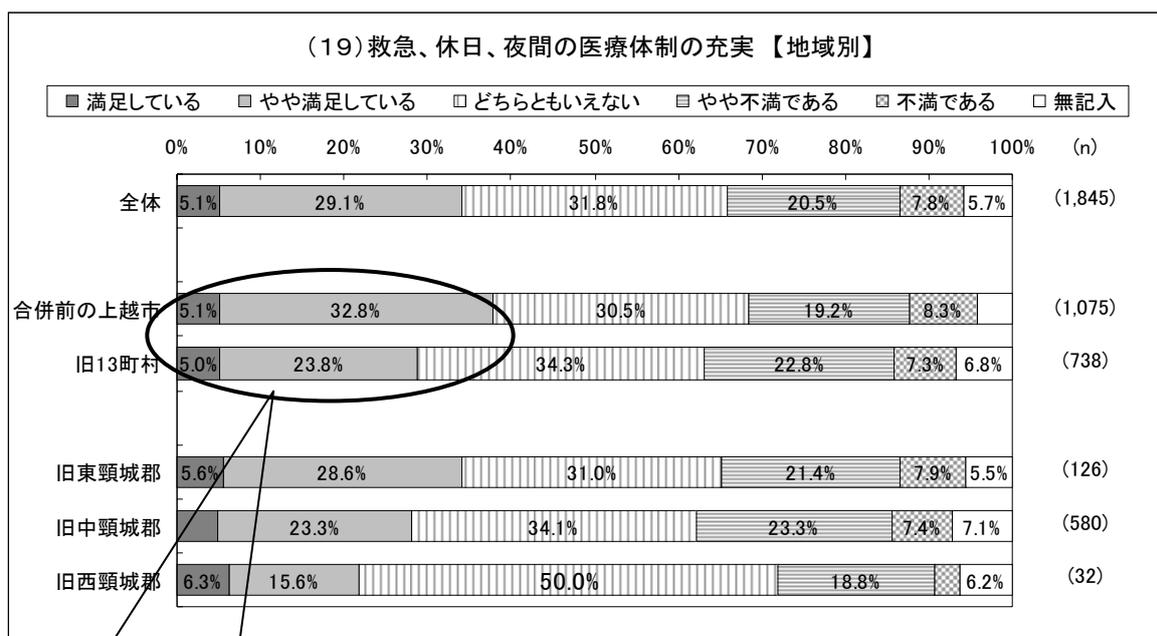
(19) 救急、休日、夜間の医療体制の充実

<クロス集計（性別・年代別）>



20代、30代、40代で不満の人が多い。

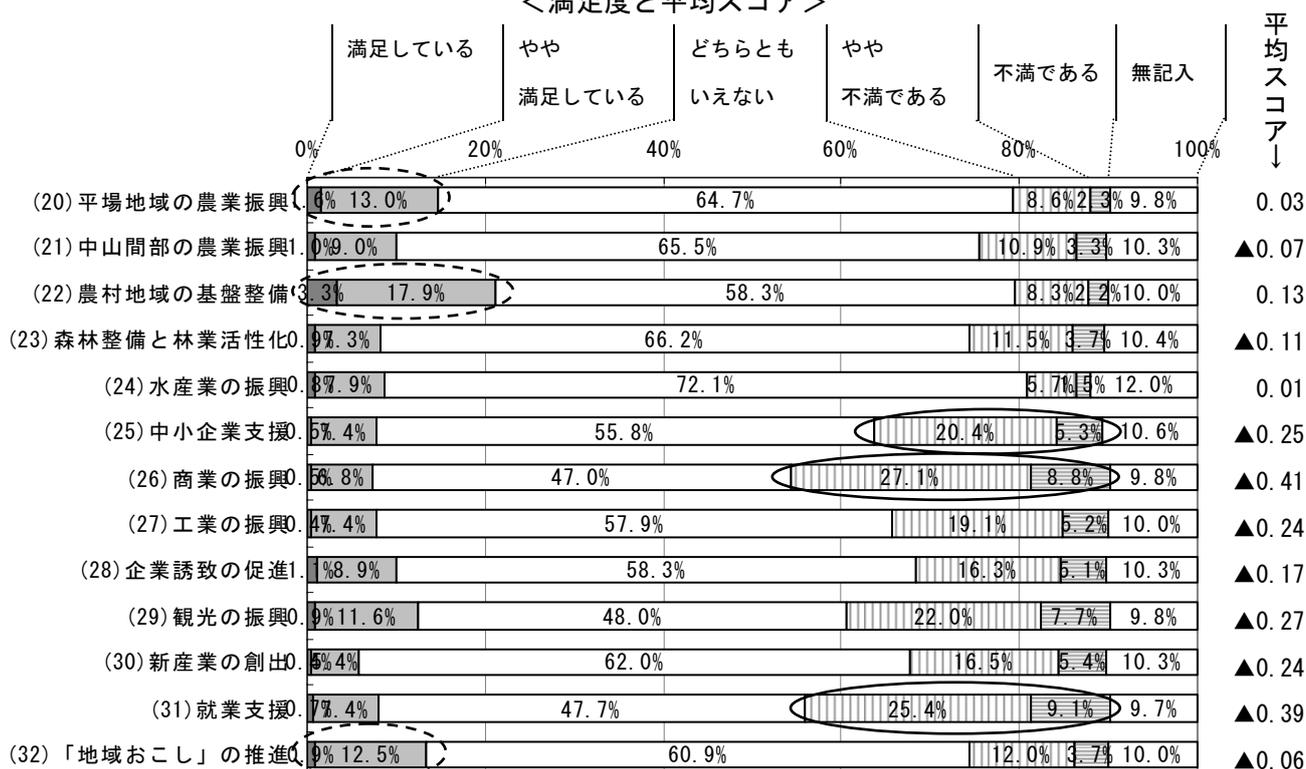
<クロス集計（地域別）>



合併前の上越市のほうが満足度が高い。

● 産業経済分野 ●

＜満足度と平均スコア＞



分野の平均スコア ▲0.16
(全体平均スコア ▲0.01)

＜前回調査との比較＞

※平成 17 年度の数値はすべて「合併前の上越市」を対象とした結果を用いているため、上記のグラフと数値が異なる。

順位	平成 14 年度 (11 項目中 5 項目まで選択)	平成 17 年度
1	地産地消の推進や、生産性の向上、園芸産地の育成など農業を振興する	9.1%
2	IT (情報技術)、サービス産業の充実などで新産業を育成する	9.1%
3	観光客を増やし、市の経済への効果 (観光客の消費拡大など) を強める	8.3%
4	流通業務団地の整備などにより流通産業 (運輸など) を振興する	8.2%
5	企業団地整備や支援制度の充実により企業誘致を進める	7.3%

「満足している」「やや満足している」の合計が高い取組は、「農村地域の基盤整備」、「平場地域の農業振興」、「『地域おこし』の推進」である。逆に、「不満である」「やや不満である」の合計が高い取組は、「商業の振興」、「就業支援」、「観光の振興」である。

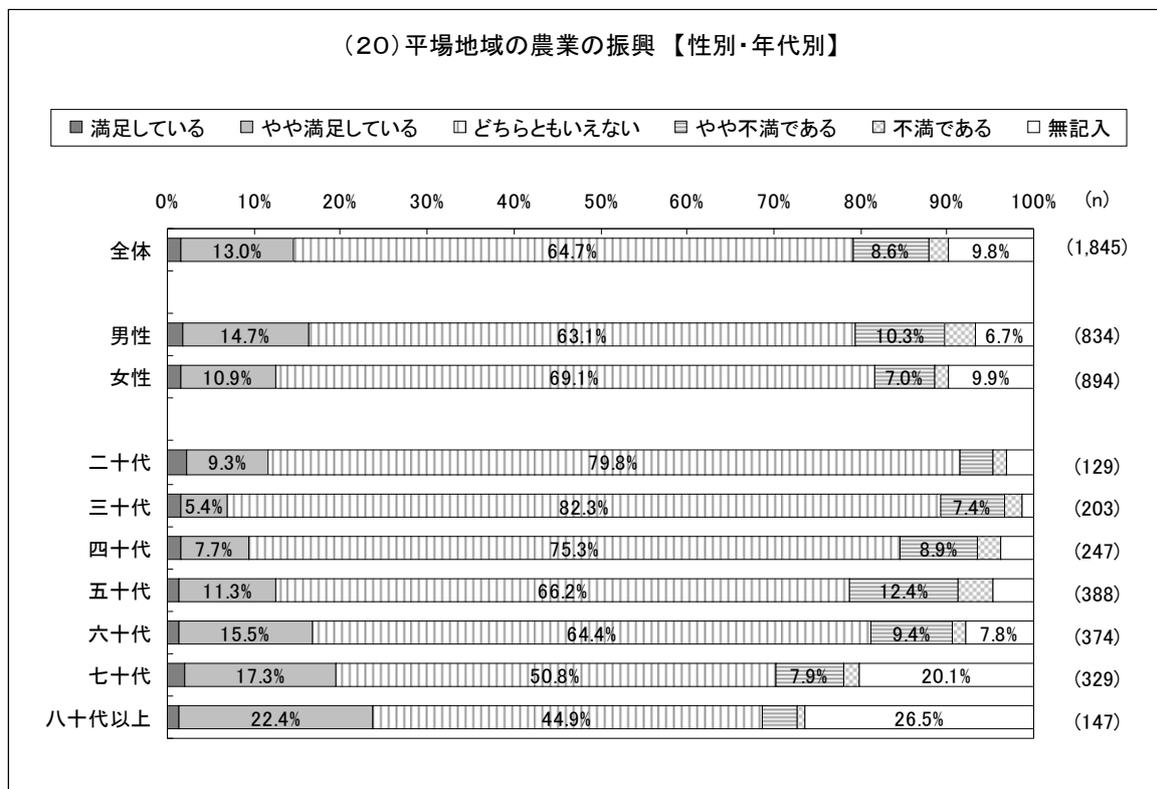
「分野の平均スコア」は-0.16で、「全体の平均スコア」-0.01より低く、6分野中最低と、満足度の最も低い分野であるといえる。また、全体的に「どちらでもない」の回答が多く、若い年代を始めとして、市民の関心が低い分野であると考えられる。

「平均スコア」の高い取組は、上位から順に、「農村地域の基盤整備」、「平場地域の農業振興」、「水産業の振興」である。逆に「平均スコア」の低い取組は、上位から順に、「商業の振興」、「就業支援」、「中小企業支援」である。

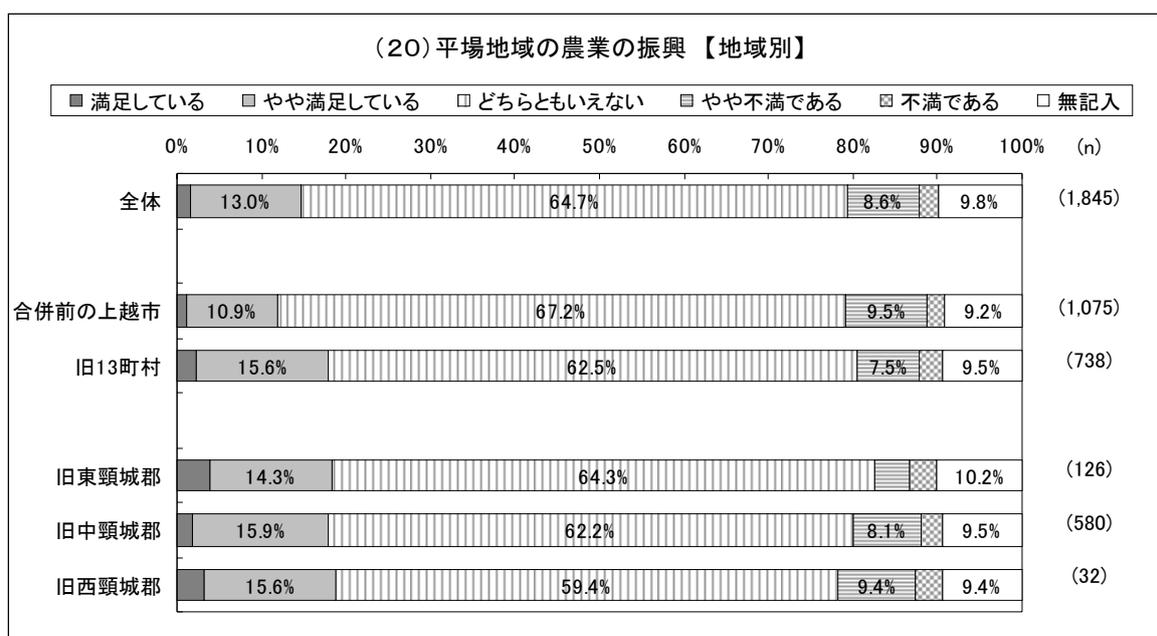
前回調査との比較でみると、今回調査では農業関連の取組が多いが、これは市町村合併によって農地の割合が増え、市の特性が変化したので農業関連の質問項目を細分化したためである。農業に対する満足度は前回調査でも 1 位であり、前回に引き続き満足度の高い取組であるといえる。

(20) 平場地域の農業の振興

<クロス集計 (性別・年代別)>

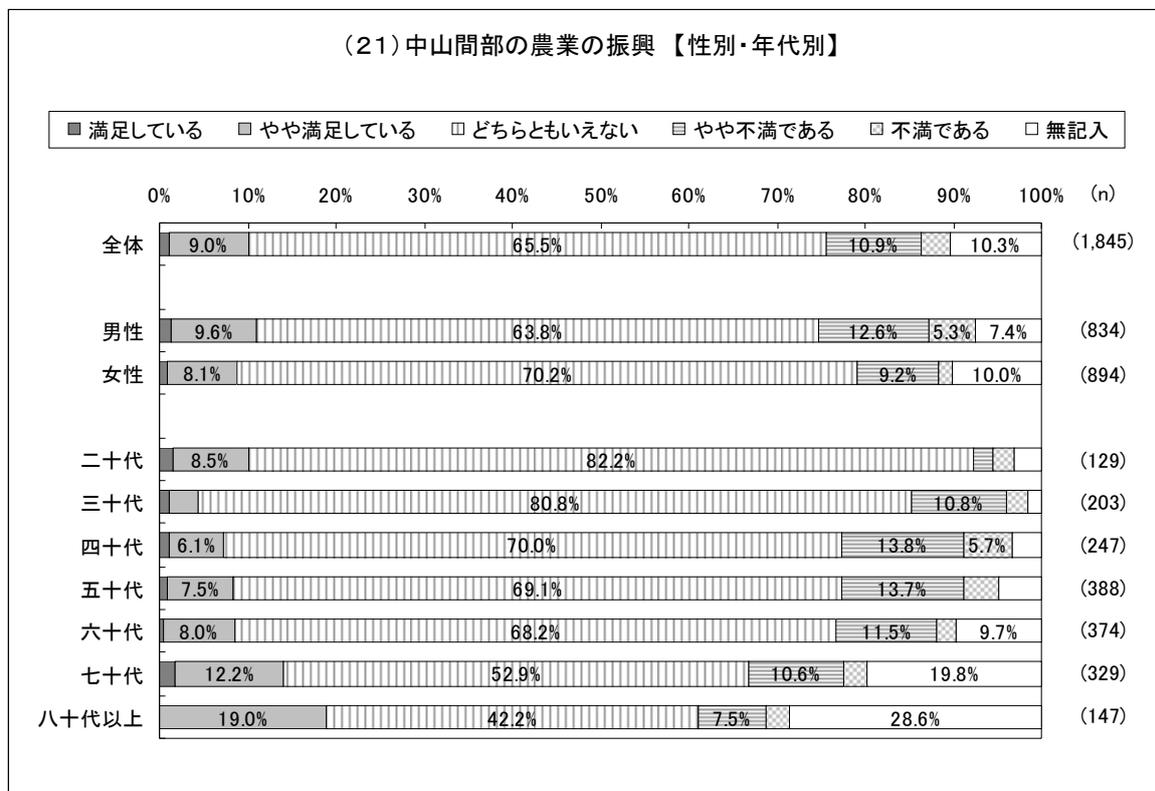


<クロス集計 (地域別)>

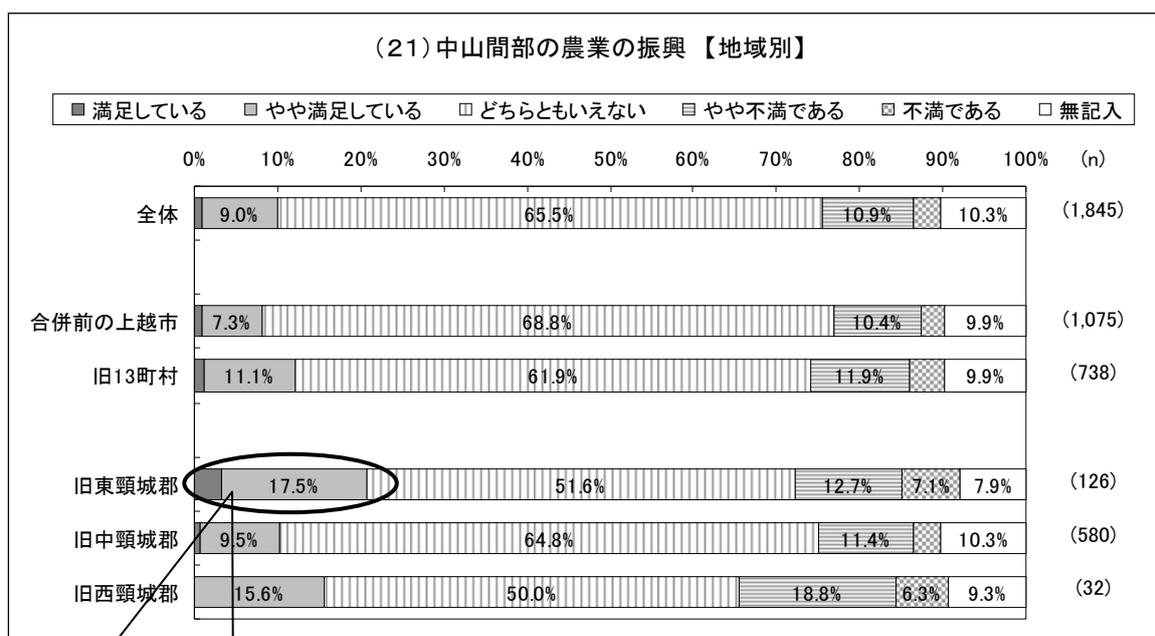


(21) 中山間部の農業の振興

<クロス集計（性別・年代別）>



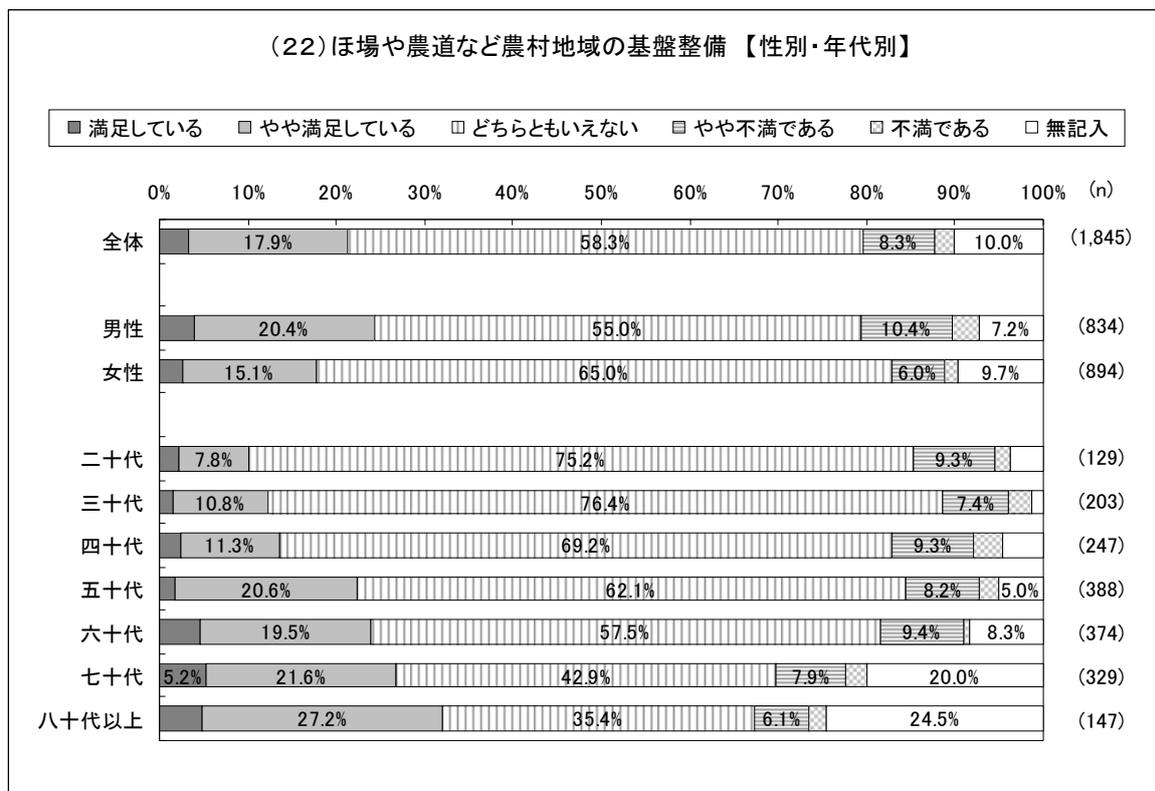
<クロス集計（地域別）>



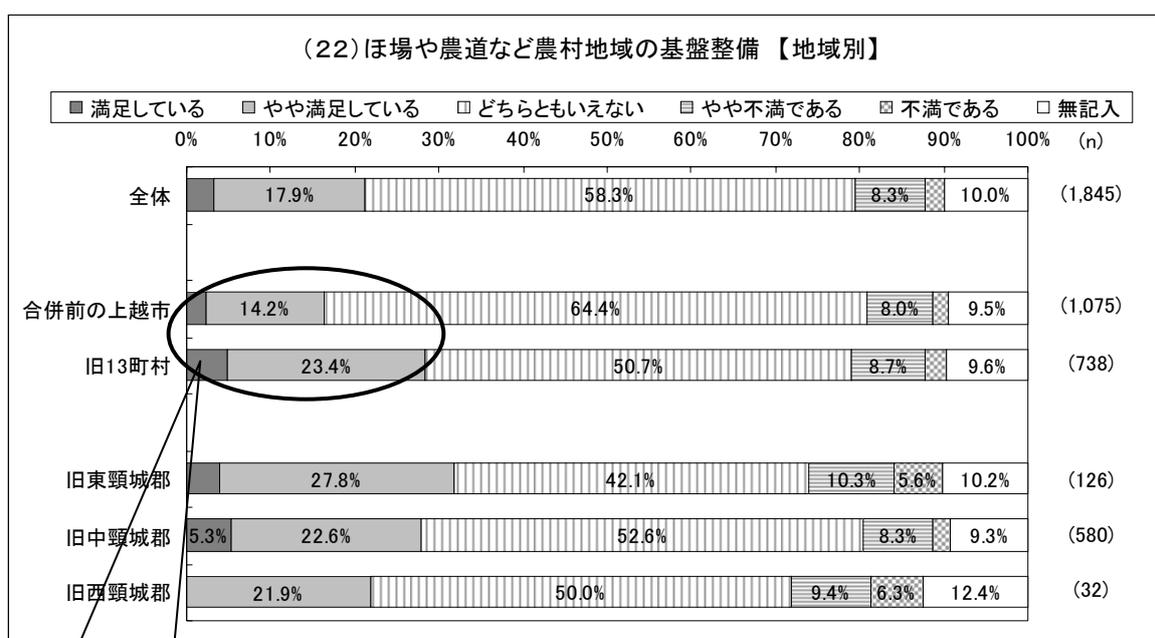
旧東頸城郡の満足度が高い。

(22) ほ場や農道など農村地域の基盤整備

<クロス集計（性別・年代別）>



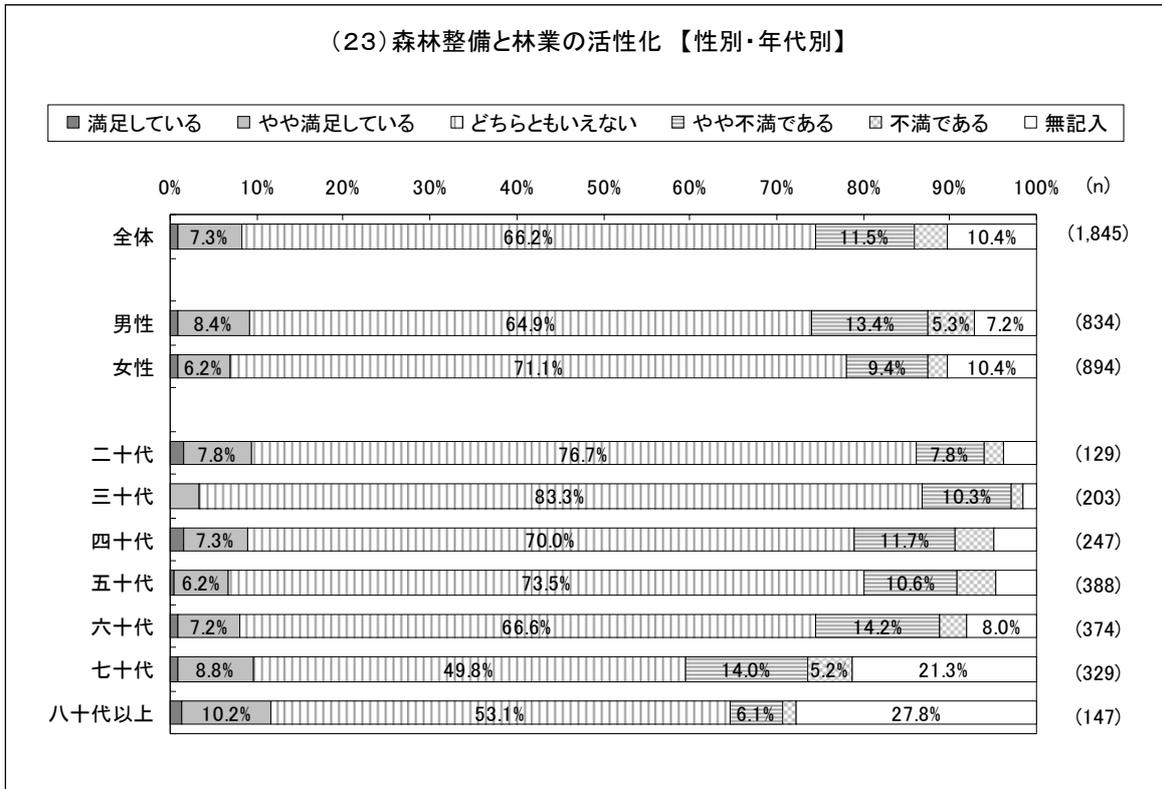
<クロス集計（地域別）>



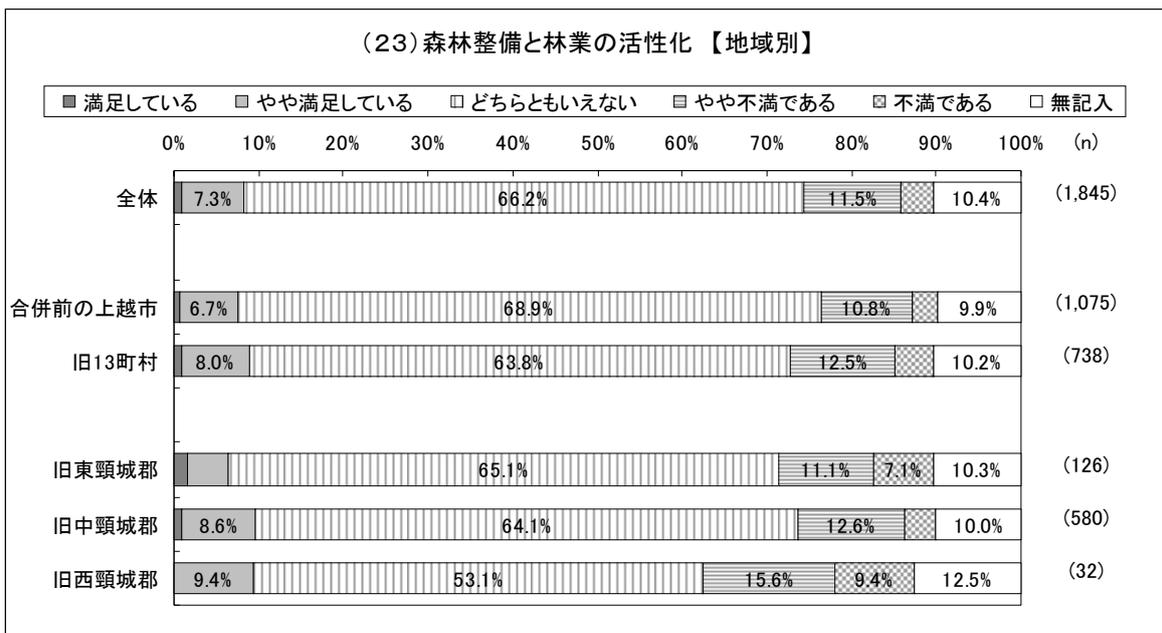
旧13町村での満足度が高い。

(23) 森林整備と林業の活性化

<クロス集計（性別・年代別）>

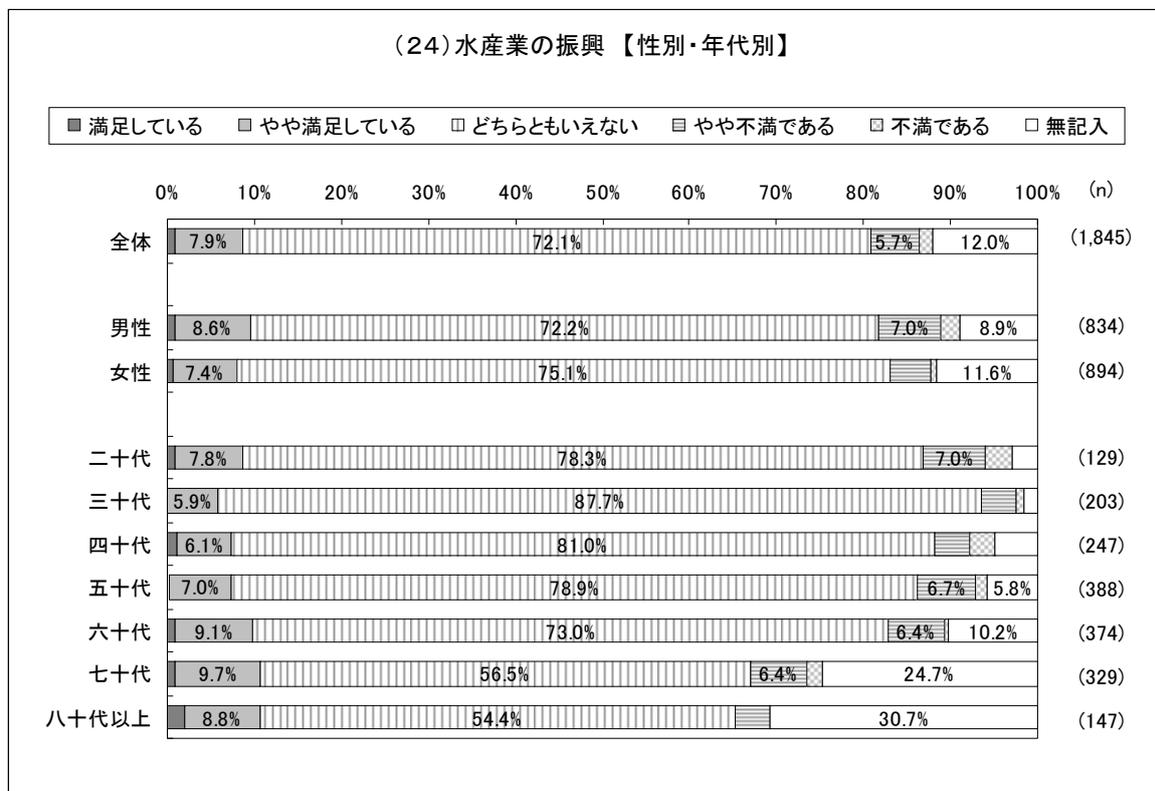


<クロス集計（地域別）>

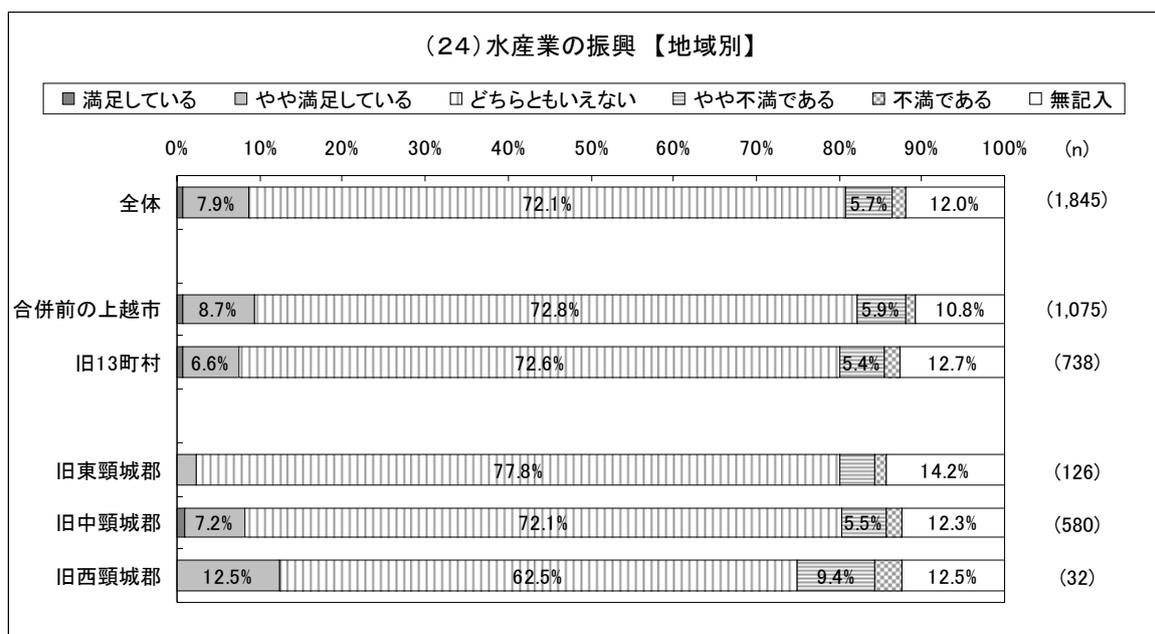


(24) 水産業の振興

<クロス集計（性別・年代別）>

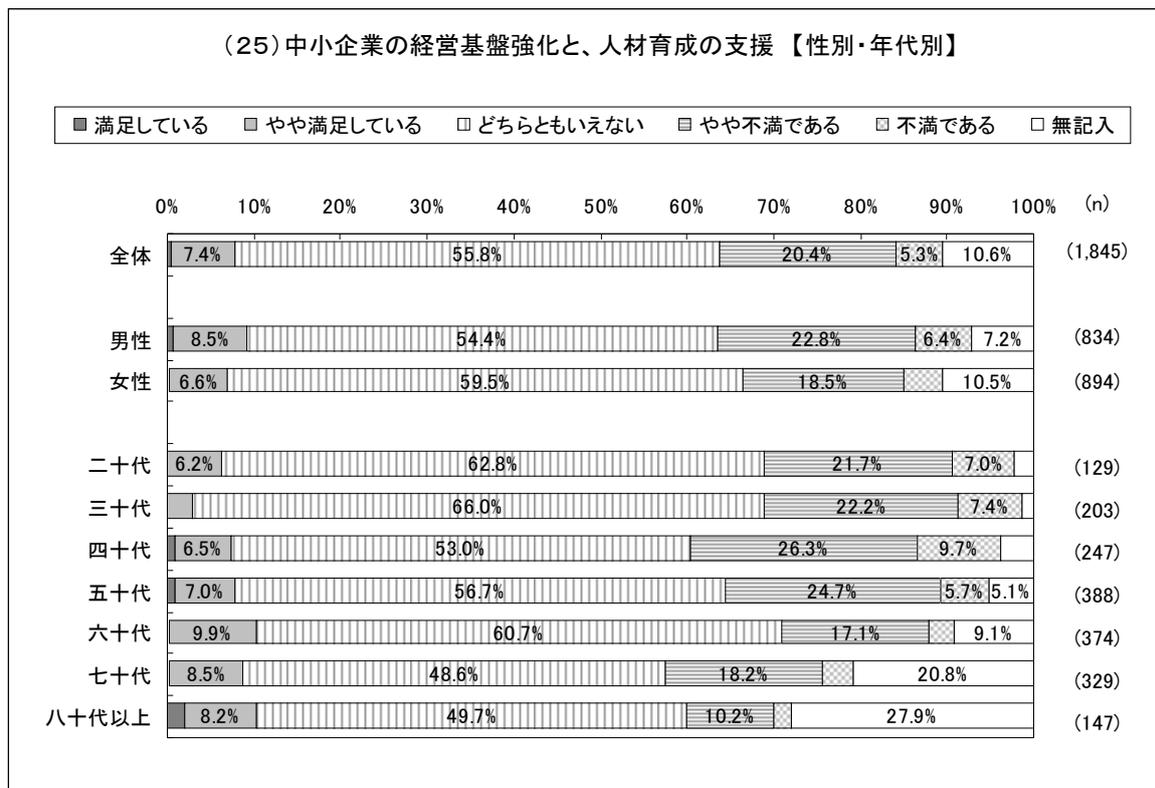


<クロス集計（地域別）>

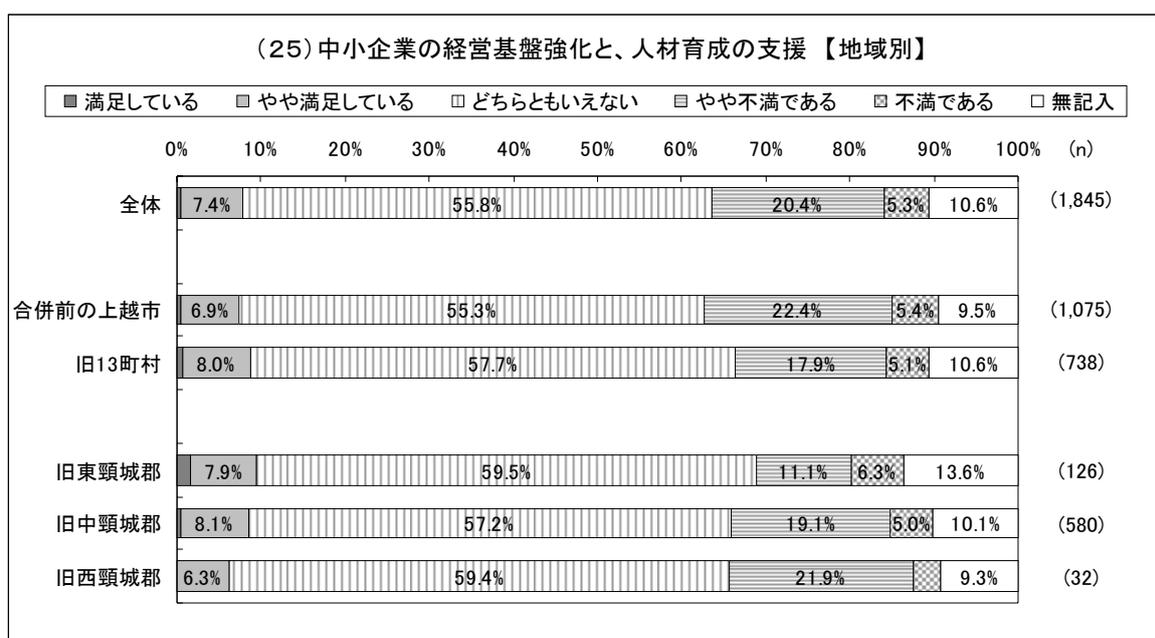


(25) 中小企業の経営基盤強化と、人材育成の支援

<クロス集計（性別・年代別）>

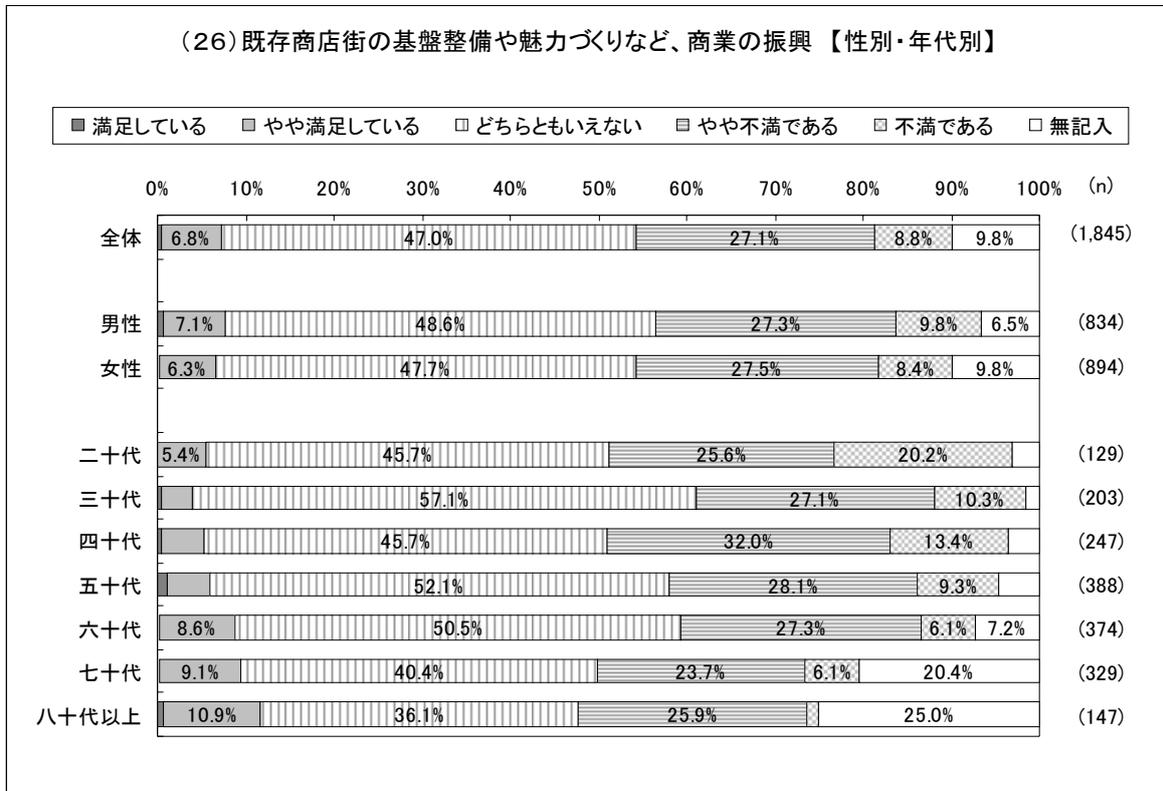


<クロス集計（地域別）>

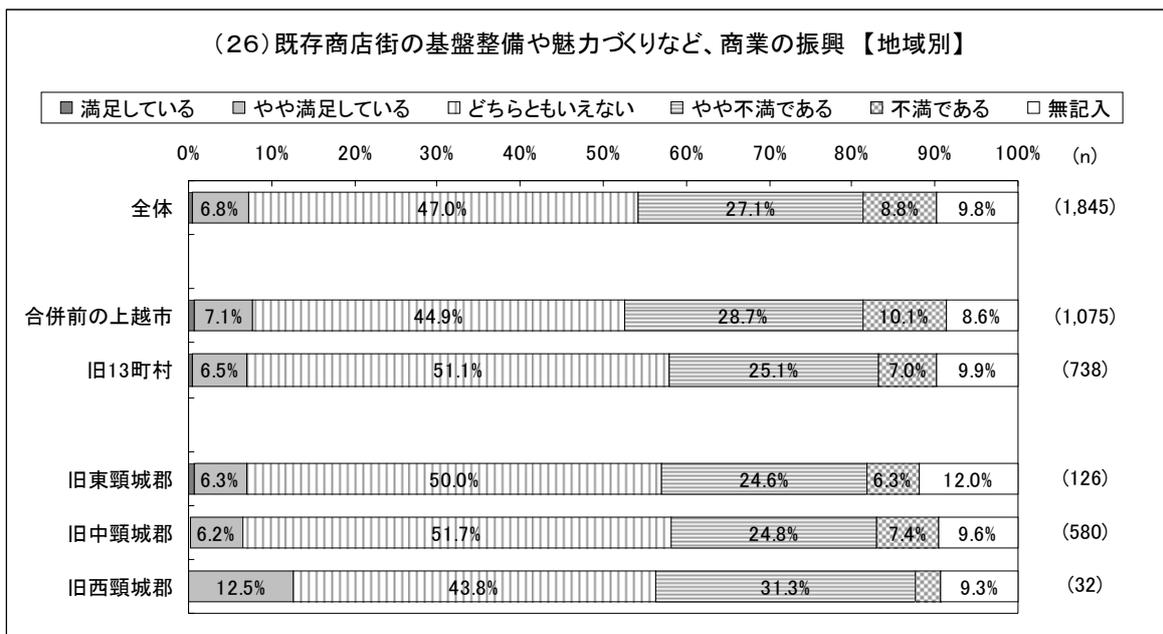


(26) 既存商店街の基盤整備や魅力づくりなど、商業の振興

<クロス集計（性別・年代別）>

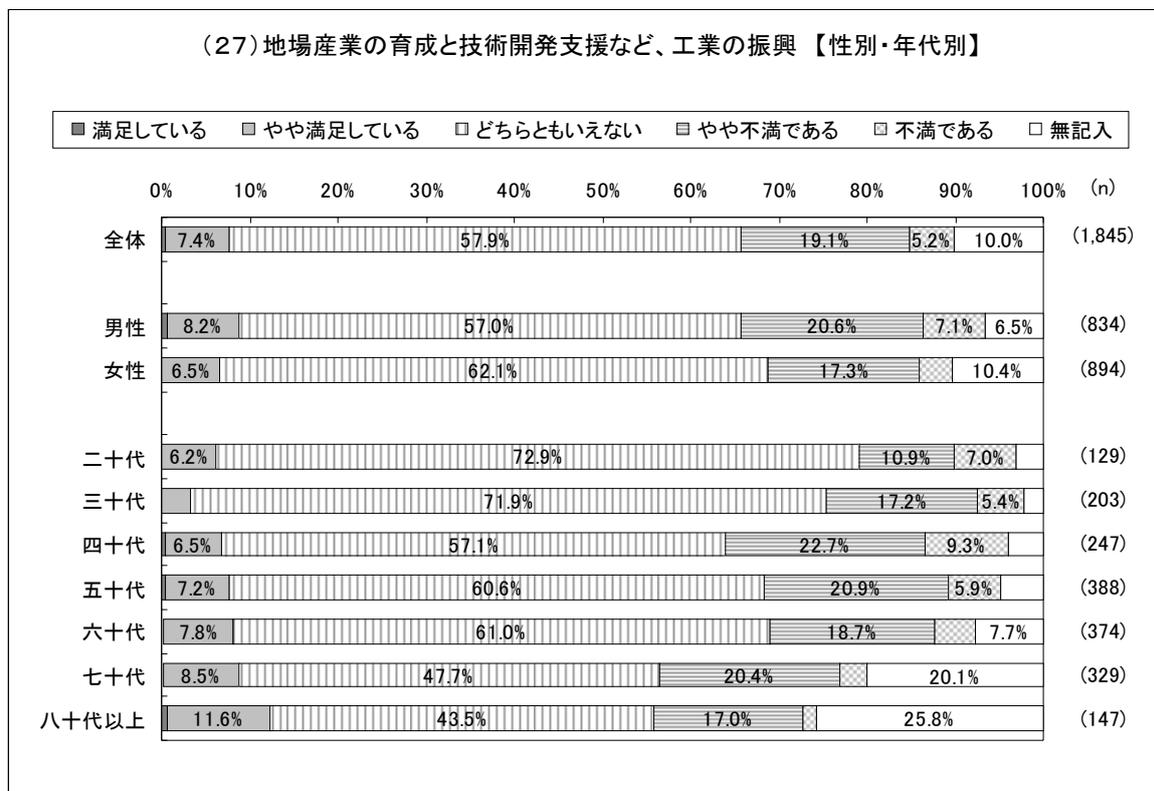


<クロス集計（地域別）>

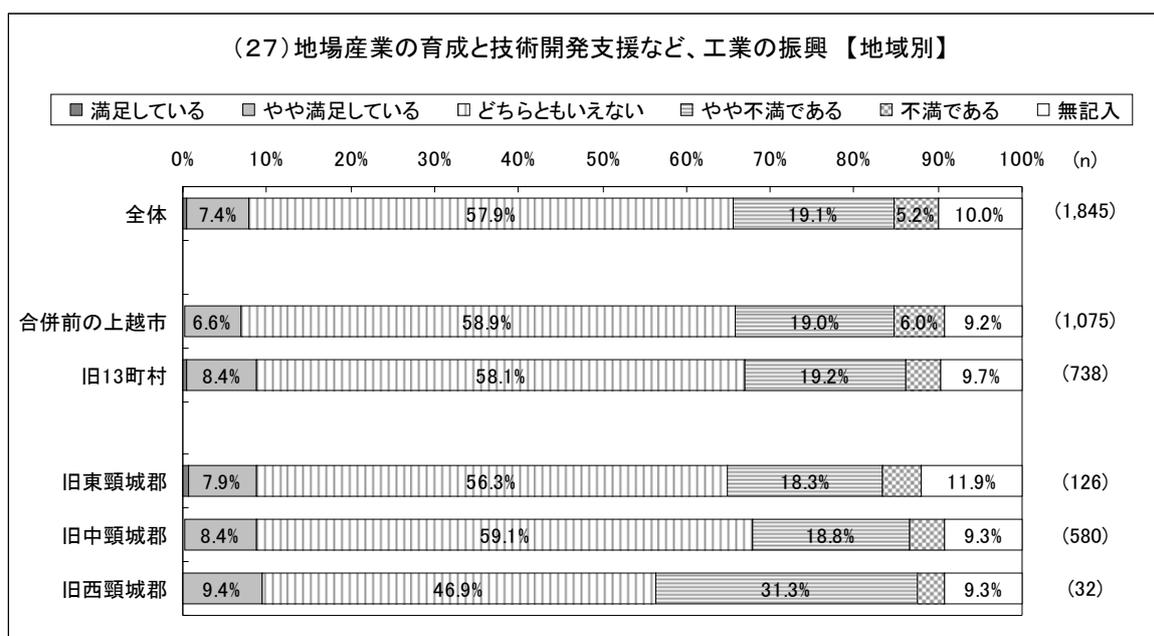


(27) 地場産業の育成と技術開発支援など、工業の振興

<クロス集計（性別・年代別）>

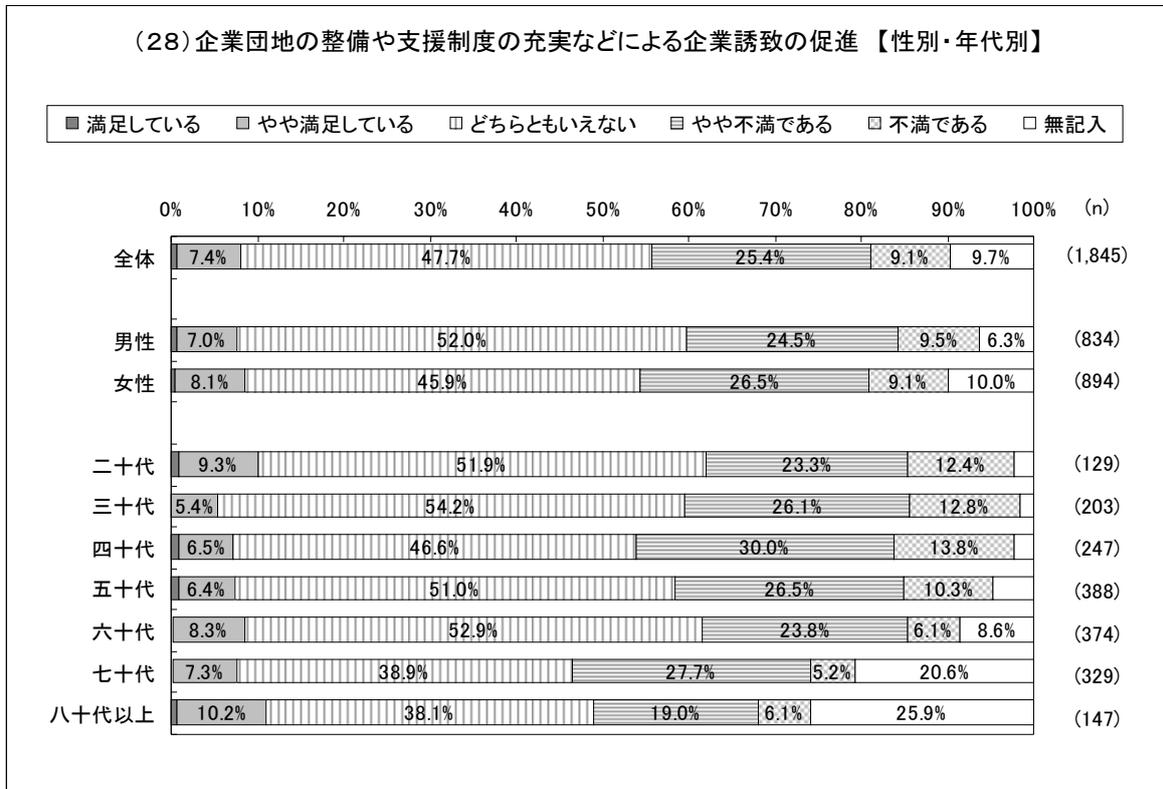


<クロス集計（地域別）>

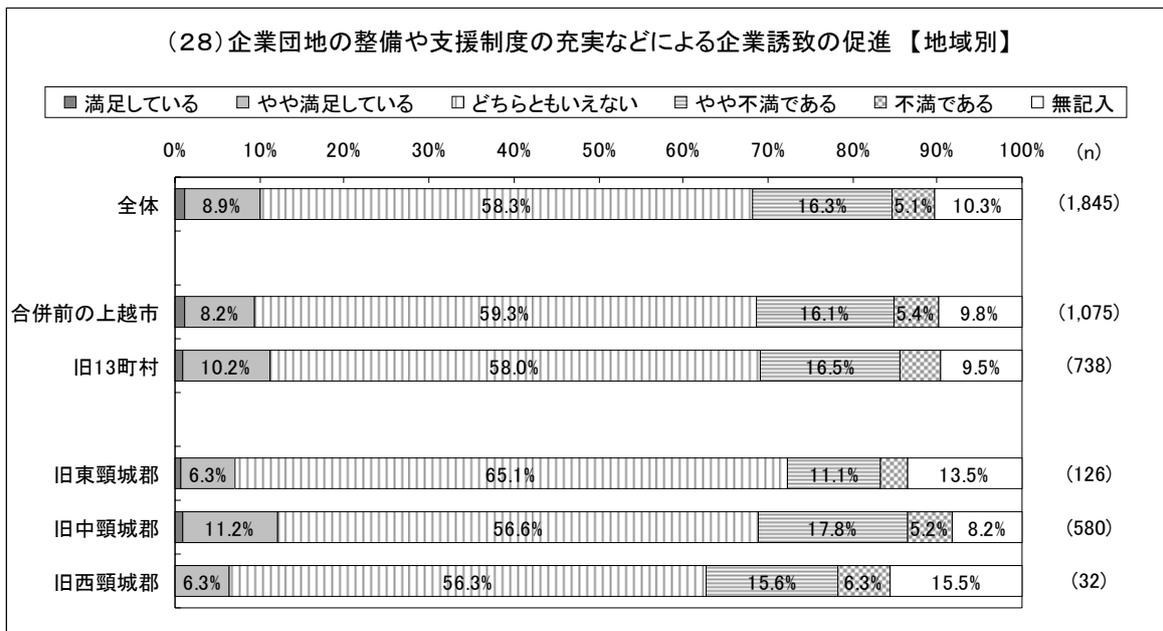


(28) 企業団地の整備や支援制度の充実などによる企業誘致の促進

<クロス集計（性別・年代別）>

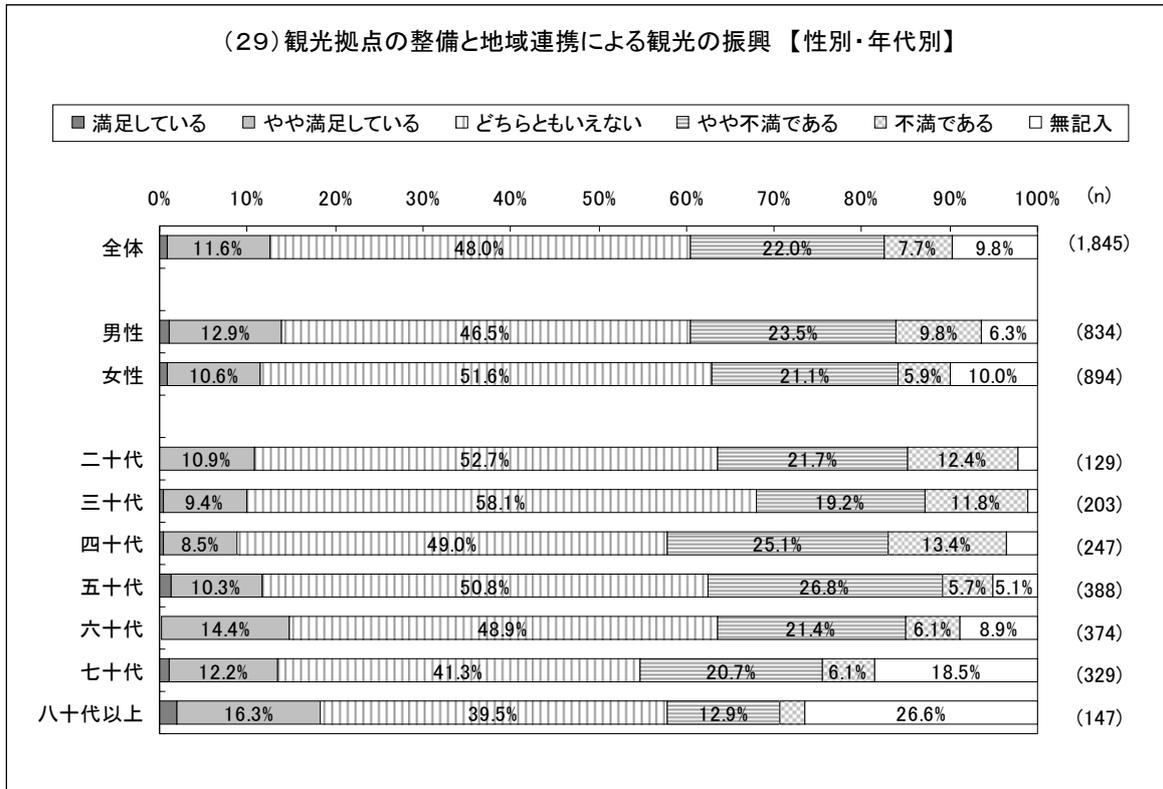


<クロス集計（地域別）>

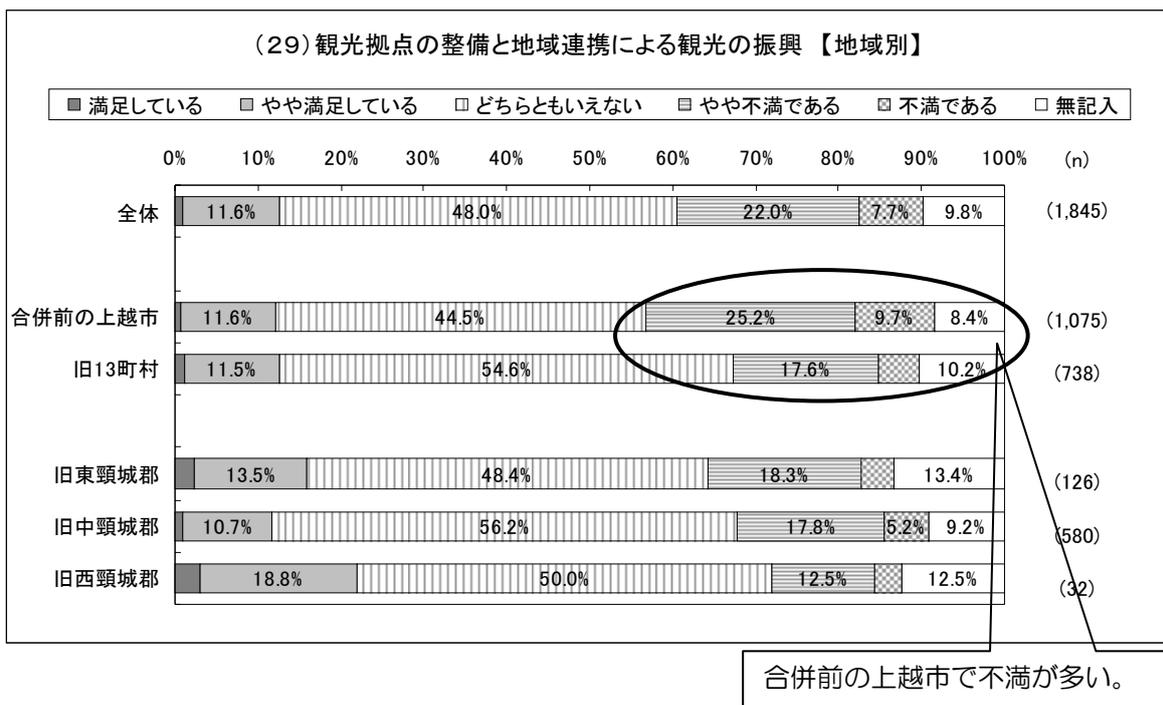


(29) 観光拠点の整備と地域連携による観光の振興

<クロス集計（性別・年代別）>

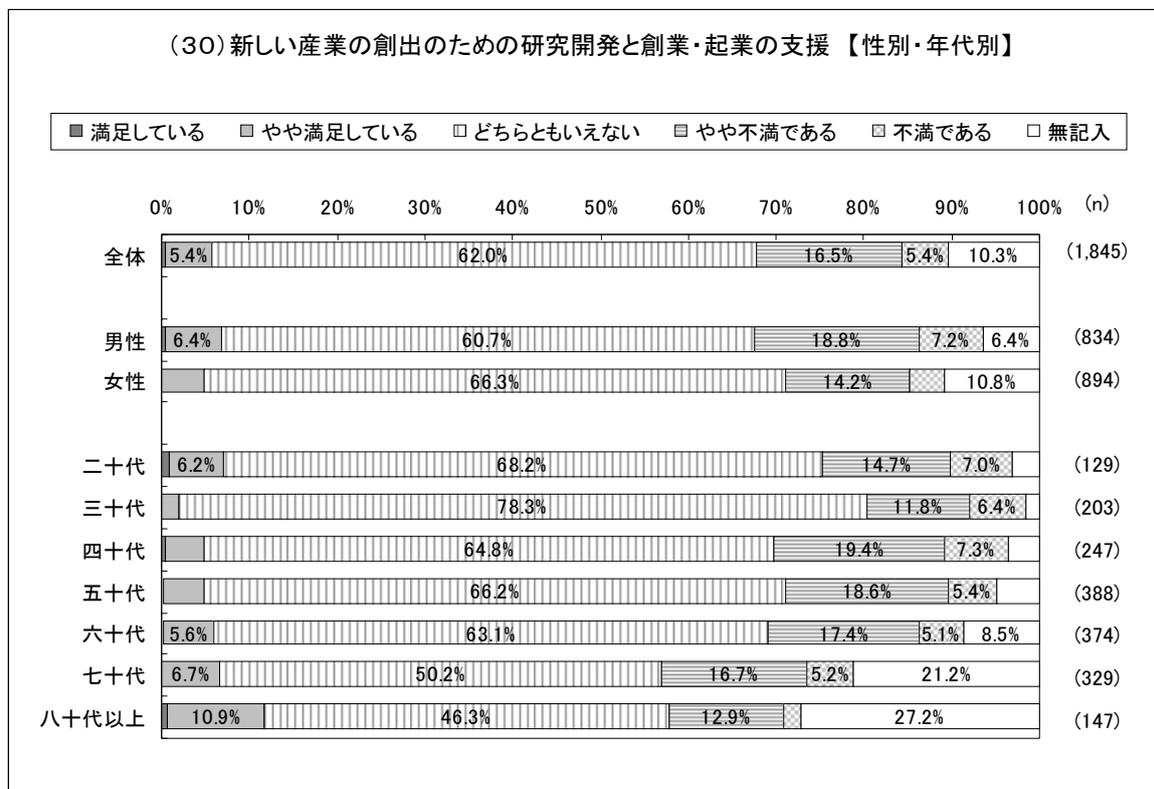


<クロス集計（地域別）>

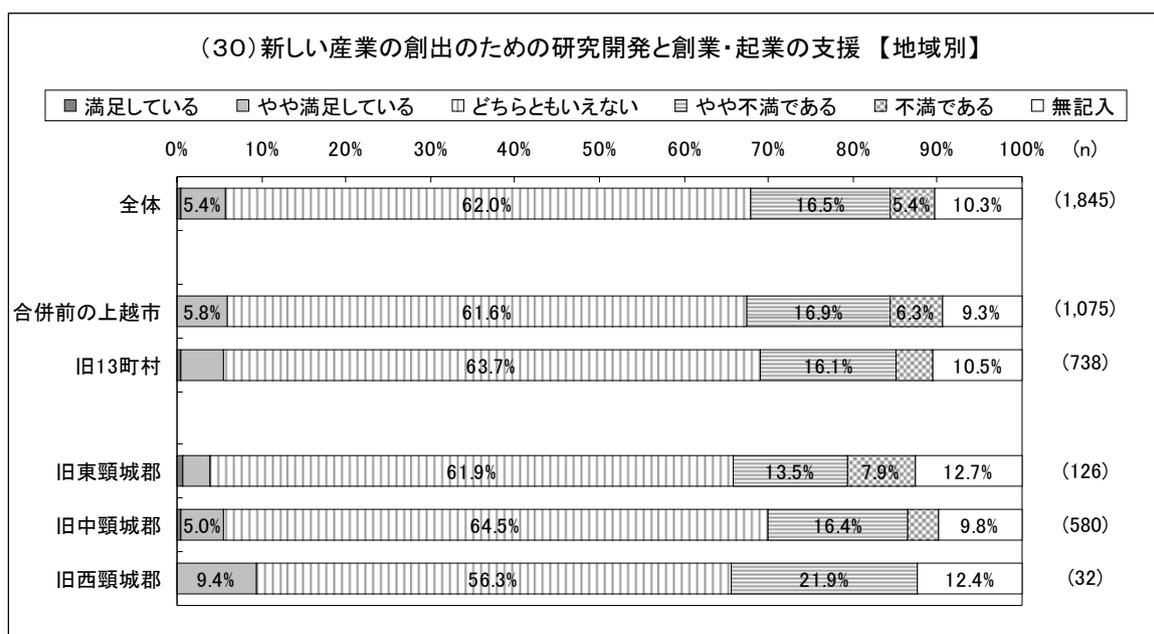


(30) 新しい産業の創出のための研究開発と創業・起業の支援

<クロス集計（性別・年代別）>

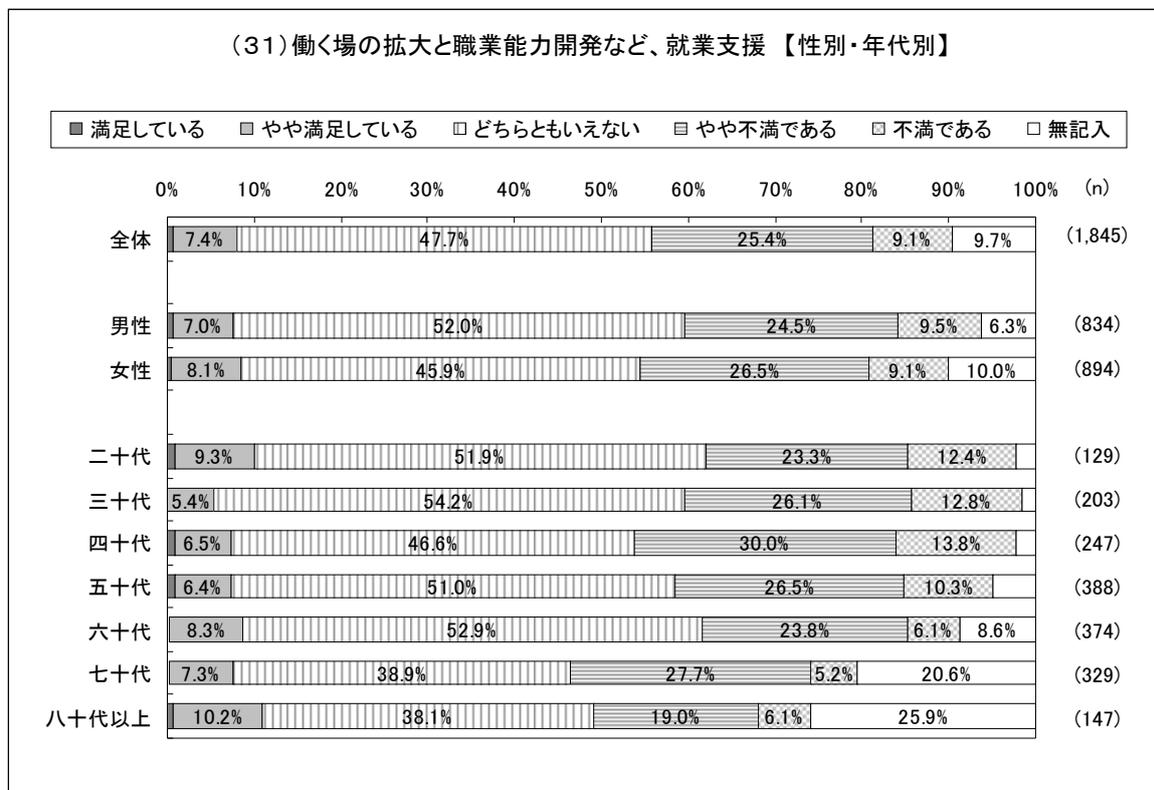


<クロス集計（地域別）>

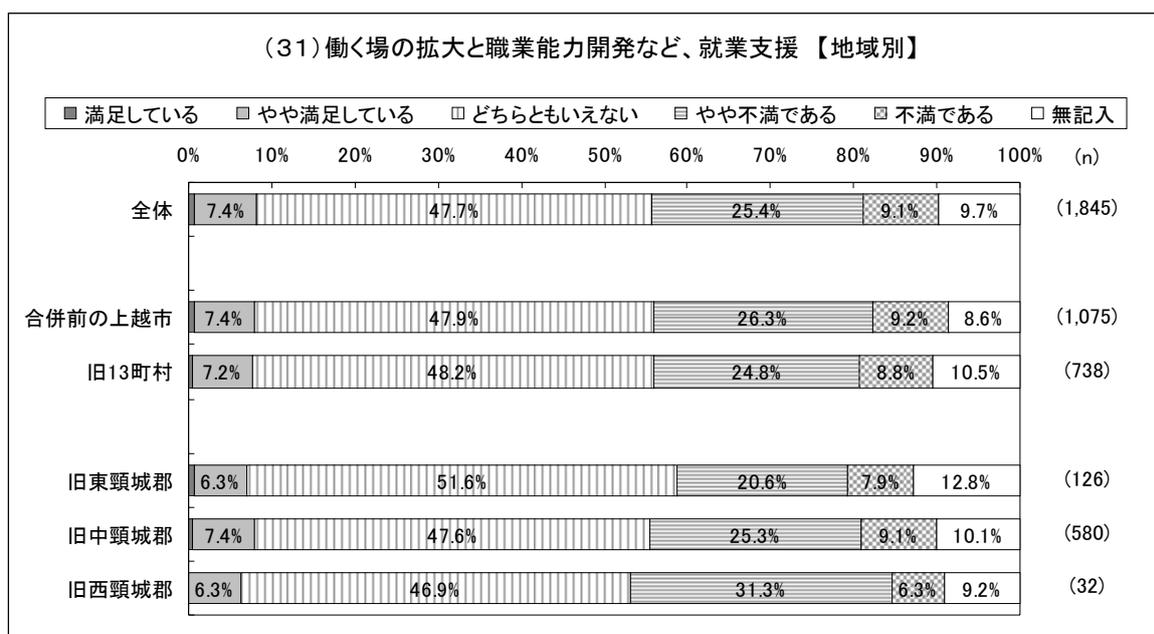


(31) 働く場の拡大と職業能力開発など、就業支援

<クロス集計（性別・年代別）>

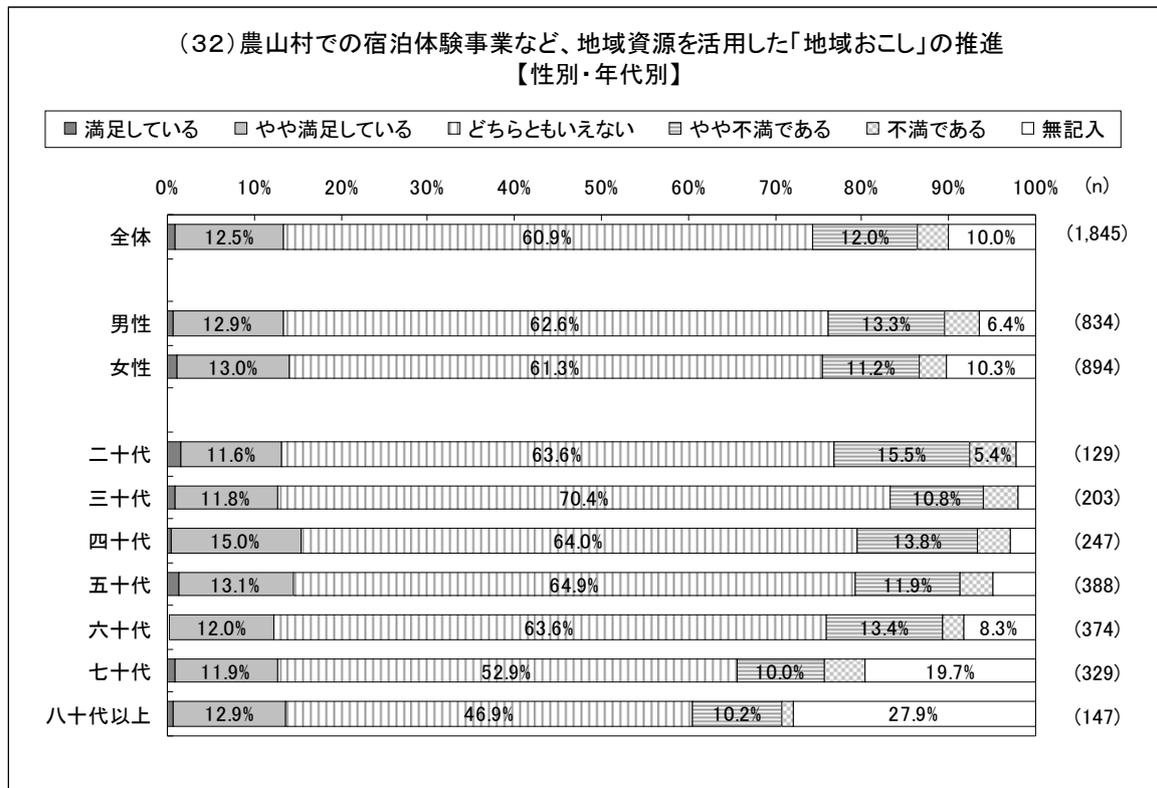


<クロス集計（地域別）>

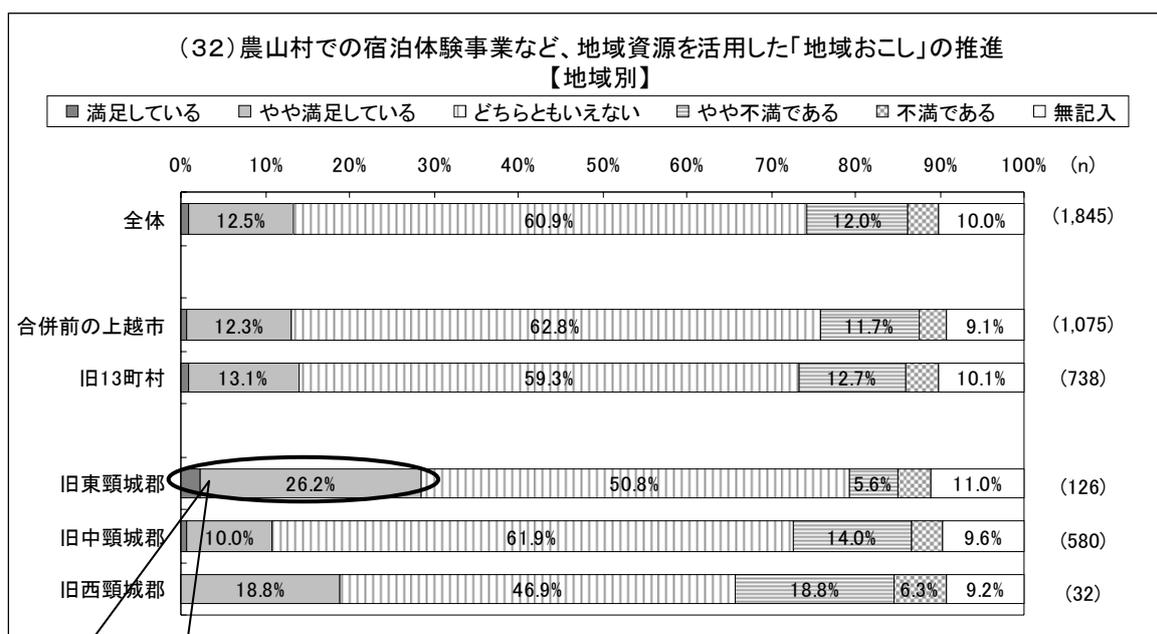


(32) 農山村での宿泊体験事業など、地域資源を活用した「地域おこし」の推進

<クロス集計（性別・年代別）>

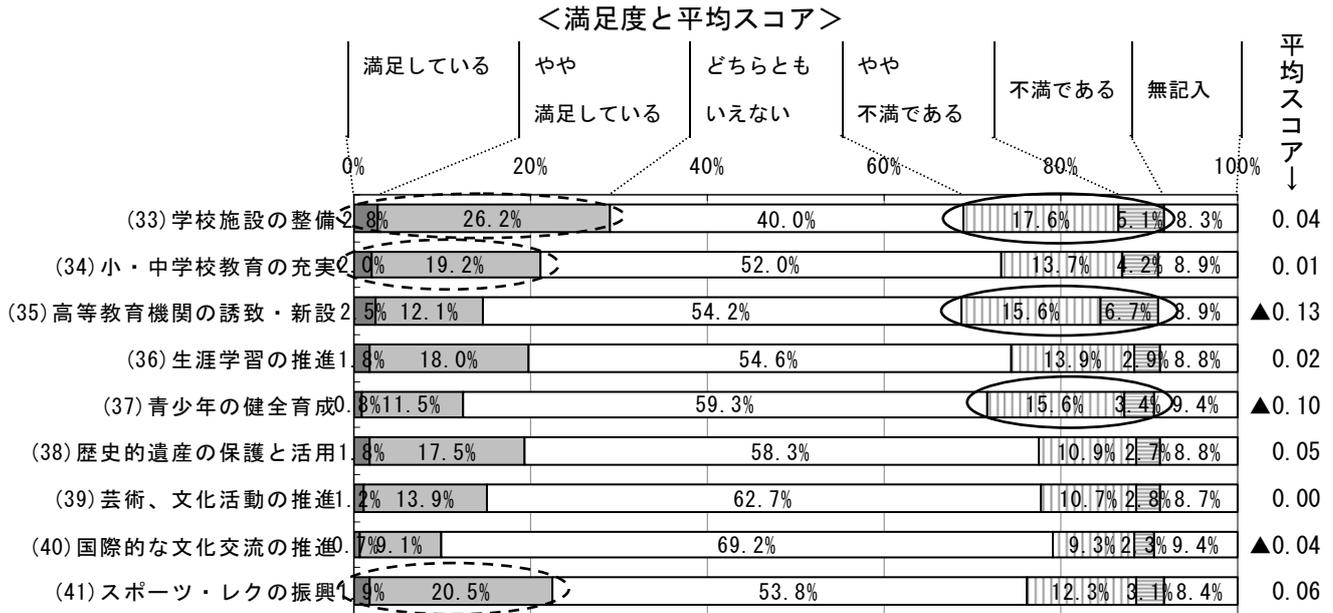


<クロス集計（地域別）>



旧東頸城郡での満足度が高い。

●教育文化分野 ●



分野の平均スコア ▲0.01
 (全体平均スコア ▲0.01)

＜前回調査との比較：満足度の高い取組＞

※平成 17 年度の数値はすべて「合併前の上越市」を対象とした結果を用いているため、上記のグラフと数値が異なる。

順位	平成 14 年度 (10 項目中 5 項目まで選択)	平成 17 年度
1	スポーツ・レクリエーションの振興と施設整備を行う 17.6%	幼稚園、小・中学校の施設や通学路の点検と整備 27.3%
2	趣味、教養を高める生涯学習の振興と施設整備を行う 14.7%	スポーツ・レクリエーションの振興と施設整備 22.0%
3	歴史的遺産の保護と活用を行う 14.3%	歴史的遺産の保護と活用 21.7%
4	高等教育機関(大学、短大、専門学校)の新設を進める 14.0%	趣味、教養を高める生涯学習の推進と施設整備 20.6%
5	幼稚園、小・中学校の施設や通学路の点検と整備を行う 13.0%	少人数学級の実現など、小・中学校教育の充実 20.4%

「満足している」「やや満足している」の合計が高い取組は、「学校施設の整備」、「スポーツ・レクの振興」、「小・中学校教育の充実」の順である。逆に、「不満である」「やや不満である」の合計が高い取組は、「学校施設の整備」、「高等教育機関の誘致・新設」、「青少年の健全育成」の順である。

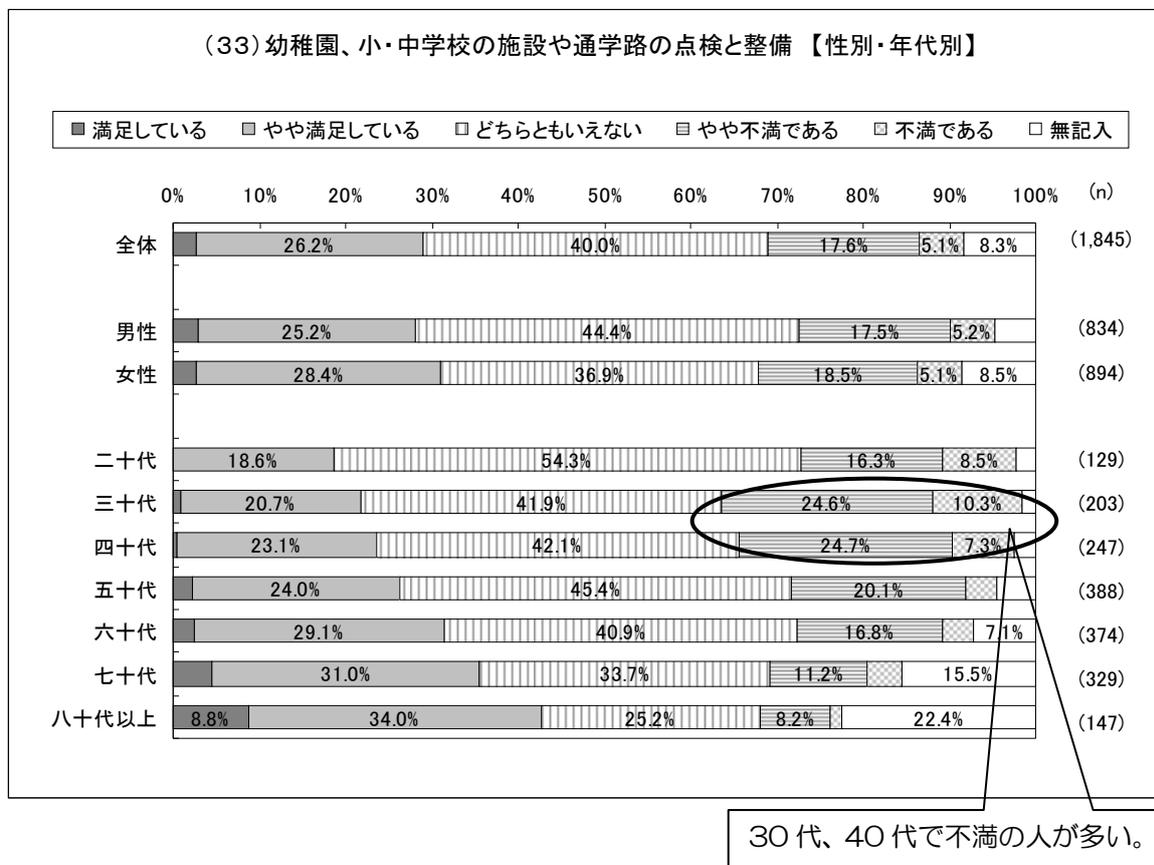
「分野の平均スコア」は-0.01 で、「全体の平均スコア」-0.01 と同等の満足度の分野であるといえる。

「平均スコア」の高い取組は、上位から順に、「スポーツ・レクの振興」、「歴史的遺産の保護と活用」、「学校施設の整備」である。逆に「平均スコア」の低い取組は、上位から順に、「高等教育機関の誘致・新設」、「青少年の健全育成」、「国際的な文化交流の推進」である。「学校施設の整備」は満足と不満の両方が分野の中で最も多く、住民の判断が分かれている項目となっている。30代・40代で不満の回答が多くなっている。近年、耐震やアスベストの問題が発生していることもあり、小中学校に子どもを通わせる親の不安が増大しているためと考えられる。

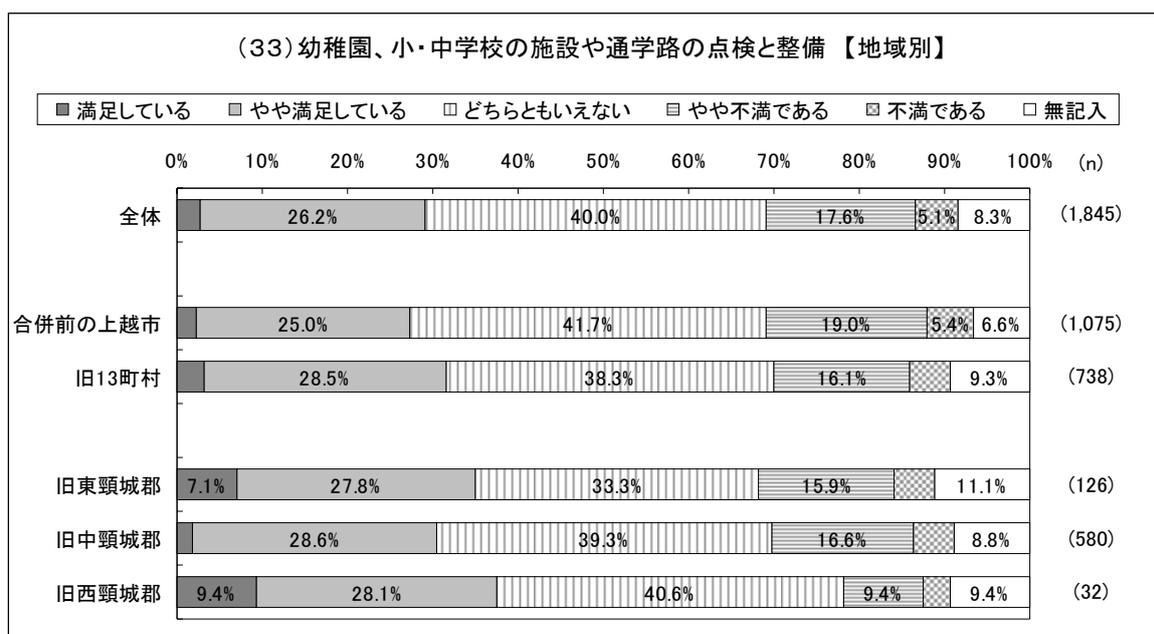
前回調査との比較でみると、「学校施設の整備」、「小・中学校教育の充実」に対する満足度が上昇するなど、学校に関係した取組の満足度の変化が目立つ。

(33) 幼稚園、小・中学校の施設や通学路の点検と整備

<クロス集計（性別・年代別）>



<クロス集計（地域別）>

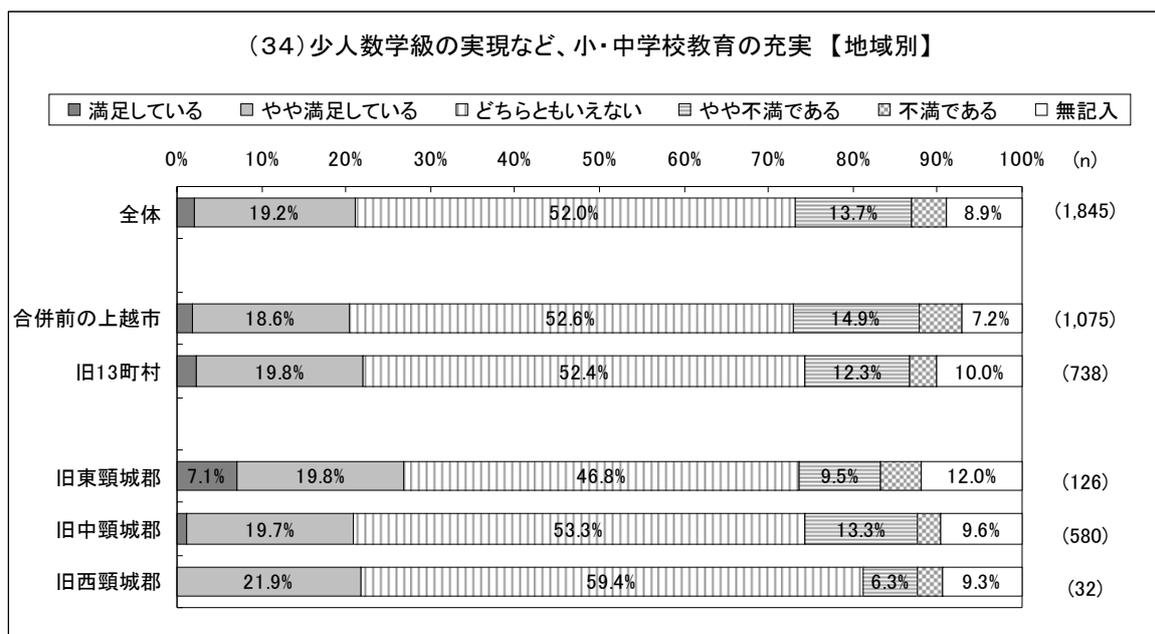


(34) 少人数学級の実現など、小・中学校教育の充実

<クロス集計（性別・年代別）>

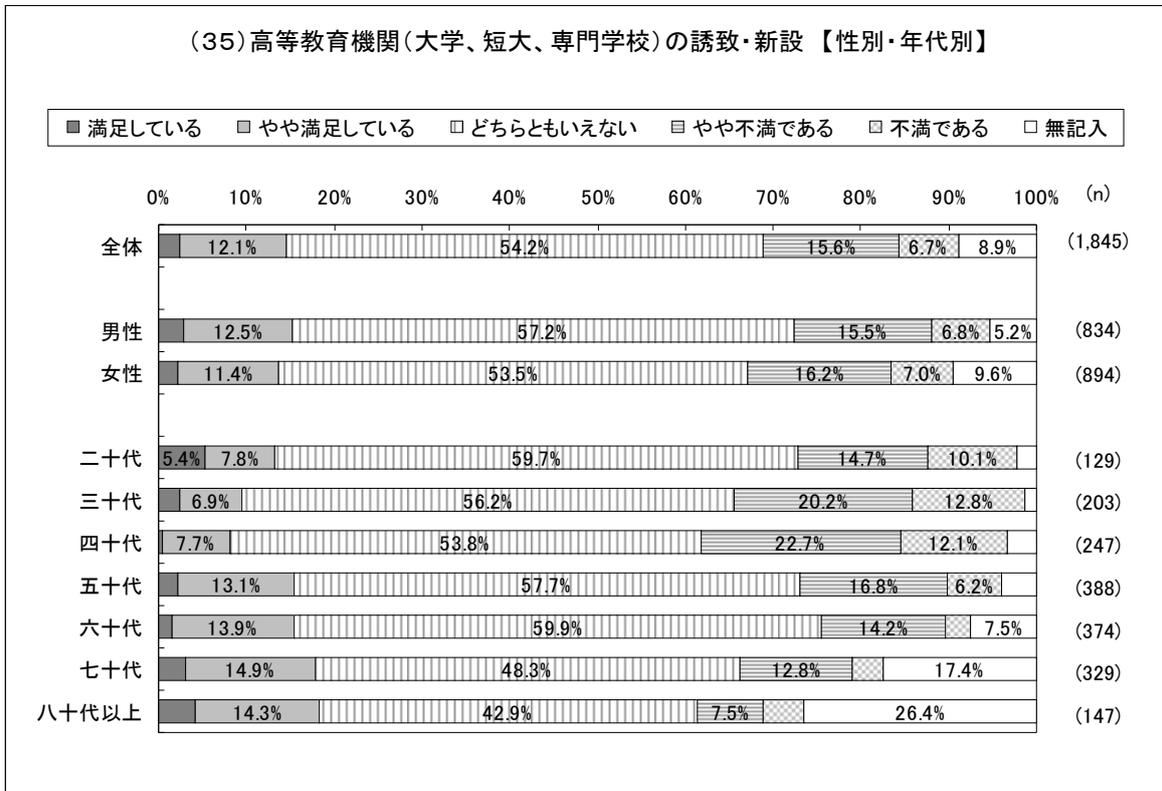


<クロス集計（地域別）>

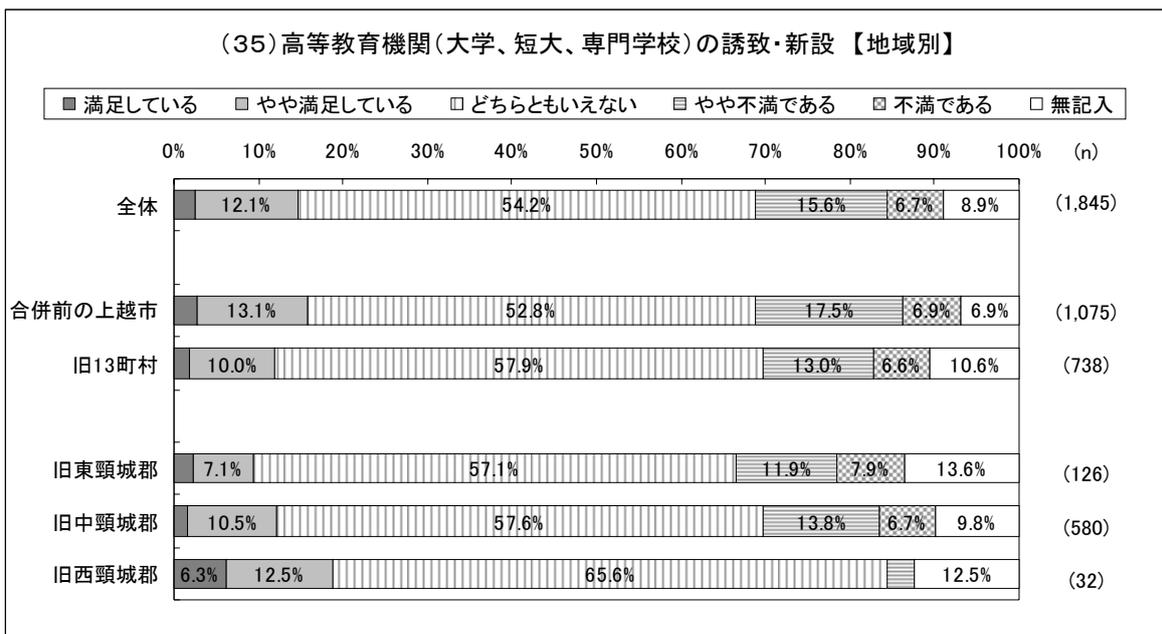


(35) 高等教育機関（大学、短大、専門学校）の誘致・新設

<クロス集計（性別・年代別）>



<クロス集計（地域別）>

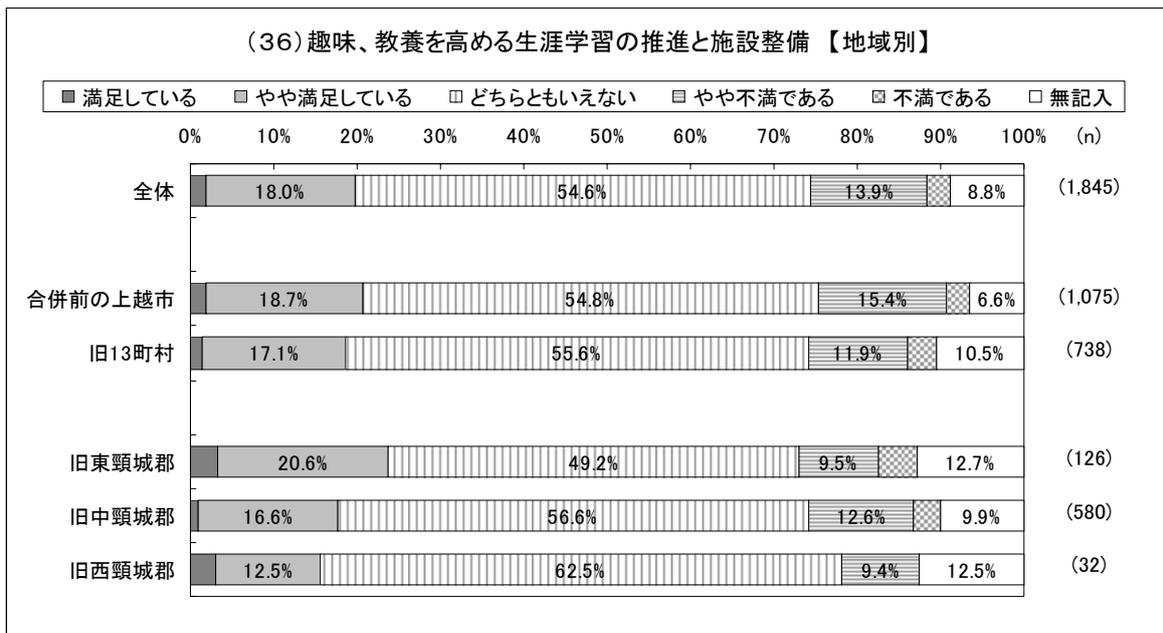


(36) 趣味、教養を高める生涯学習の推進と施設整備

<クロス集計 (性別・年代別)>

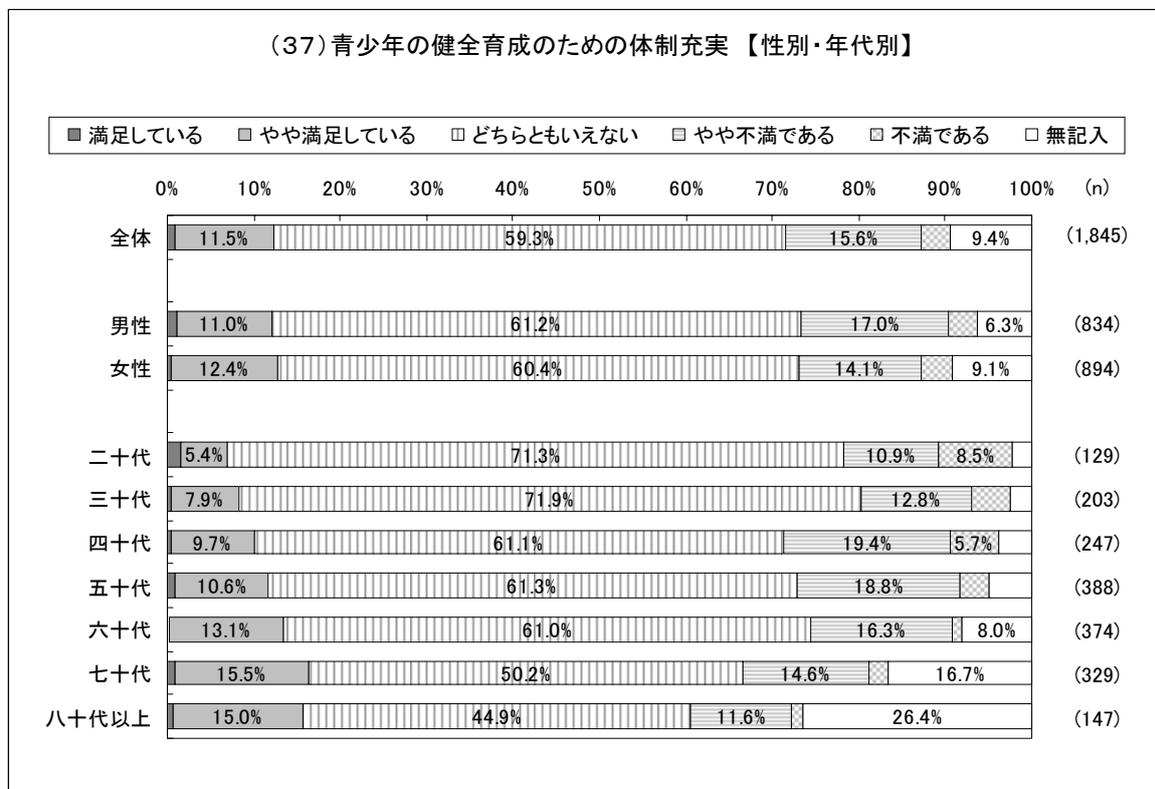


<クロス集計 (地域別)>

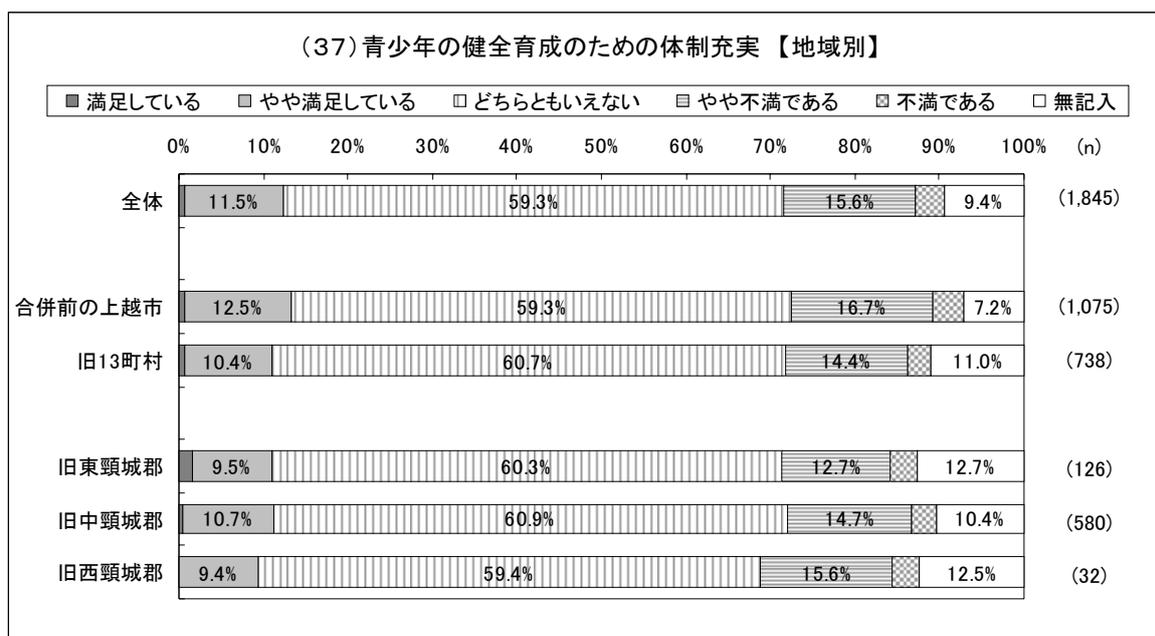


(37) 青少年の健全育成のための体制充実

<クロス集計（性別・年代別）>

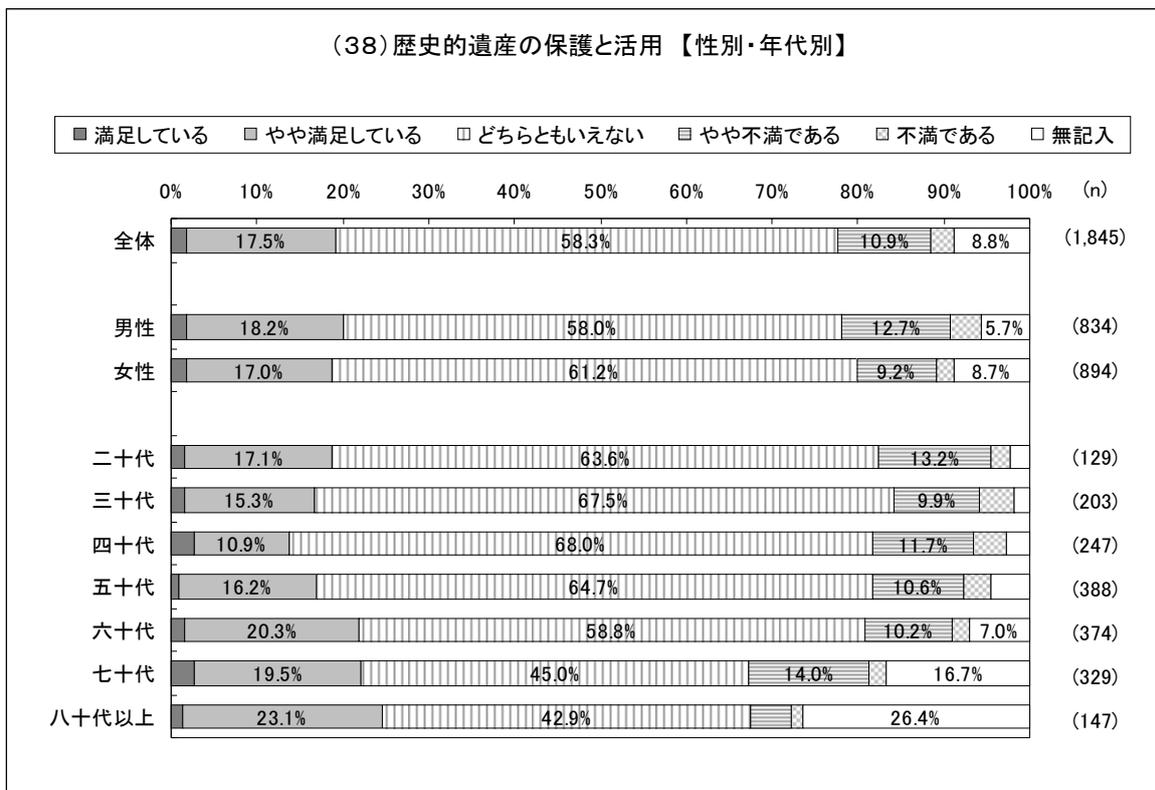


<クロス集計（地域別）>

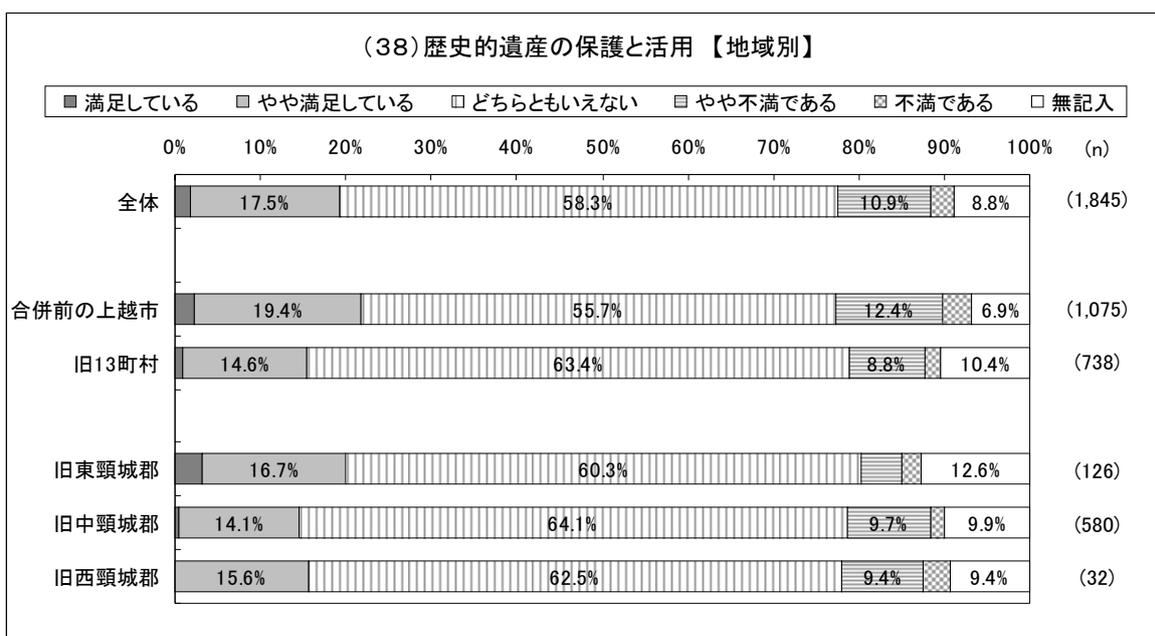


(38) 歴史的遺産の保護と活用

<クロス集計（性別・年代別）>

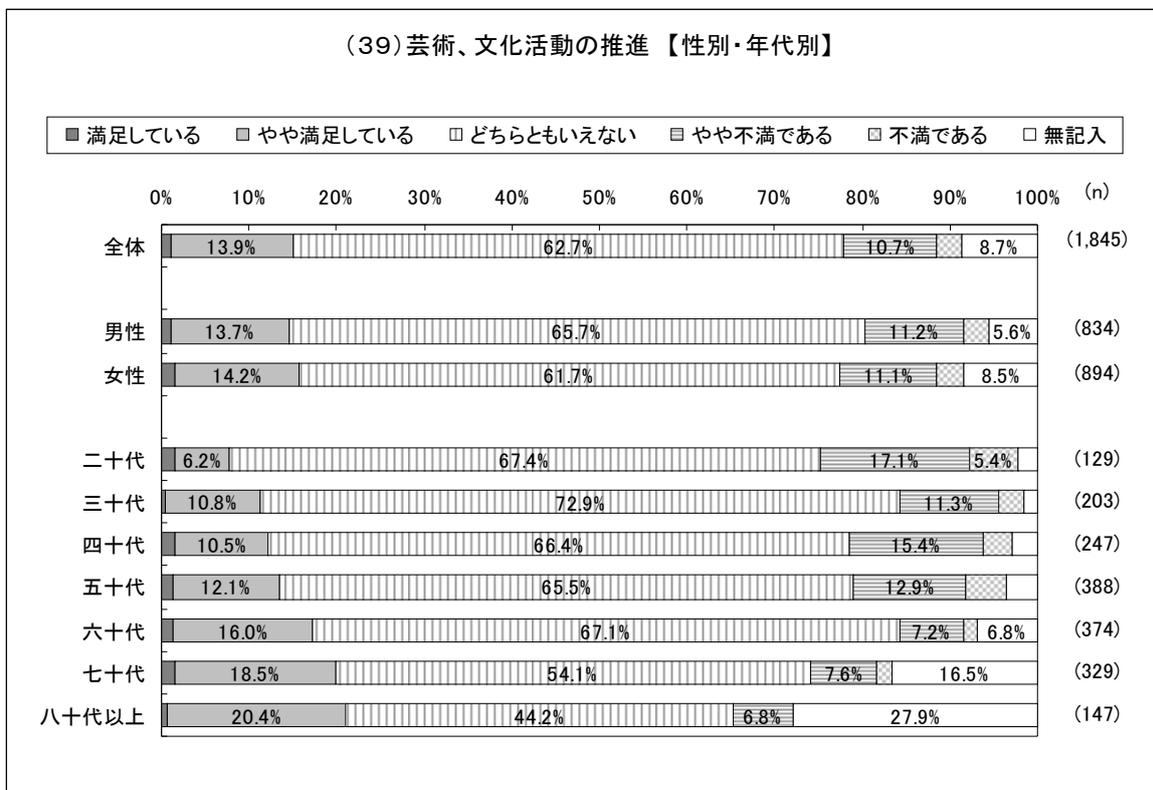


<クロス集計（地域別）>

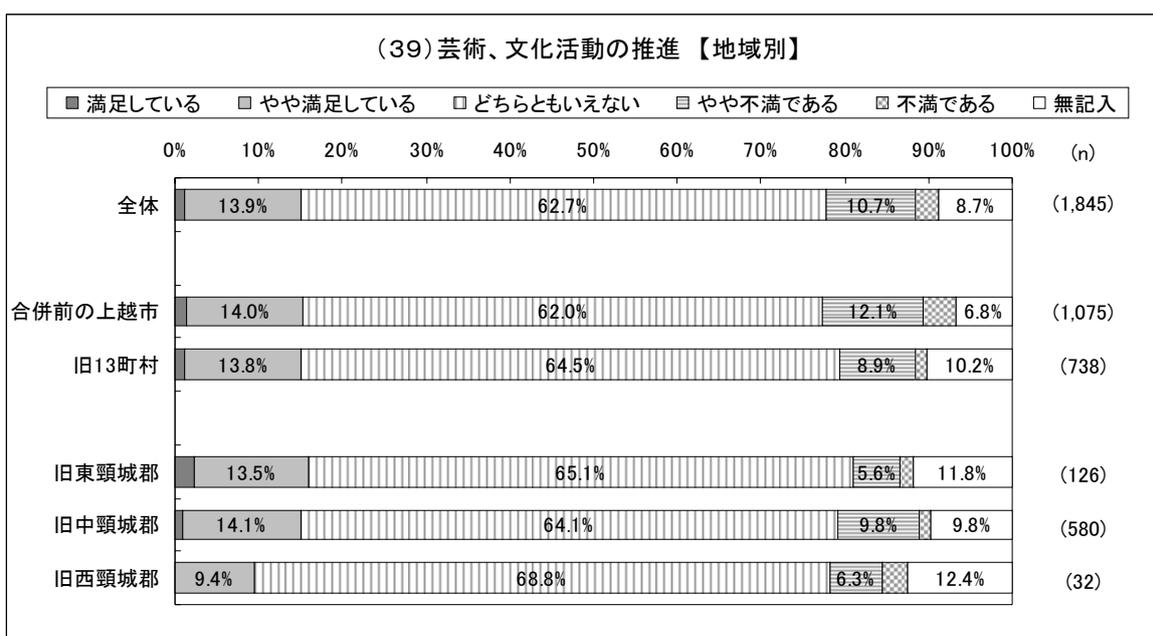


(39) 芸術、文化活動の推進

<クロス集計（性別・年代別）>

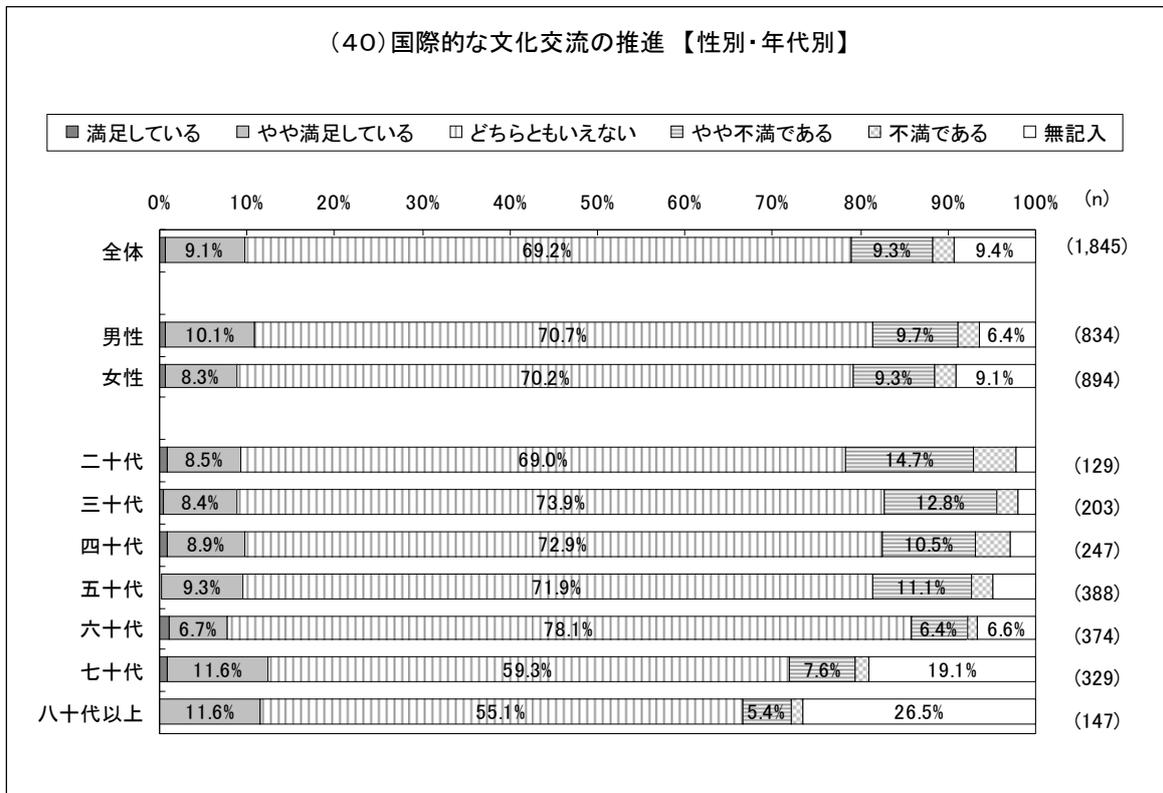


<クロス集計（地域別）>

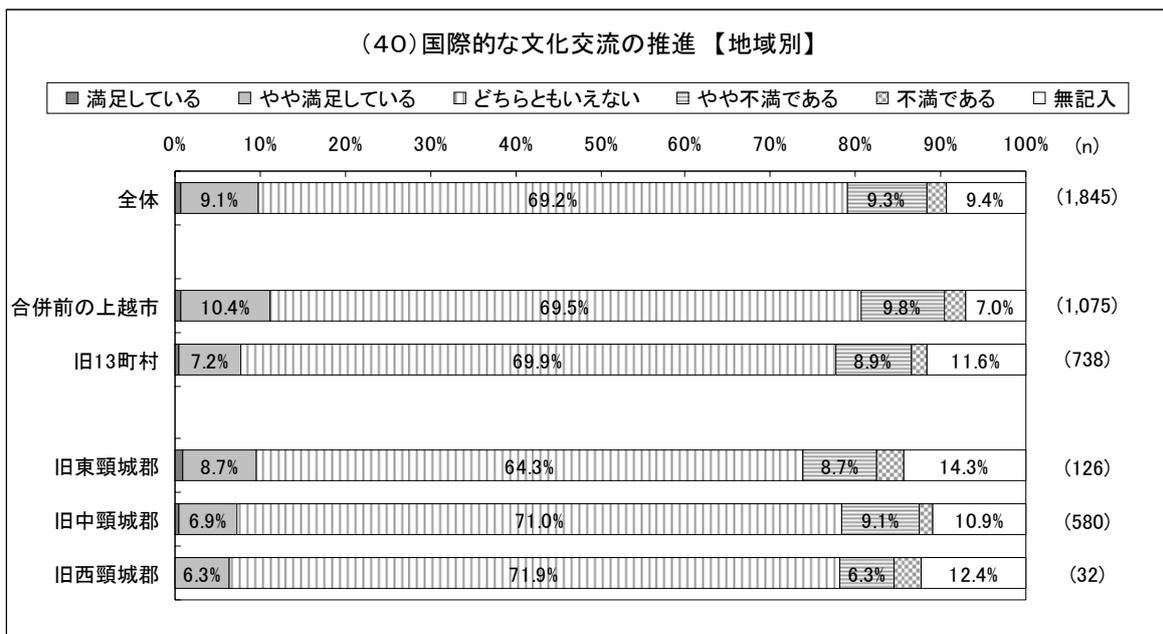


(40) 国際的な文化交流の推進

<クロス集計（性別・年代別）>

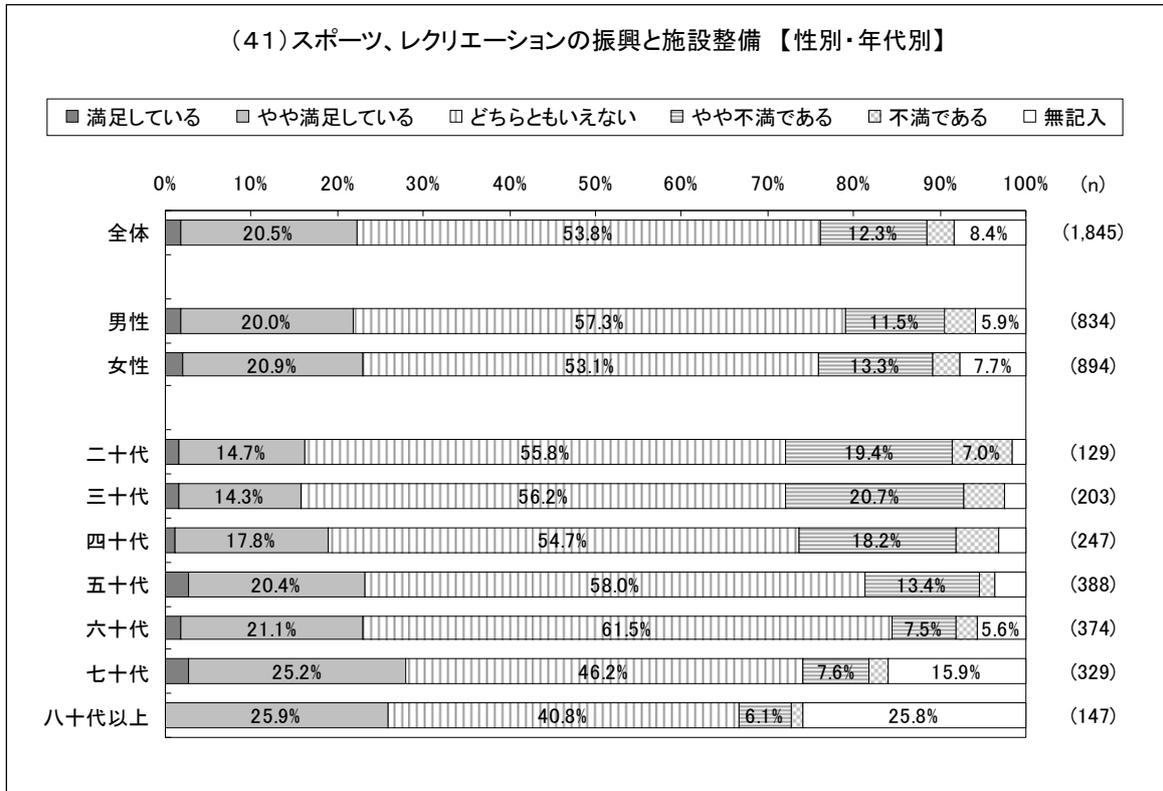


<クロス集計（地域別）>

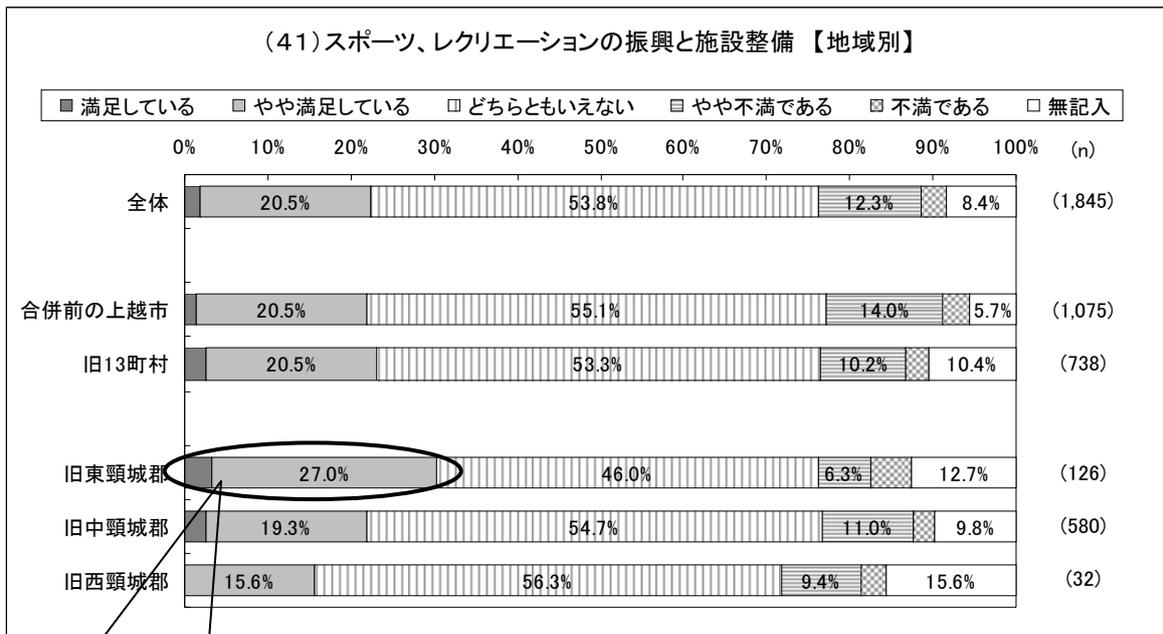


(41) スポーツ、レクリエーションの振興と施設整備

<クロス集計（性別・年代別）>



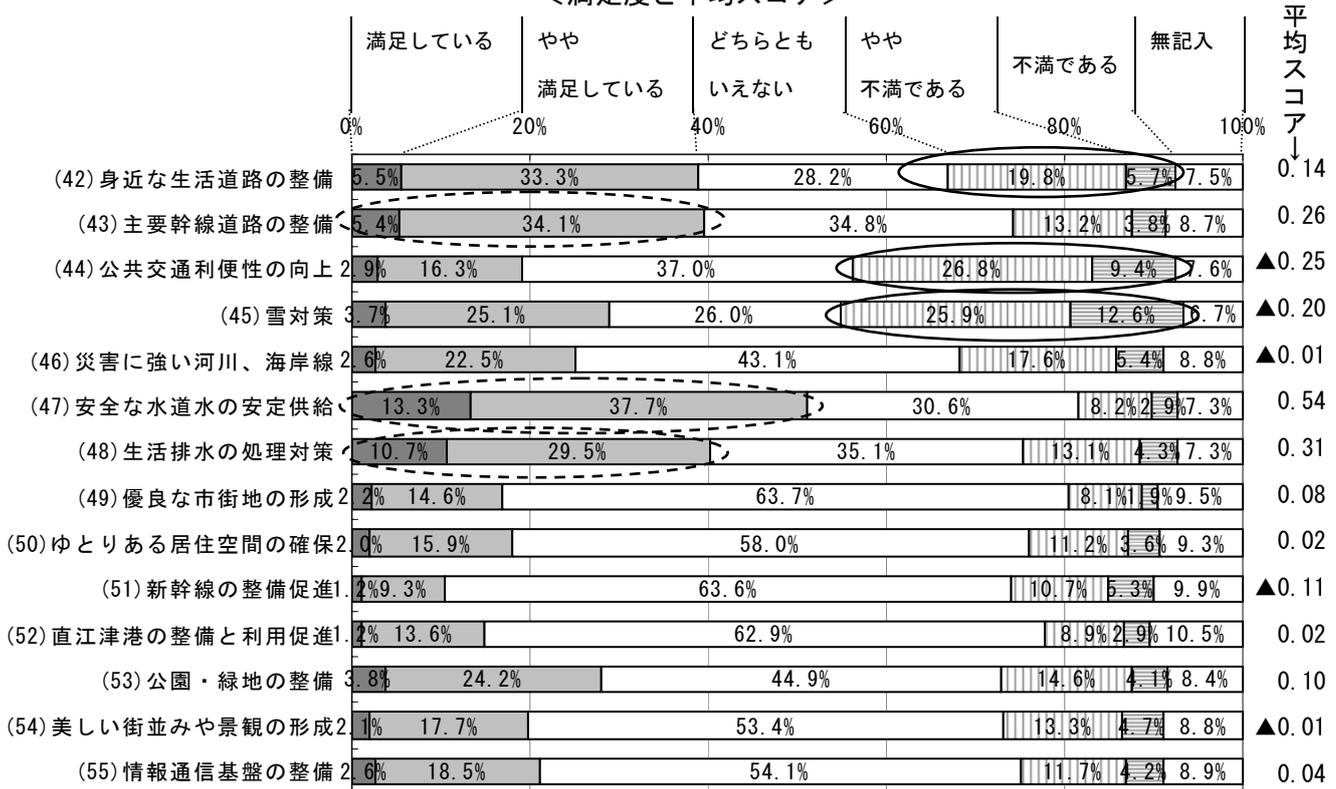
<クロス集計（地域別）>



旧東頸城郡での満足度が高い。

● 都市基盤・生活基盤整備分野 ●

<満足度と平均スコア>



分野の平均スコア 0.07
(全体平均スコア ▲0.01)

<前回調査との比較：満足度の高い取組>

※平成 17 年度の数値はすべて「合併前の上越市」を対象とした結果を用いているため、上記のグラフと数値が異なる。

順位	平成 14 年度 (10 項目中 5 項目まで選択)		平成 17 年度	
	項目	割合	項目	割合
1	高田公園など市の顔となる公園の整備を進める	43.4%	安全な水道水の安定供給	52.5%
2	主要幹線道路の整備を進める	25.6%	主要幹線道路の整備	41.5%
3	美しいまちをつくるために、まちなみの景観の整備を進める	17.2%	下水道の整備など、生活排水の処理対策	40.7%
4	生活道路の整備を進める	16.4%	身近な生活道路の整備	38.7%
5	児童公園など身近な公園の整備を進める	15.5%	市民の憩いの場としての公園・緑地の整備	33.0%

「満足している」「やや満足している」の合計が高い取組は、「安全な水道水の安定供給」、「生活排水の処理対策」、「主要幹線道路の整備」の順ある。逆に、「不満である」「やや不満である」の合計が高い取組は、「雪対策」、「公共交通利便性の向上」、「身近な生活道路の整備」の順である。

「分野の平均スコア」は 0.07 で、「全体の平均スコア」-0.01 と比べて高く、6 分野中最も満足度の高い分野であるといえる。

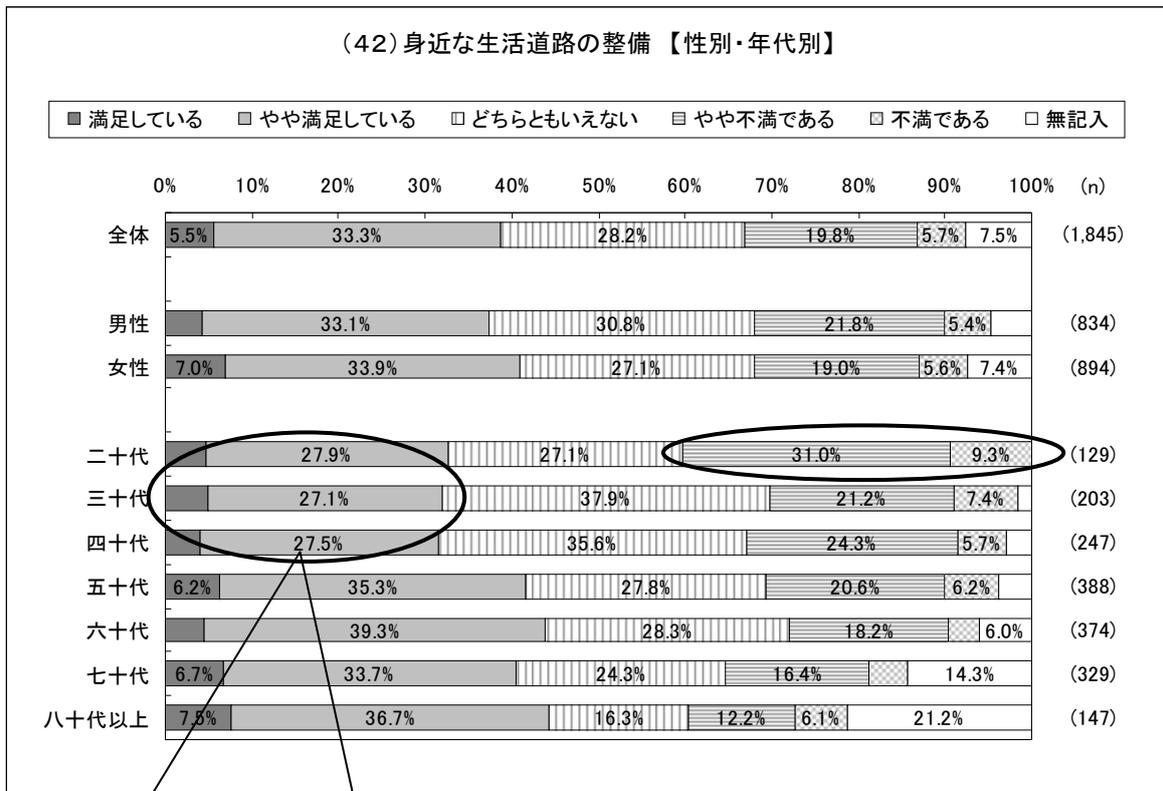
「平均スコア」の高い取組は、上位から順に、「安全な水道水の安定供給」、「生活排水の処理対策」、「主要幹線道路の整備」である。逆に「平均スコア」の低い取組は、上位から順に、「公共交通利便性の向上」、「雪対策」、「新幹線の整備促進」である。

「身近な生活道路の整備」「主要幹線道路の整備」は、20 代、30 代、40 代の満足度が低くなっている。また、地域別では、旧東頸城郡の満足度が突出してよくなっている。これは農道や林道の整備が進んだこと、また、地域内の高規格幹線道路の整備が着手されたためと考えられる。

都市整備・生活基盤整備分野においては、分野内の取組項目が前回調査とは異なっているため、比較分析は行えない。

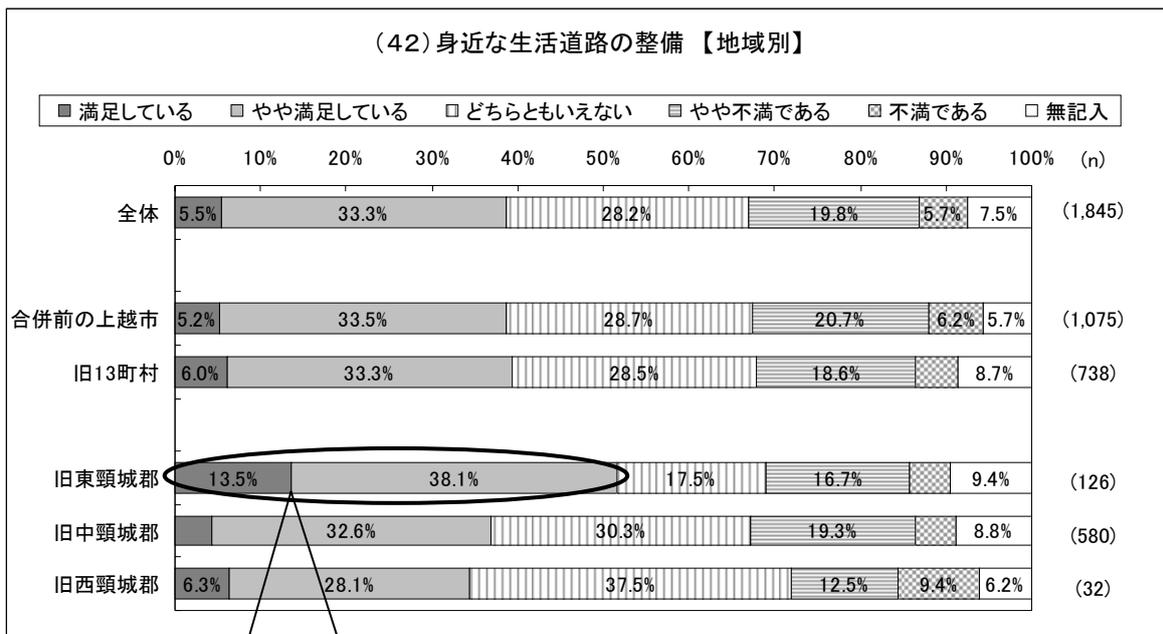
(42) 身近な生活道路の整備

<クロス集計(性別・年代別)>



20代、30代、40代で満足度が低い。特に20代は不満が多い。

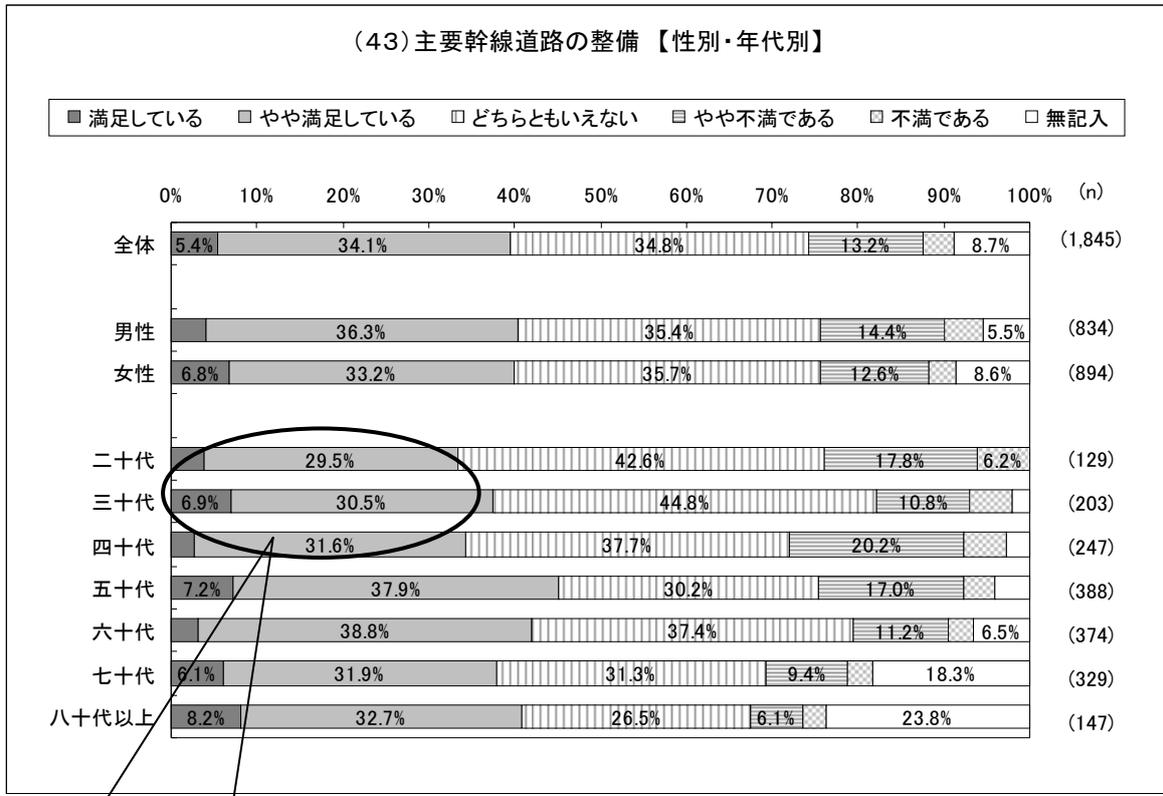
<クロス集計(地域別)>



旧東頸城郡の満足度が高い。

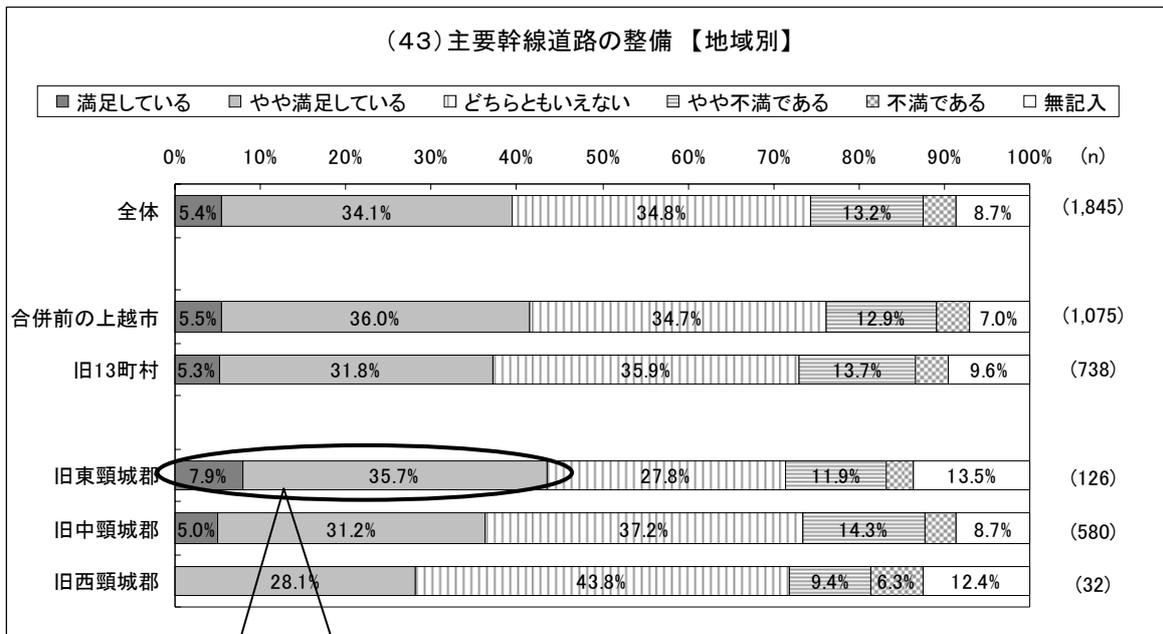
(43) 主要幹線道路の整備

<クロス集計(性別・年代別)>



20代、30代、40代で満足度が低い。

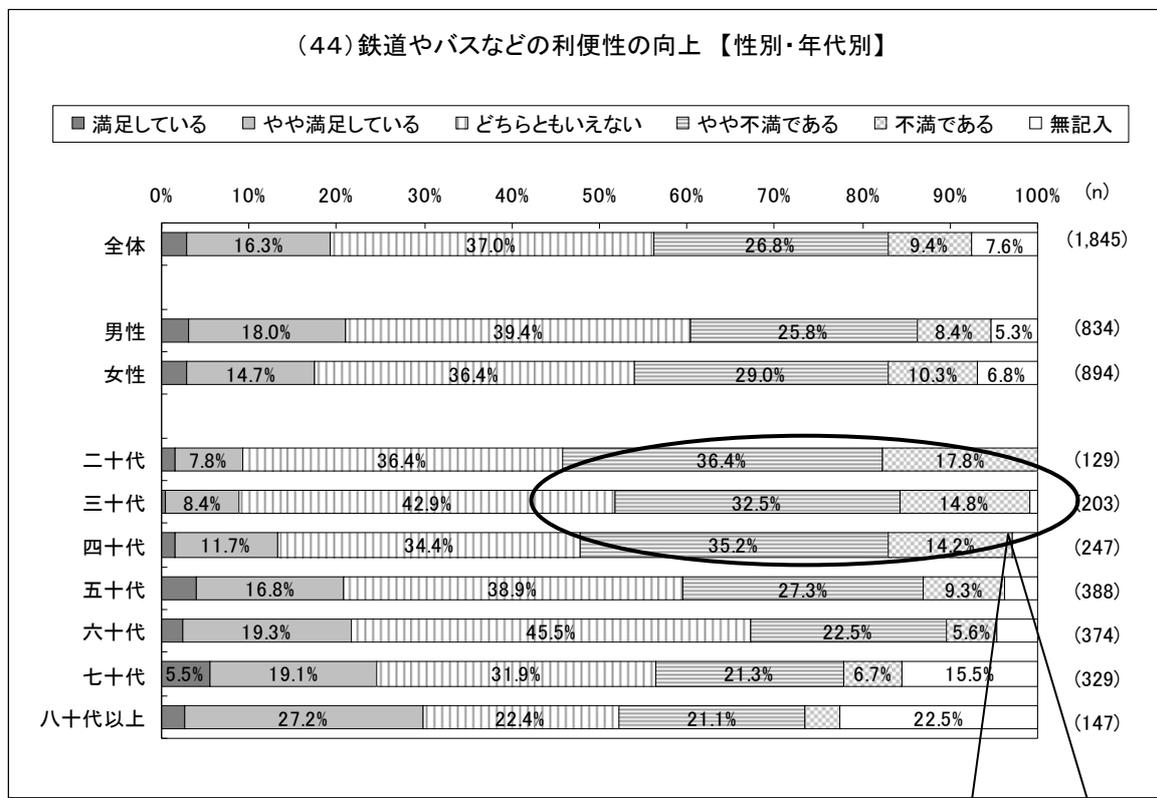
<クロス集計(地域別)>



旧東頸城郡の満足度が高い。

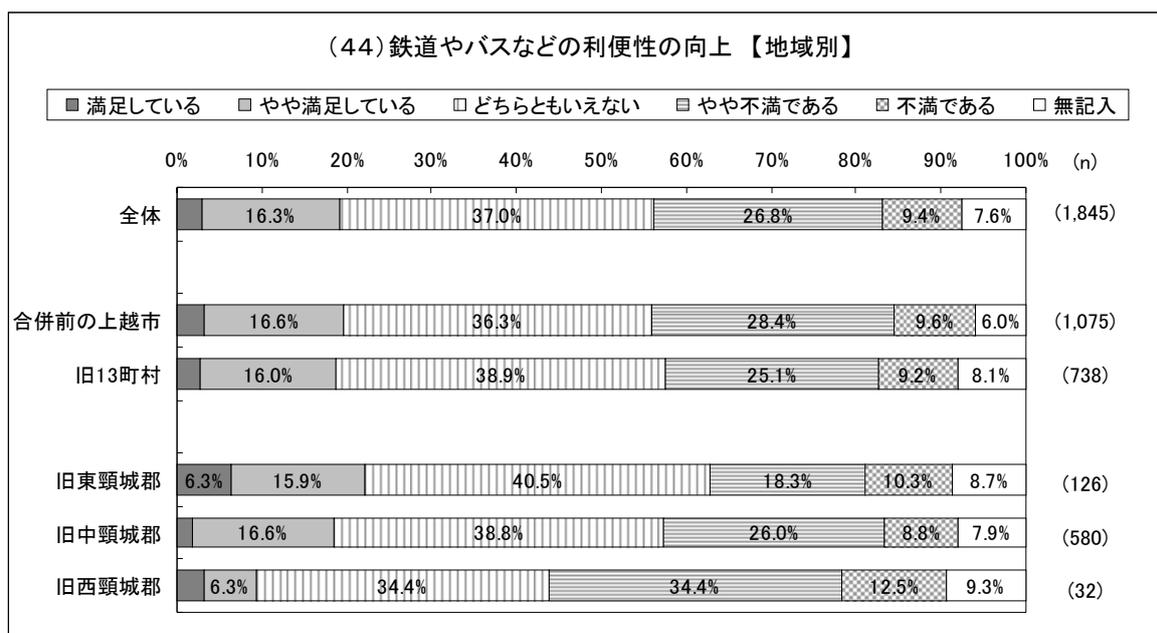
(44) 鉄道やバスなどの利便性の向上

<クロス集計(性別・年代別)>



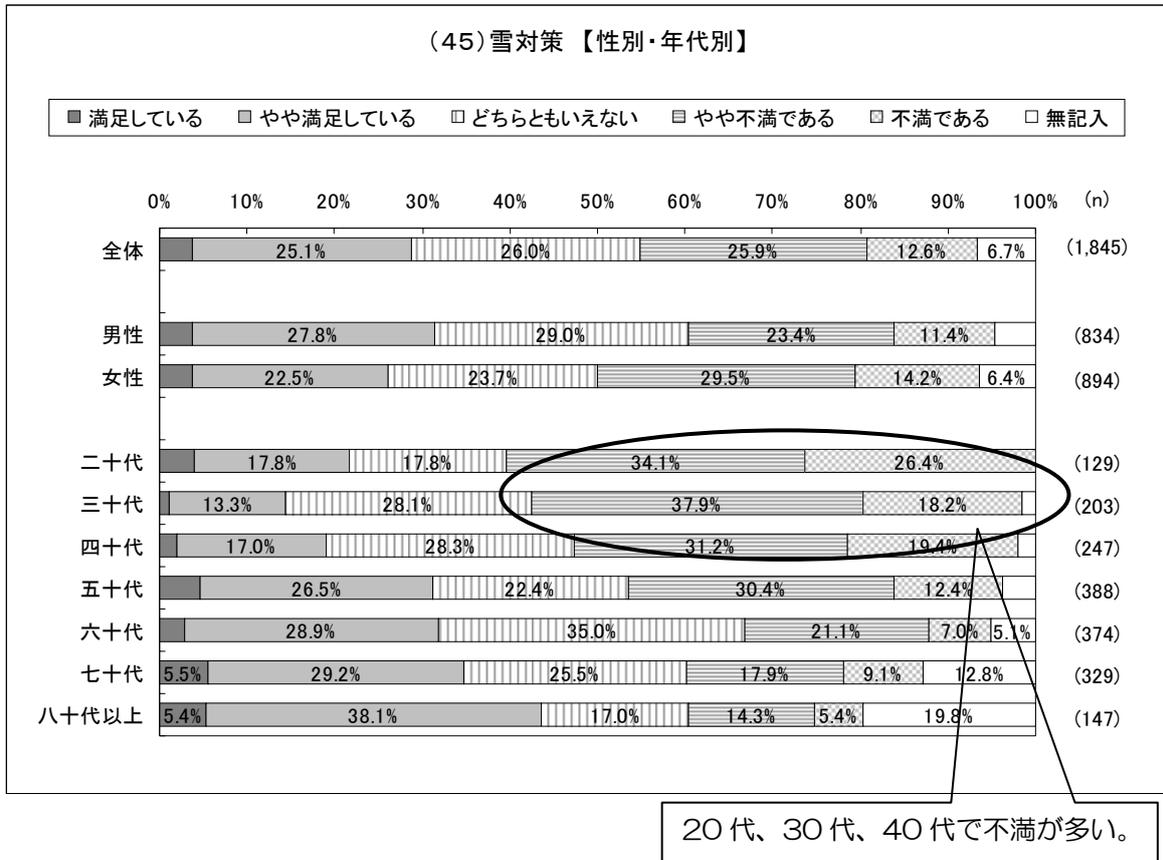
20代、30代、40代で不満が多い。

<クロス集計(地域別)>

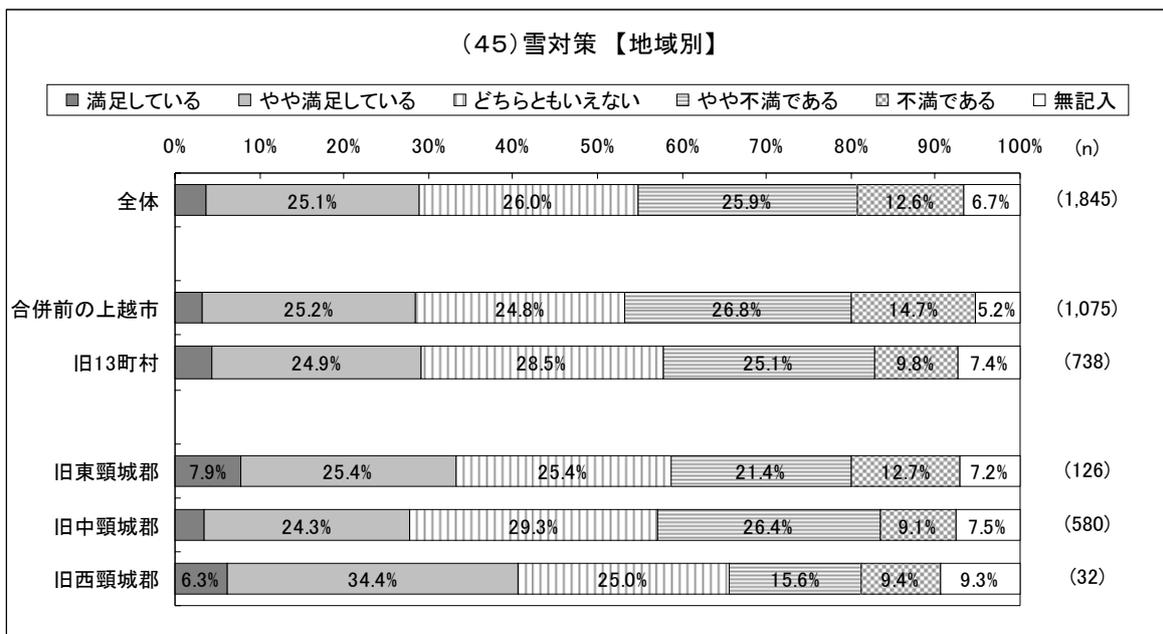


(45) 雪対策

<クロス集計（性別・年代別）>

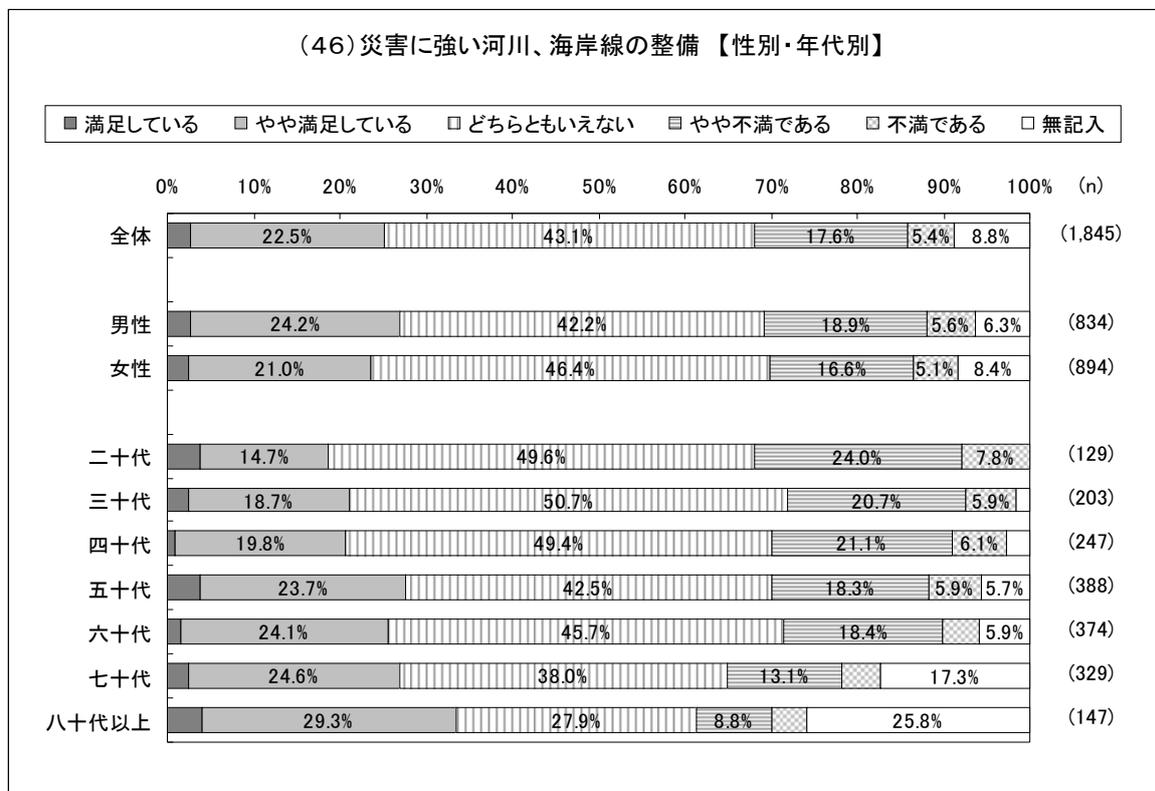


<クロス集計（地域別）>

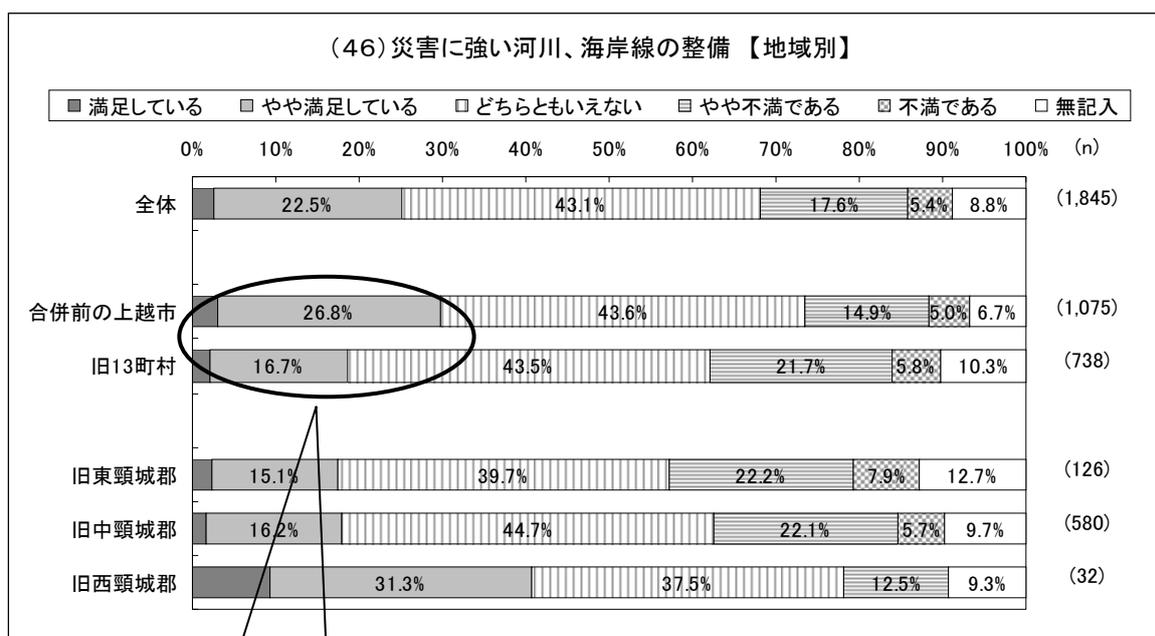


(46) 災害に強い河川、海岸線の整備

<クロス集計（性別・年代別）>



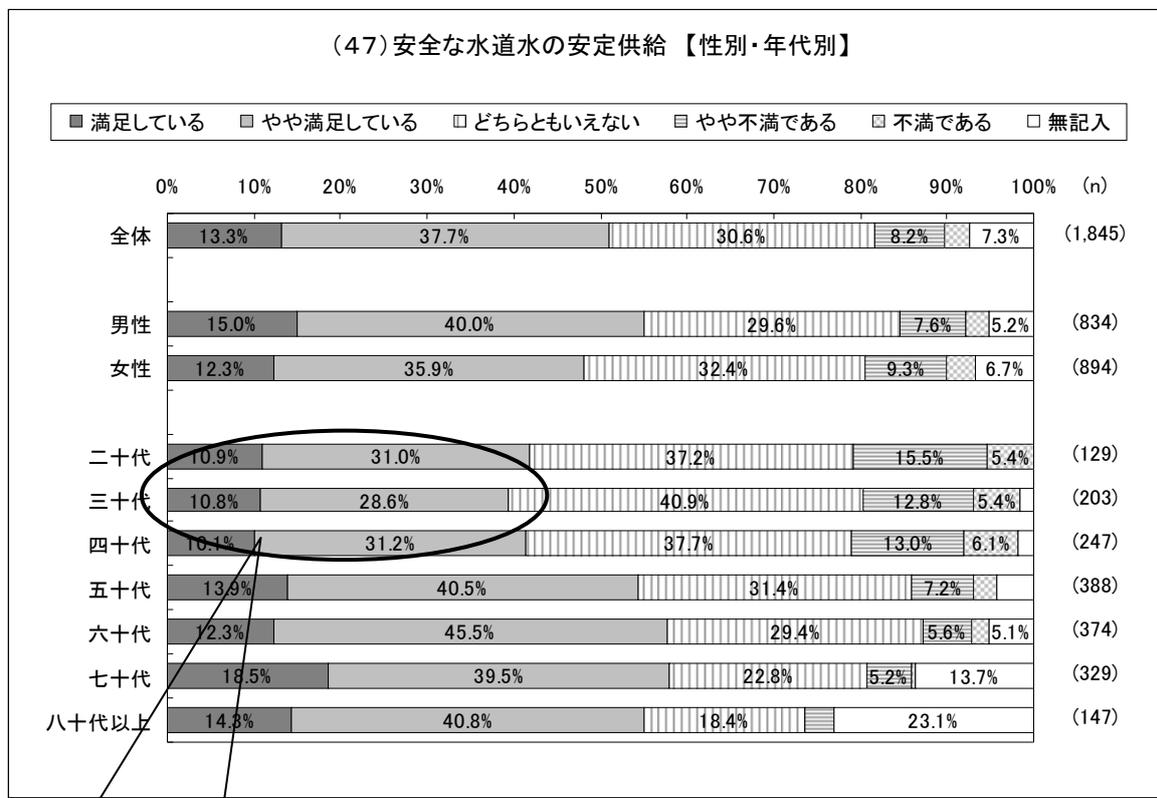
<クロス集計（地域別）>



旧13町村の満足度が低い。

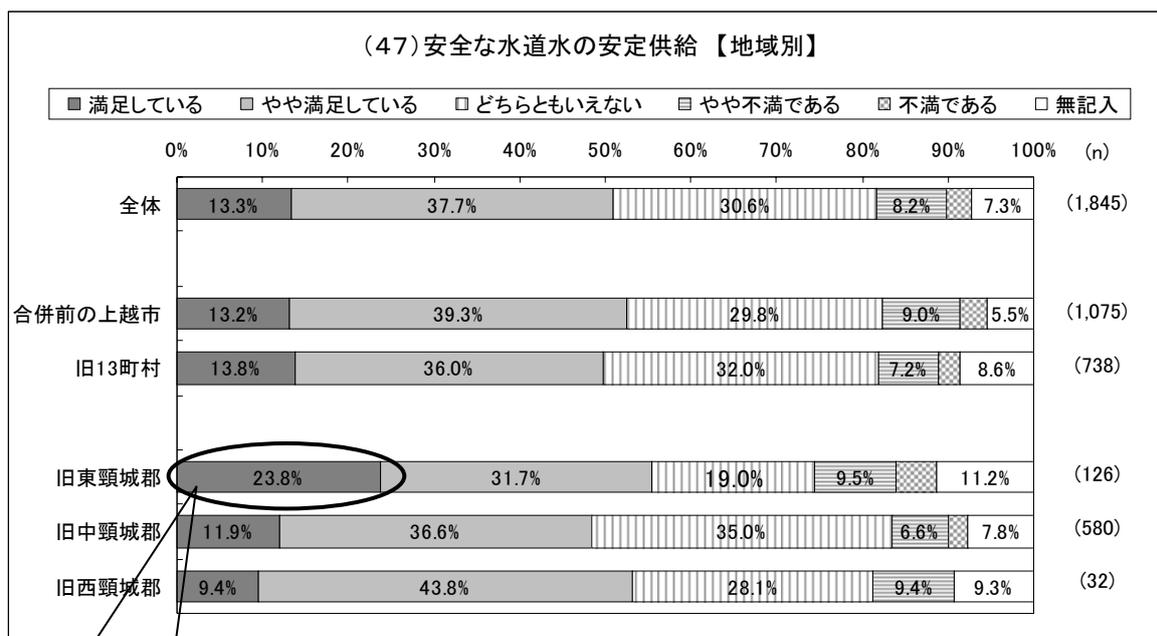
(47) 安全な水道水の安定供給

<クロス集計(性別・年代別)>



20代、30代、40代で満足度が低い。

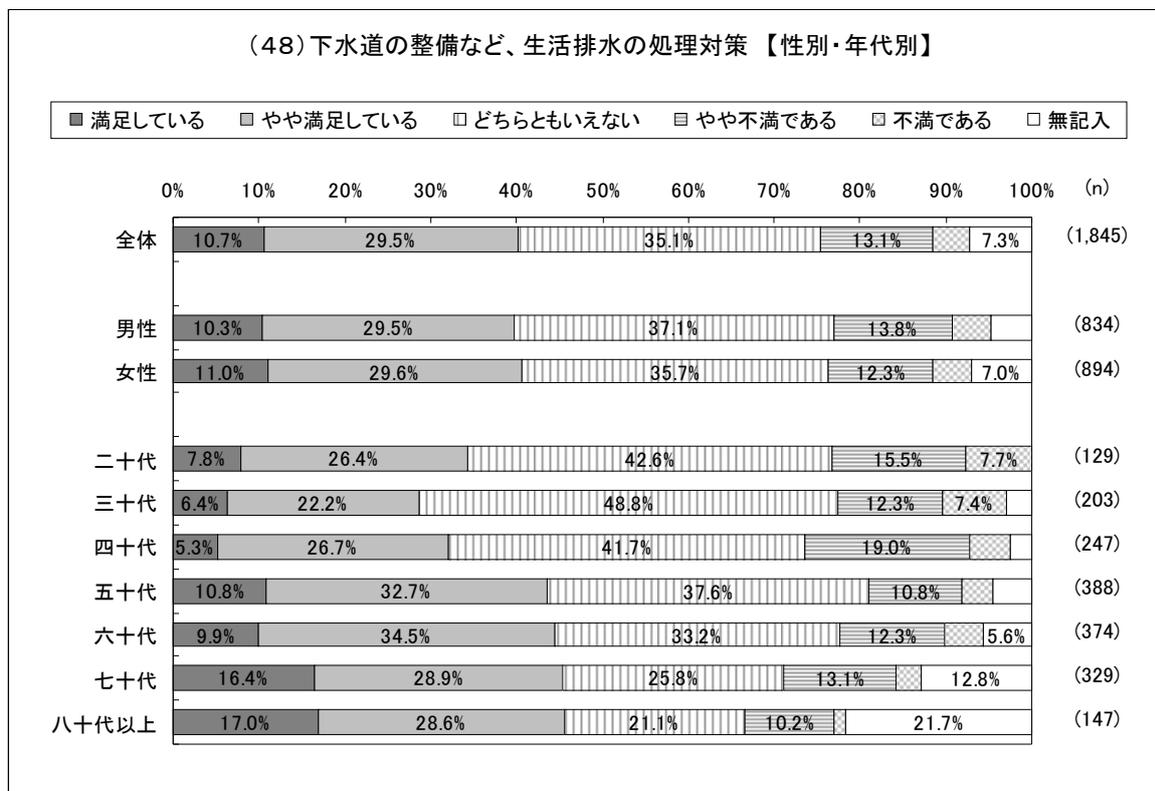
<クロス集計(地域別)>



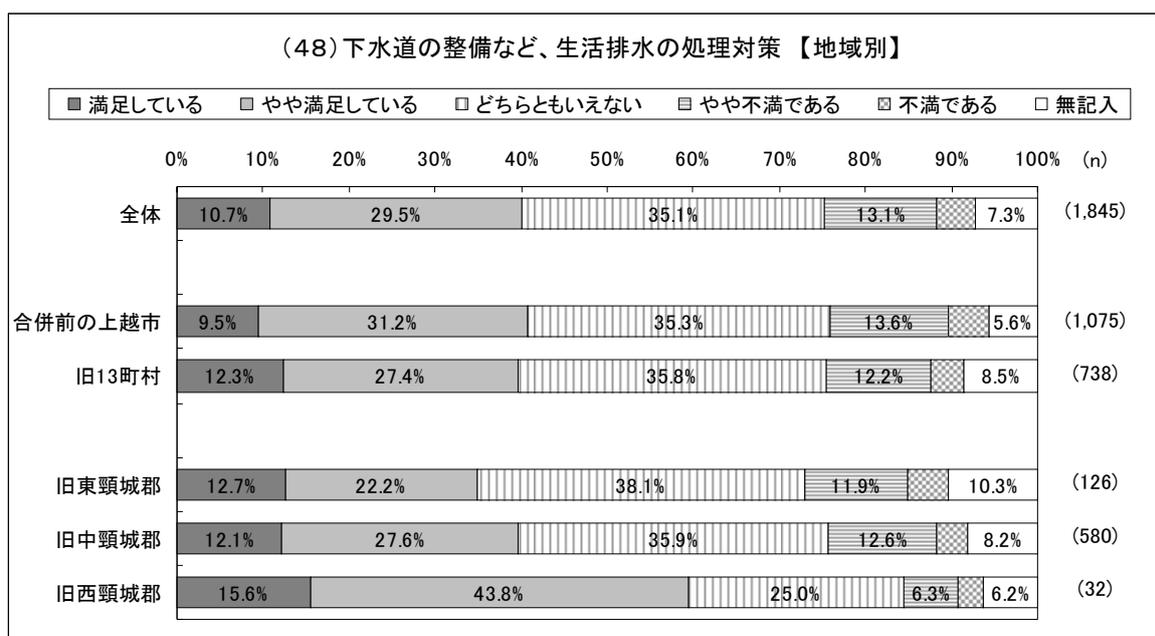
旧東頸城郡の満足度が高い。

(48) 下水道の整備など、生活排水の処理対策

<クロス集計(性別・年代別)>

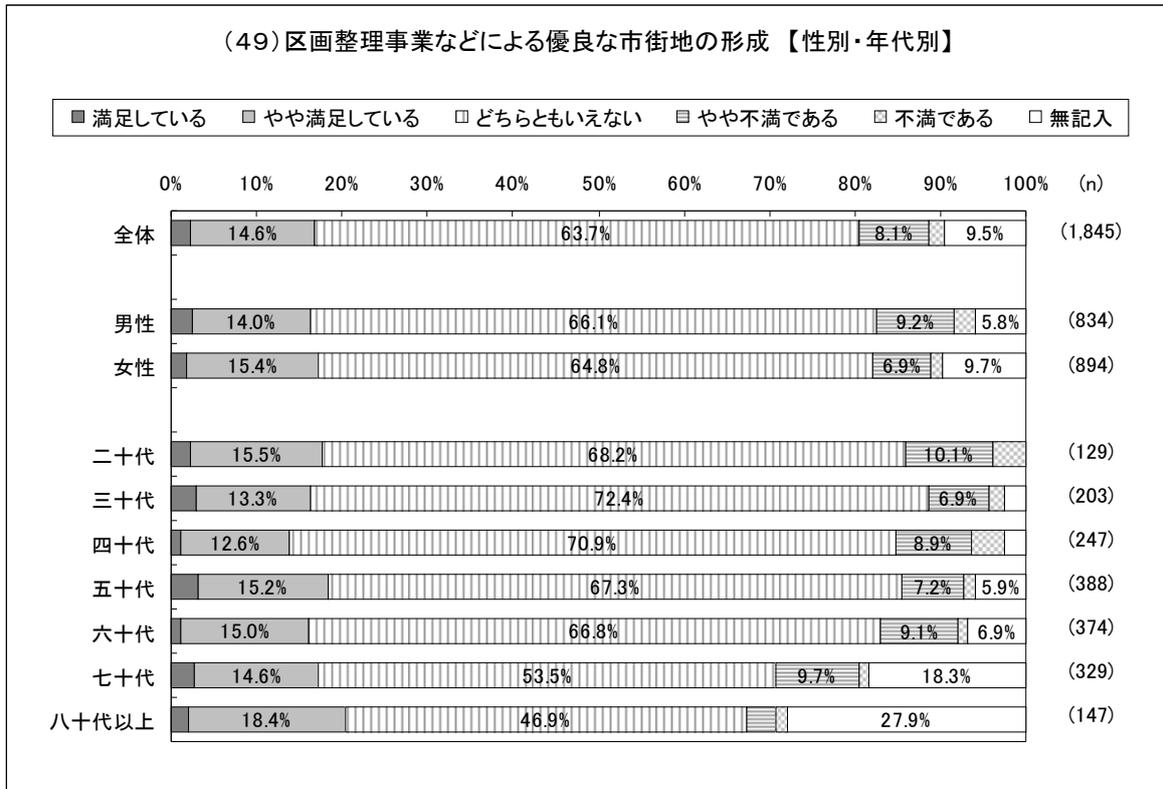


<クロス集計(地域別)>

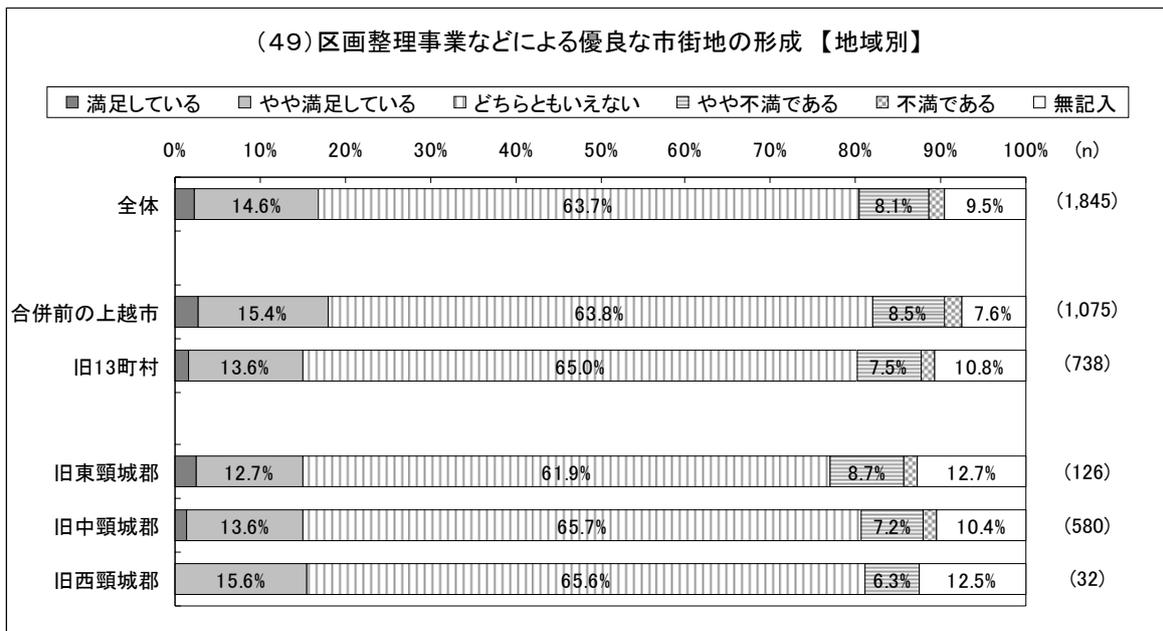


(49) 区画整理事業などによる優良な市街地の形成

<クロス集計（性別・年代別）>

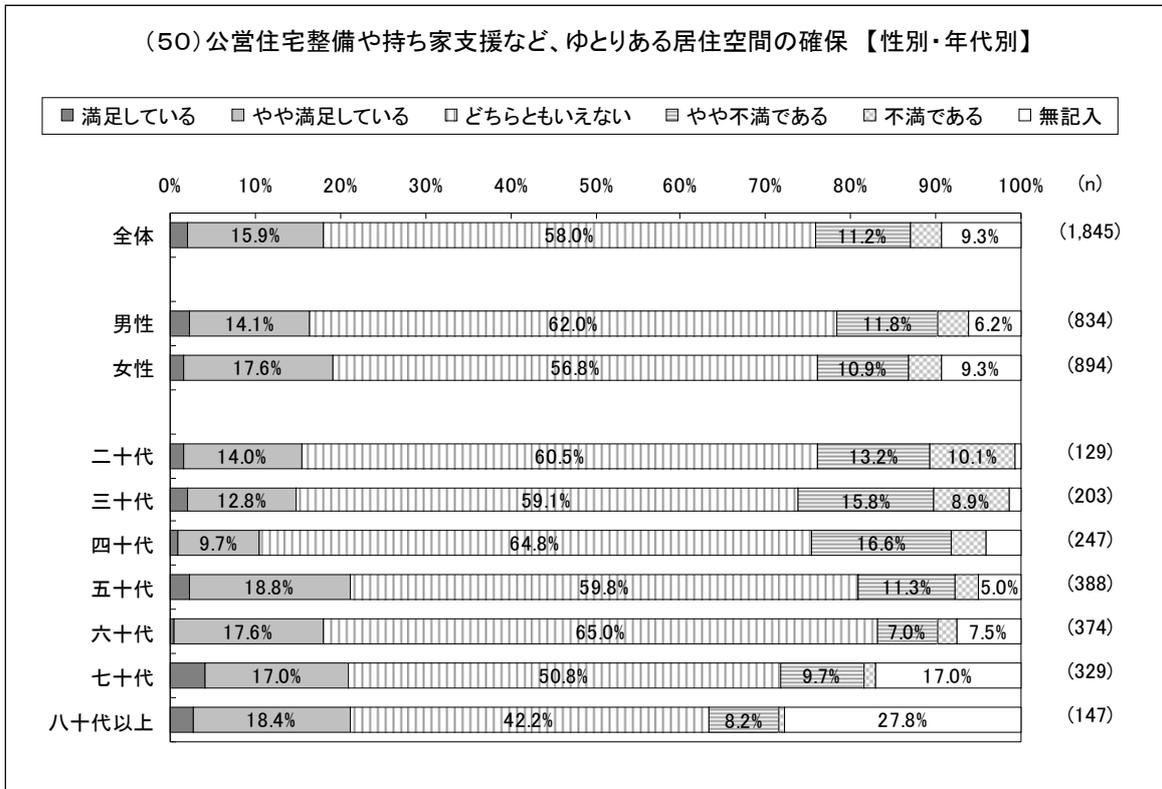


<クロス集計（地域別）>

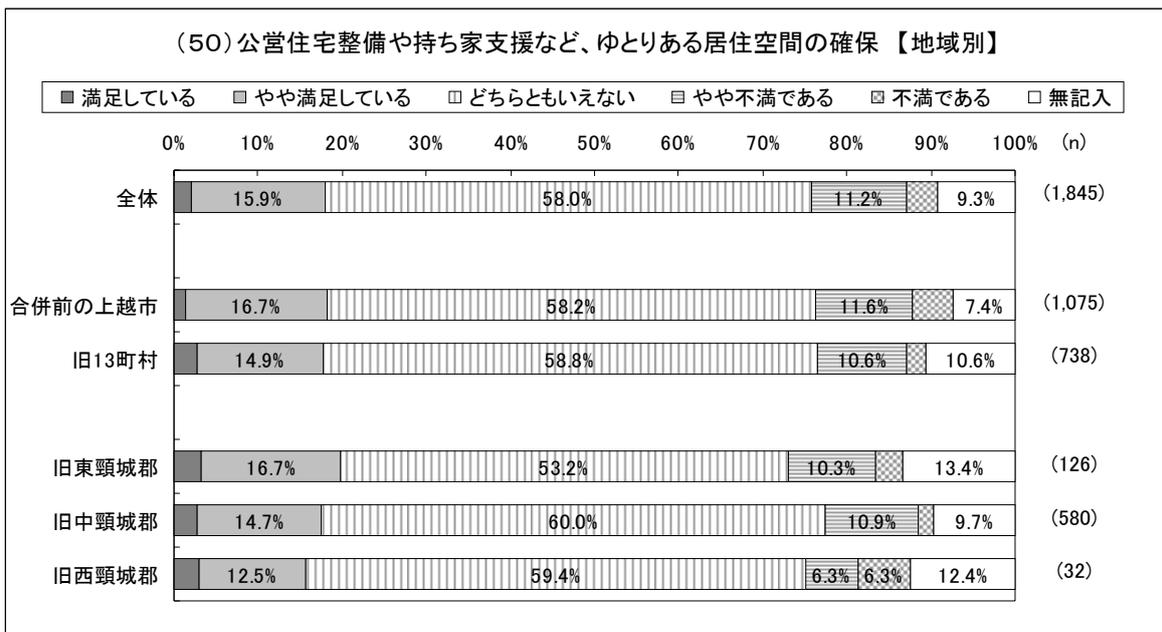


(50) 公営住宅整備や持ち家支援など、ゆとりある居住空間の確保

<クロス集計（性別・年代別）>

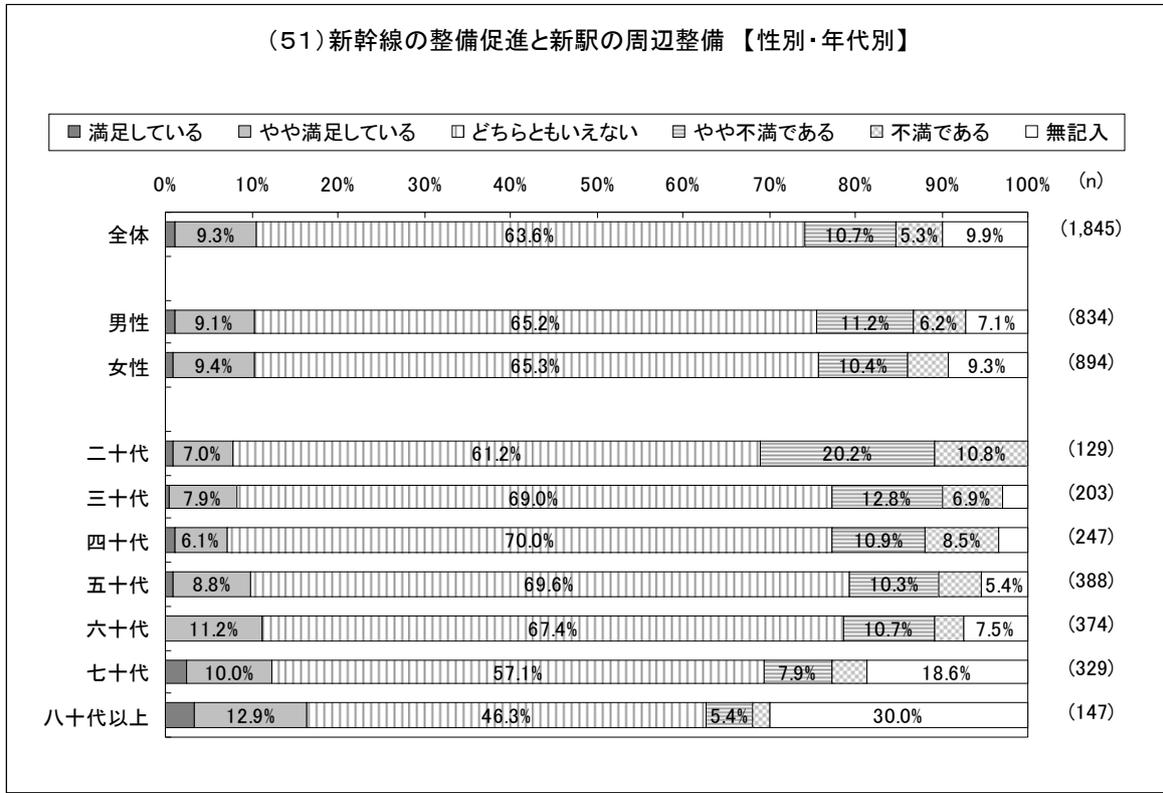


<クロス集計（地域別）>

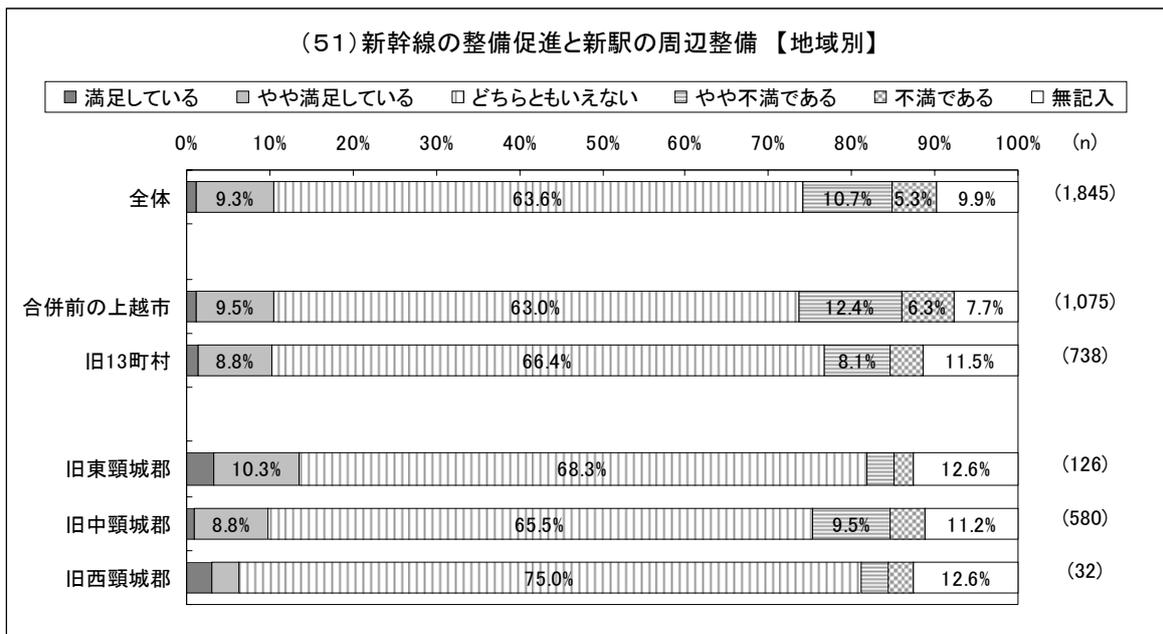


(51) 新幹線の整備促進と新駅の周辺整備

<クロス集計（性別・年代別）>

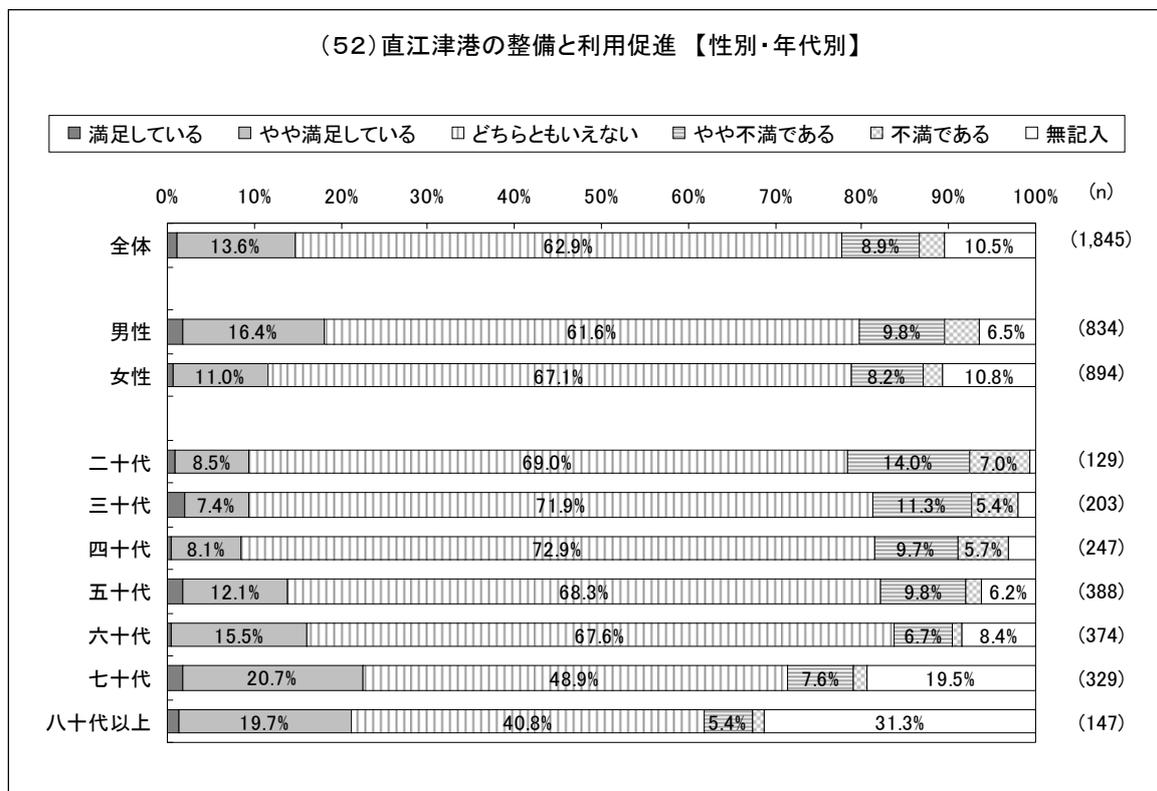


<クロス集計（地域別）>

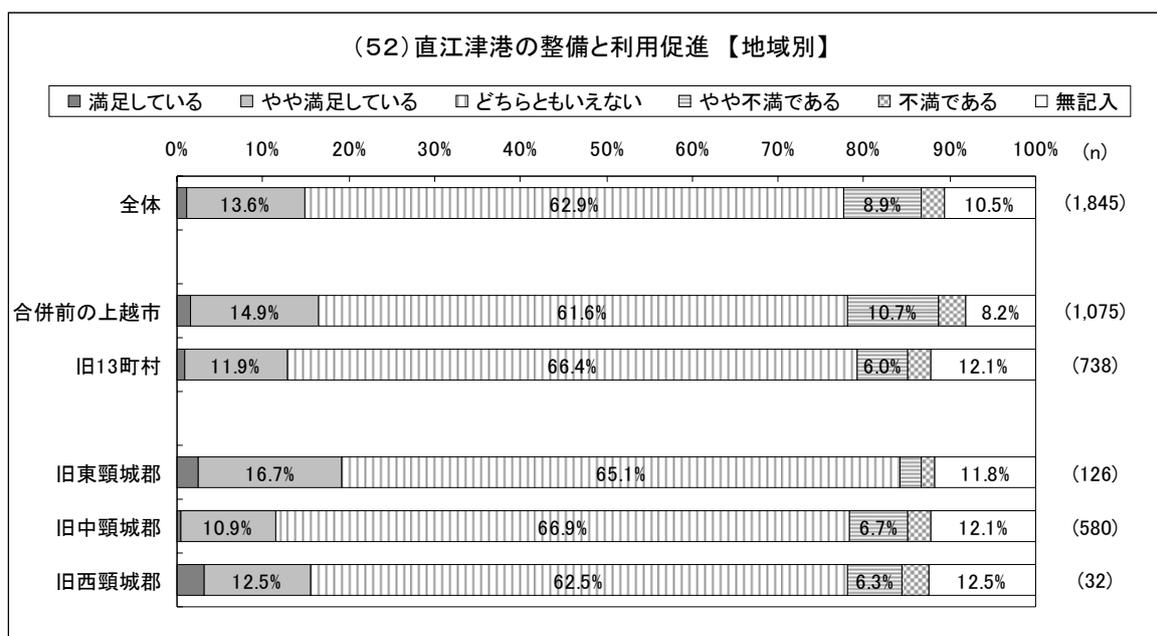


(52) 直江津港の整備と利用促進

<クロス集計（性別・年代別）>

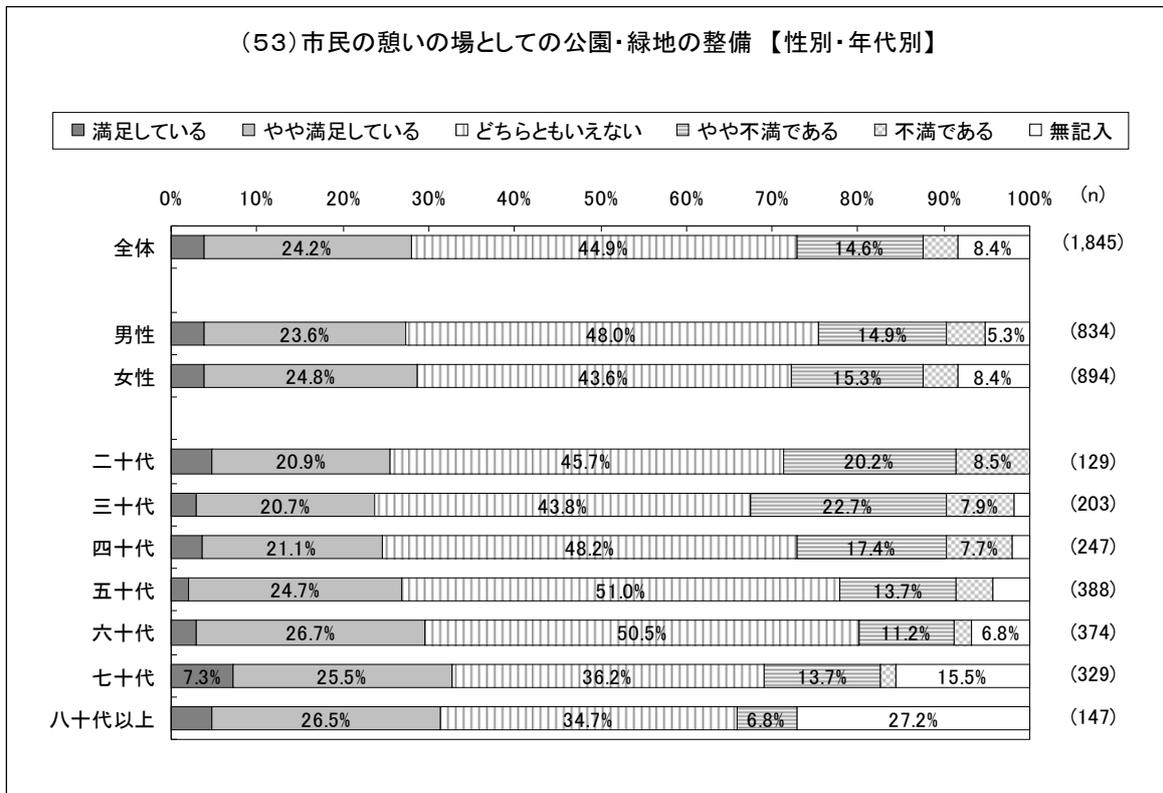


<クロス集計（地域別）>

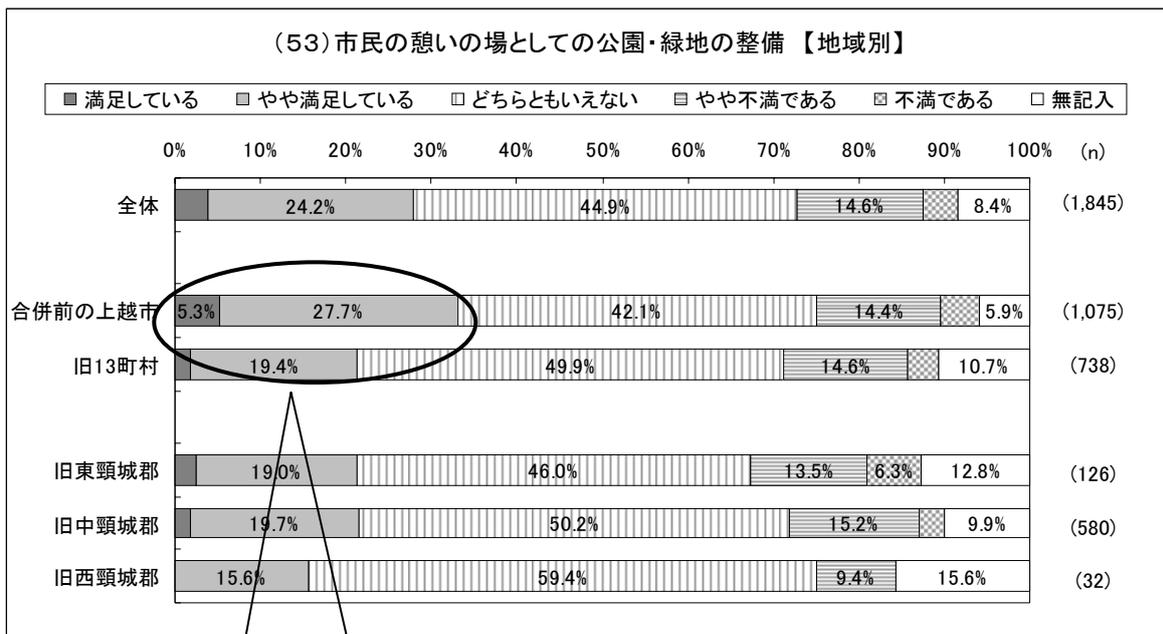


(53) 市民の憩いの場としての公園・緑地の整備

<クロス集計（性別・年代別）>



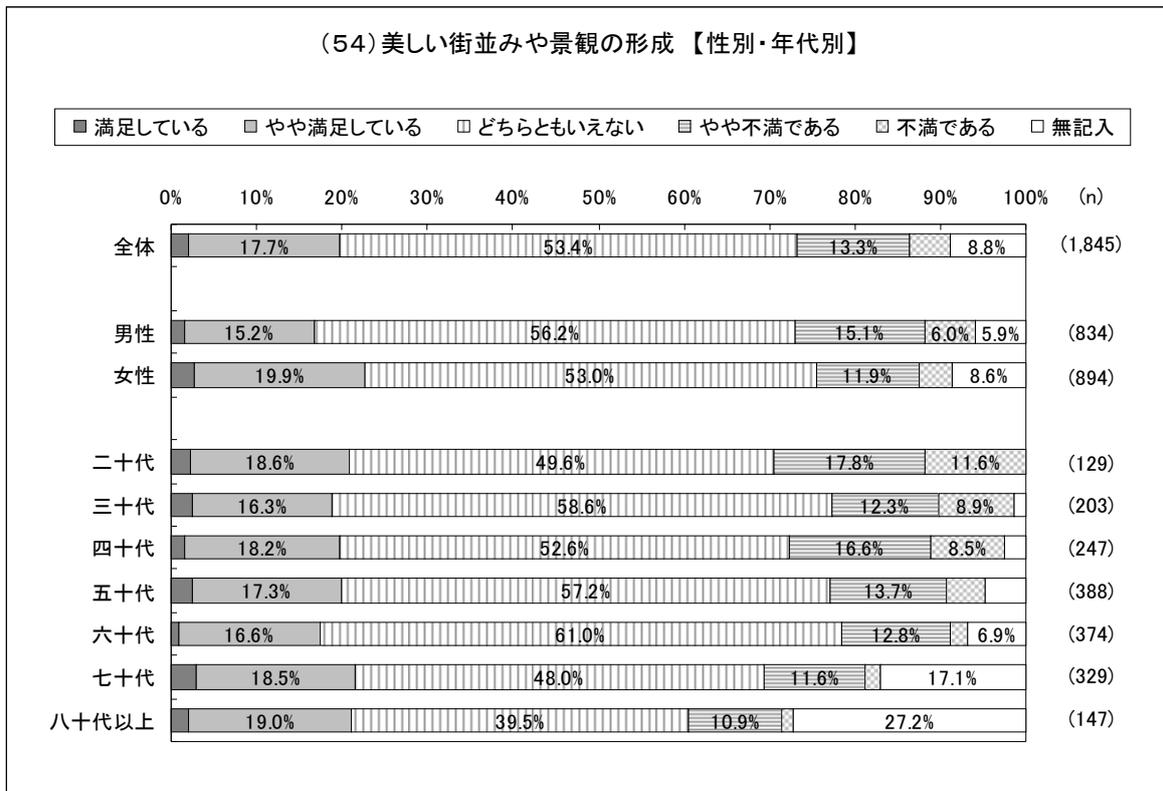
<クロス集計（地域別）>



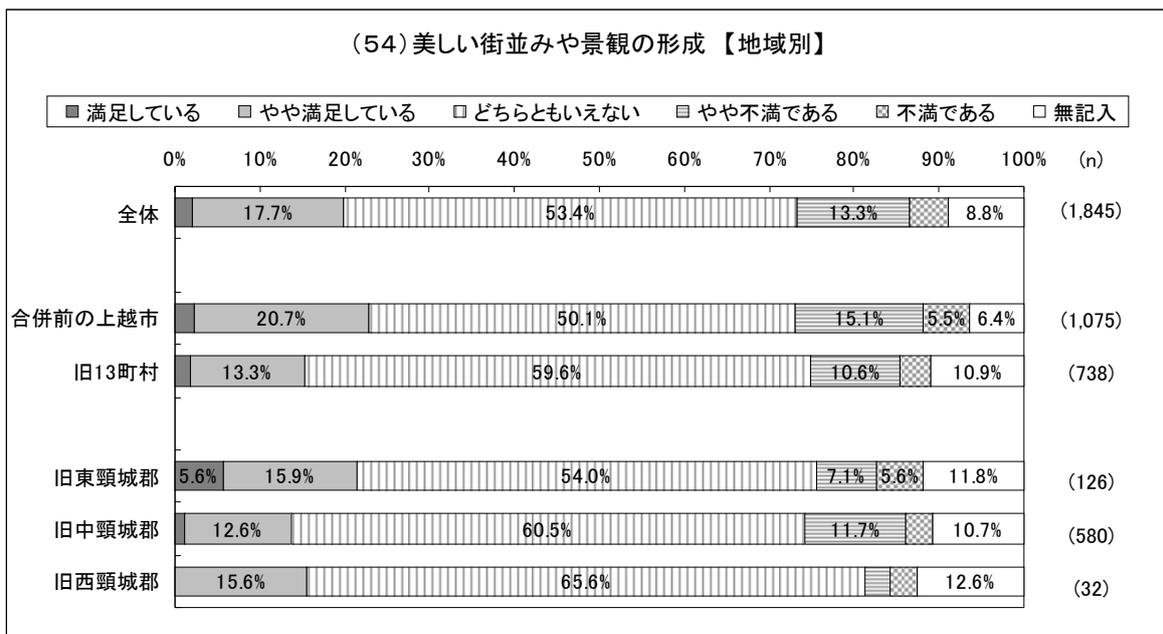
合併前の上越市の満足度が高い。

(54) 美しい街並みや景観の形成

<クロス集計（性別・年代別）>

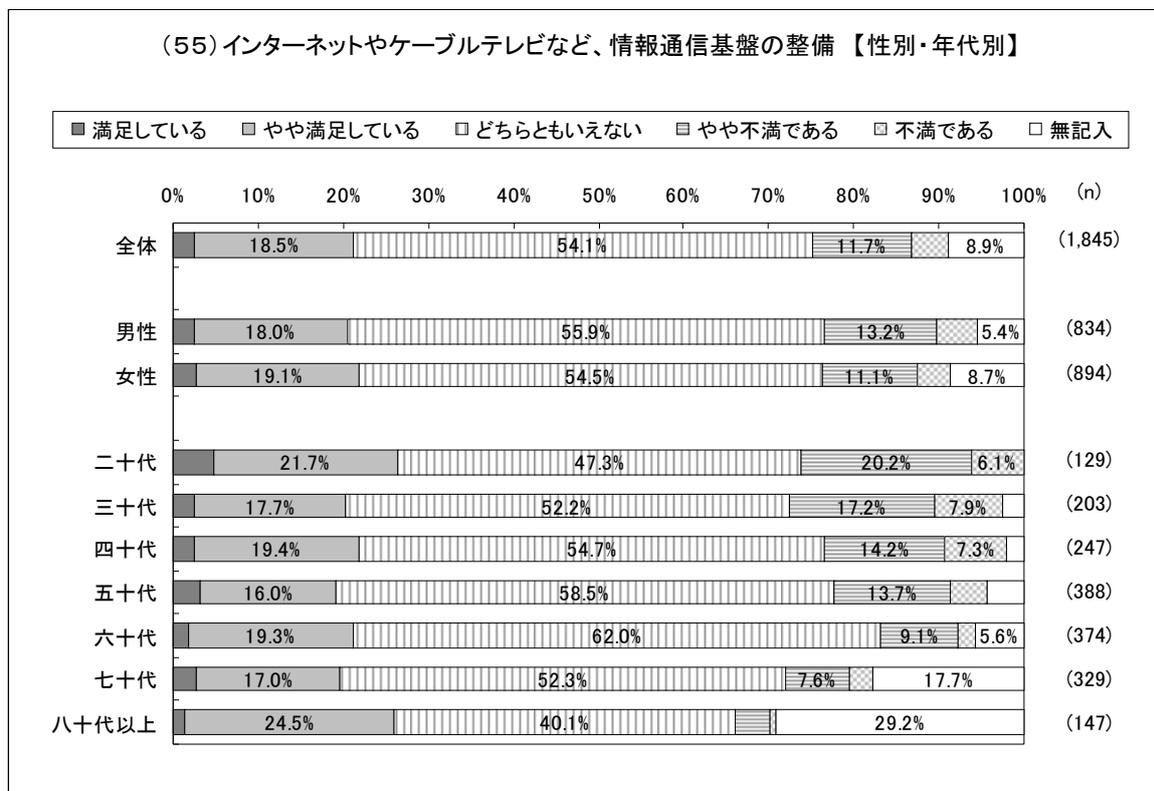


<クロス集計（地域別）>

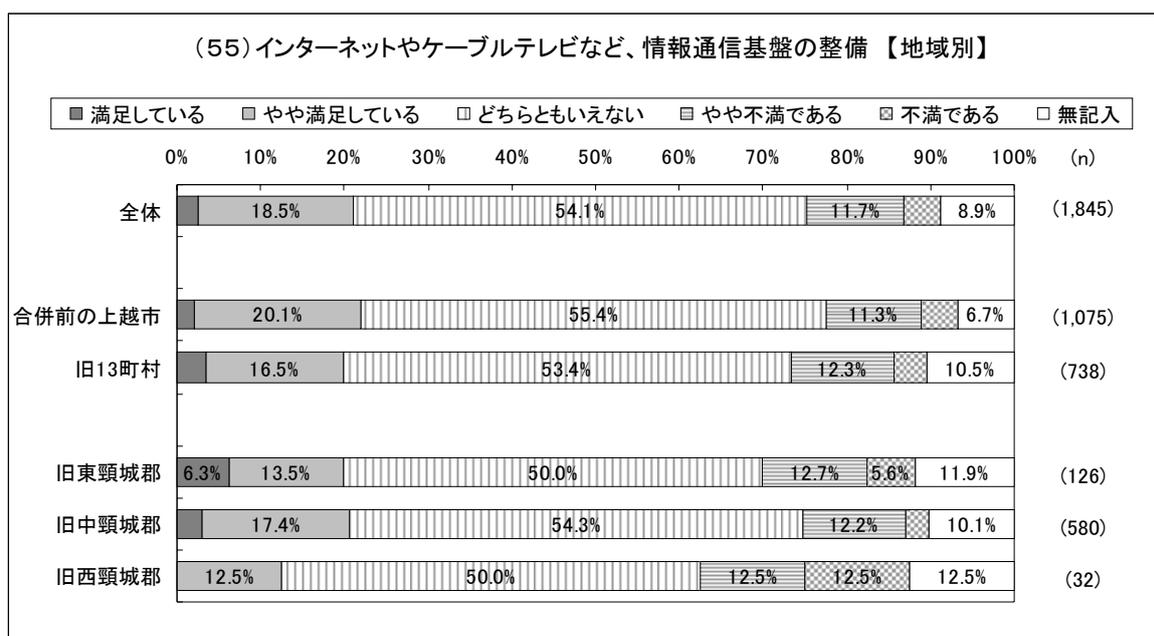


(55) インターネットやケーブルテレビなど、情報通信基盤の整備

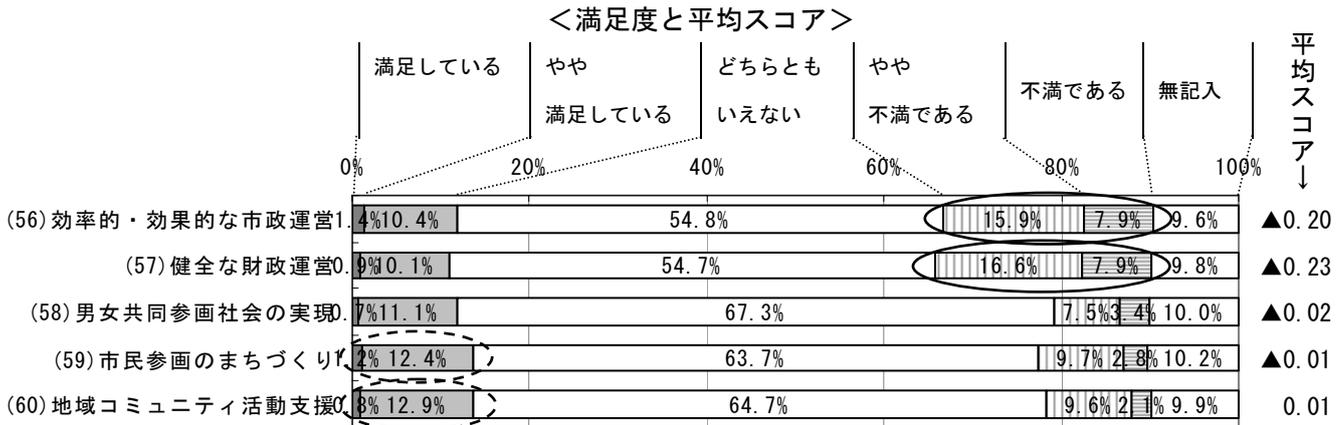
<クロス集計（性別・年代別）>



<クロス集計（地域別）>



● 行財政・市民参加分野 ●



分野の平均スコア ▲0.09
 (全体平均スコア ▲0.01)

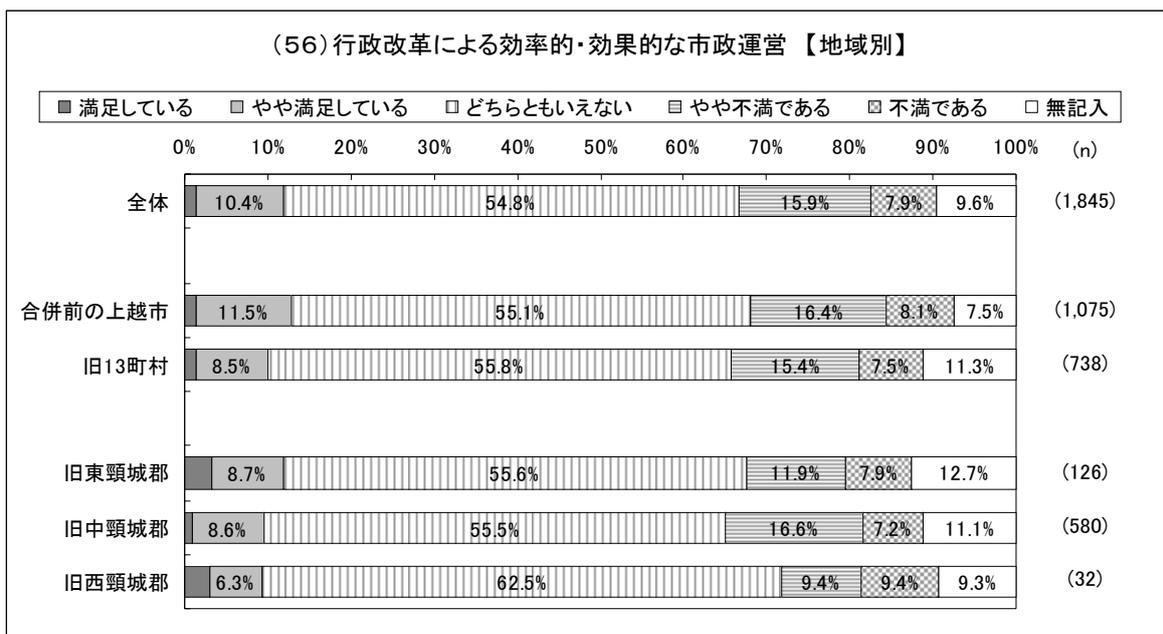
「満足している」「やや満足している」の合計は、ほぼすべての取組で同じ程度となっている。
 「不満である」「やや不満である」の合計は、「効率的・効果的な市政運営」と「健全な財政運営」が他の取組に比べて高い。
 「分野の平均スコア」は-0.09 で、「全体の平均スコア」-0.01 と比べて低く、6 分野中 5 番目と、満足度の低い分野であるといえる。
 「平均スコア」は、「地域コミュニティ活動支援」が若干高く、逆に、「効率的・効果的な市政運営」と「健全な財政運営」で低い。
行財政の運営については、女性に比べて男性の不満が多くなっている。

(56) 行政改革による効率的・効果的な市政運営

<クロス集計（性別・年代別）>



<クロス集計（地域別）>

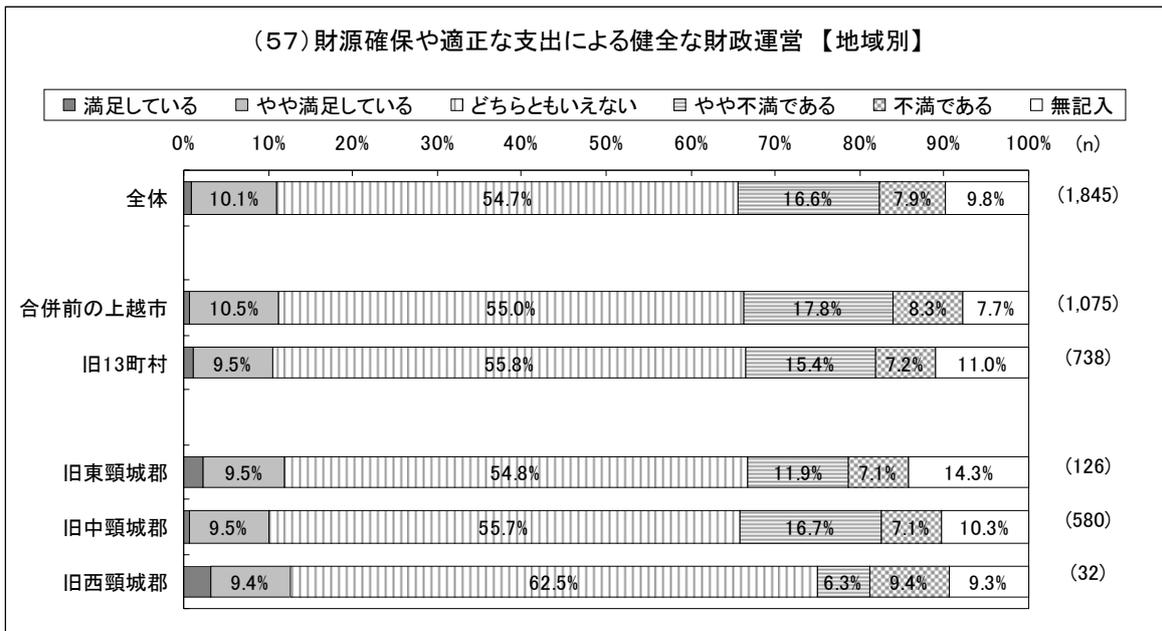


(57) 財源確保や適正な支出による健全な財政運営

<クロス集計（性別・年代別）>

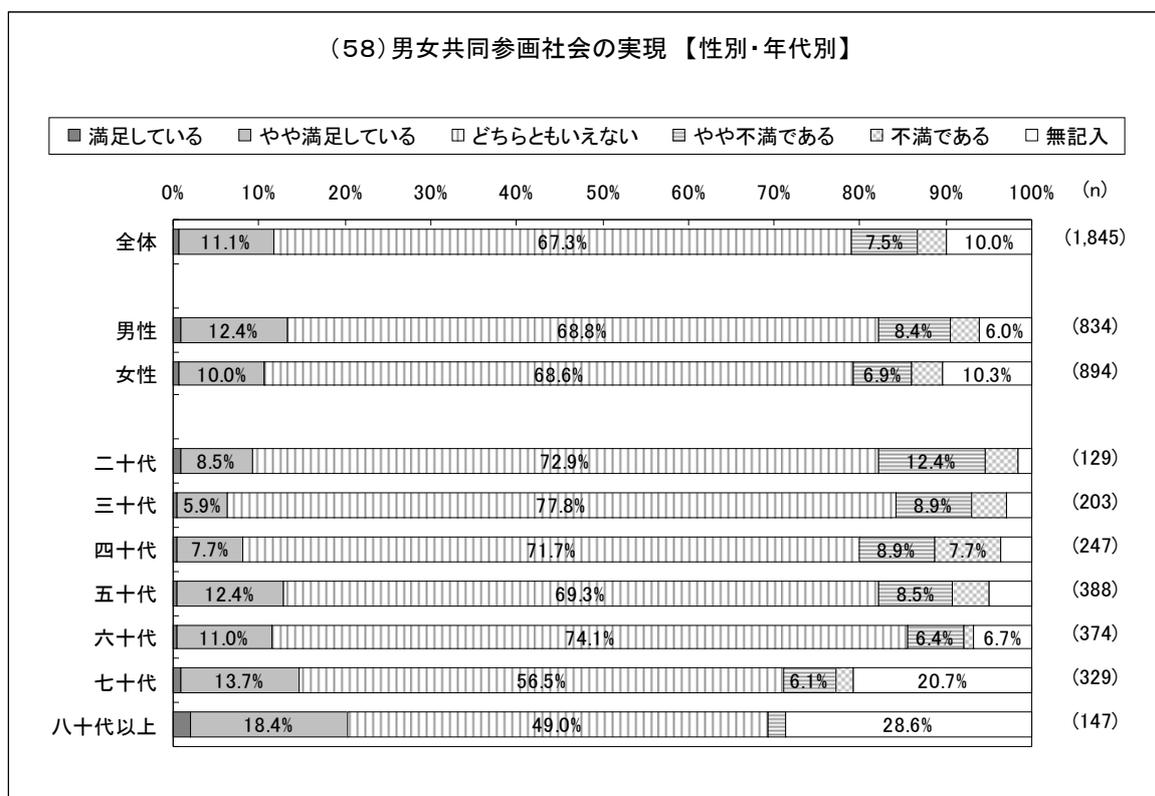


<クロス集計（地域別）>

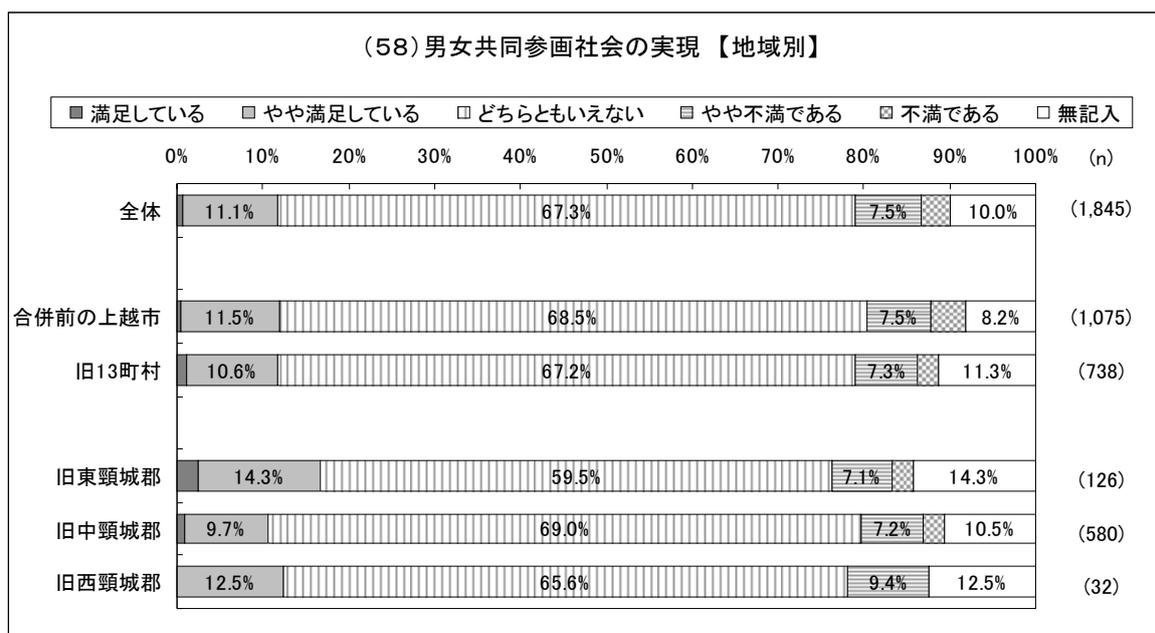


(58) 男女共同参画社会の実現

<クロス集計（性別・年代別）>

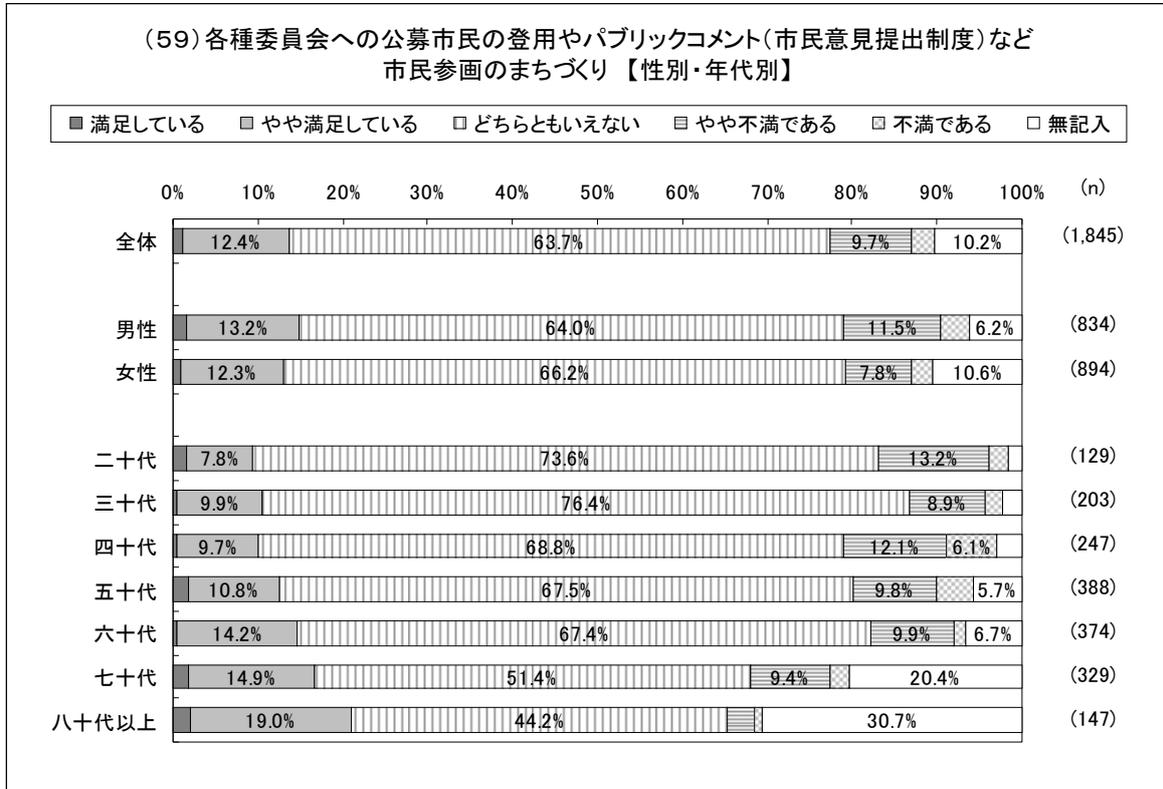


<クロス集計（地域別）>

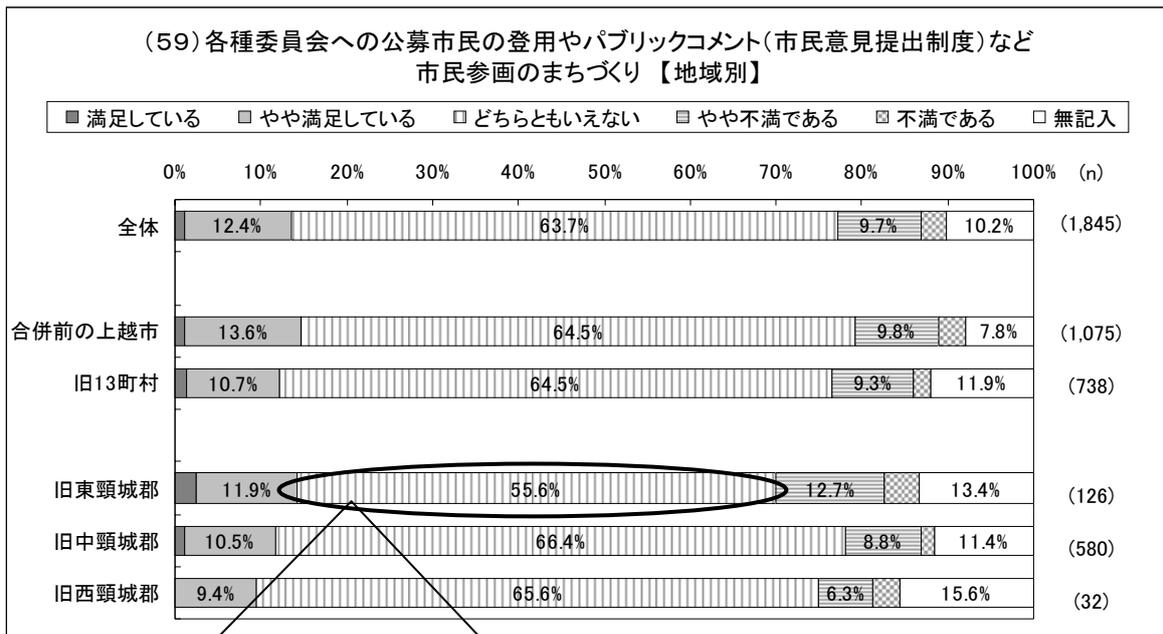


(59) 各種委員会への公募市民の登用やパブリックコメント(市民意見提出制度)など、市民参画のまちづくり

<クロス集計(性別・年代別)>



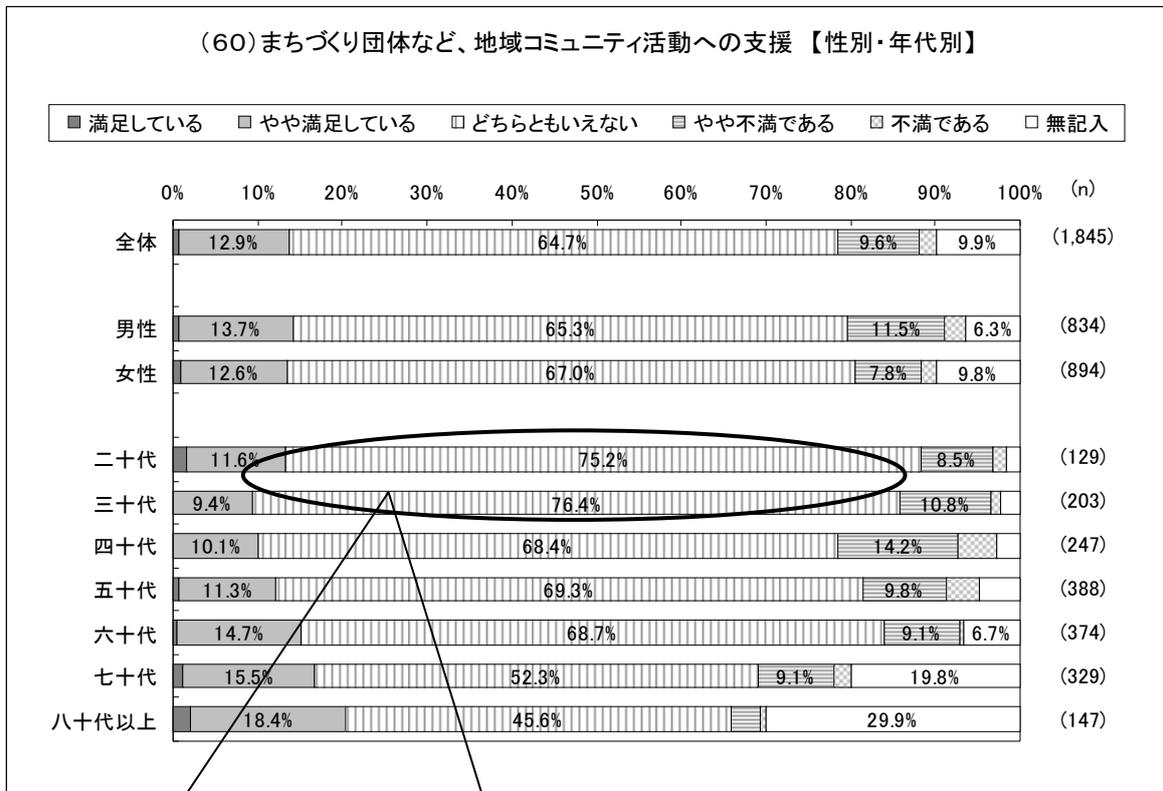
<クロス集計(地域別)>



旧東頸城郡で、満足、不満の回答が多くなっており、「どちらともいえない」の回答が少ない。

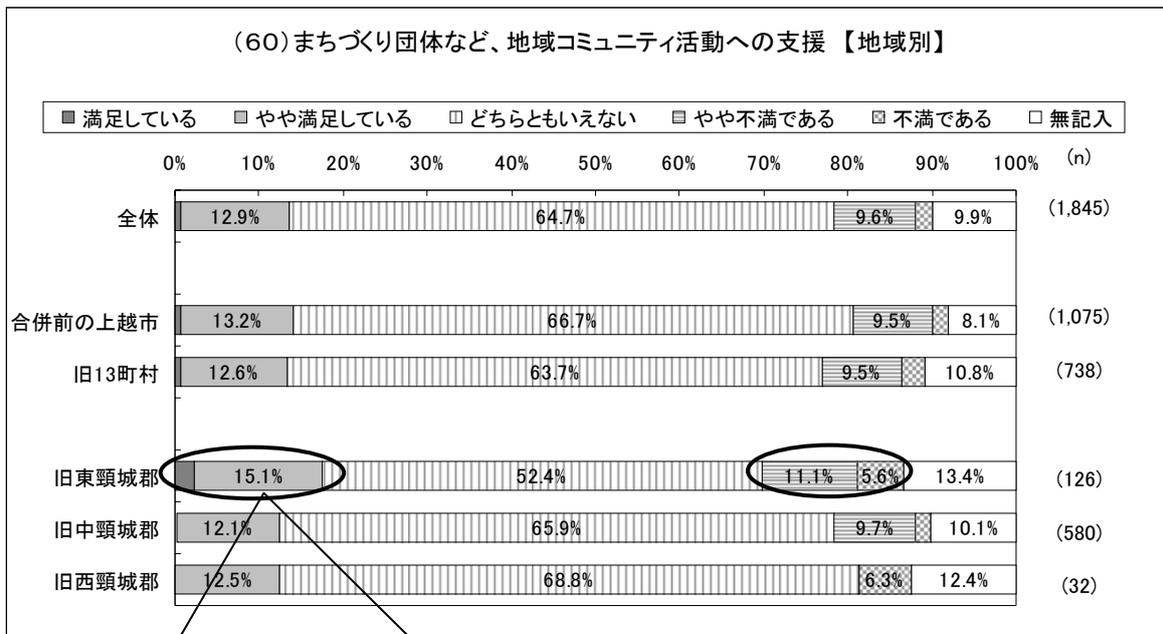
(60) まちづくり団体など、地域コミュニティ活動への支援

<クロス集計(性別・年代別)>



20代、30代では、「どちらともいえない」が多く、活動への参加や関心が低いことを反映している。

<クロス集計(地域別)>



旧東頸城郡では、満足度が高い一方で不満度も高く、活動への参加や関心が高いことを反映している。

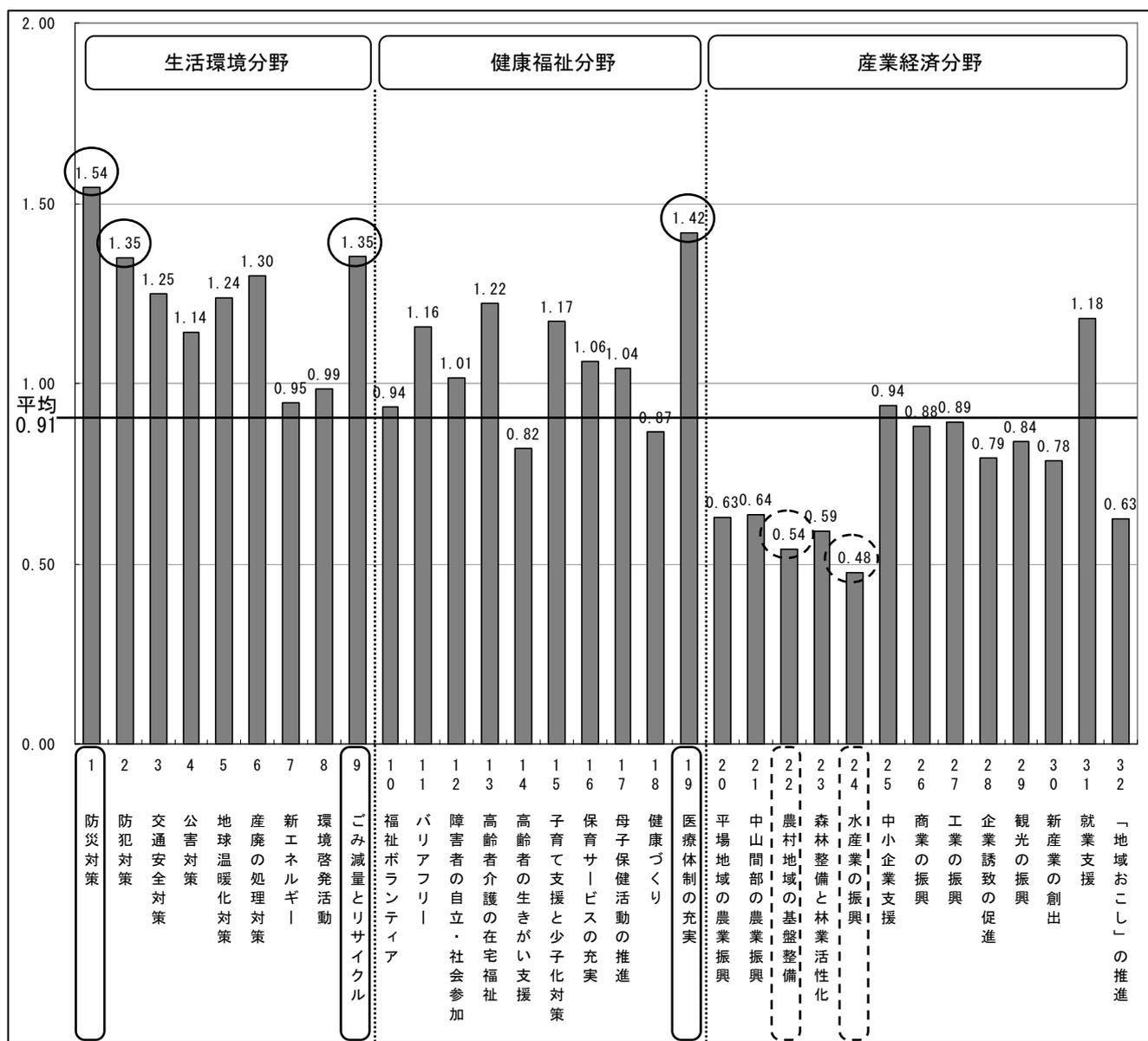
4-4 全体の重要度

ここでは全体的な重要度について結果を見てみる。

◆平均スコア

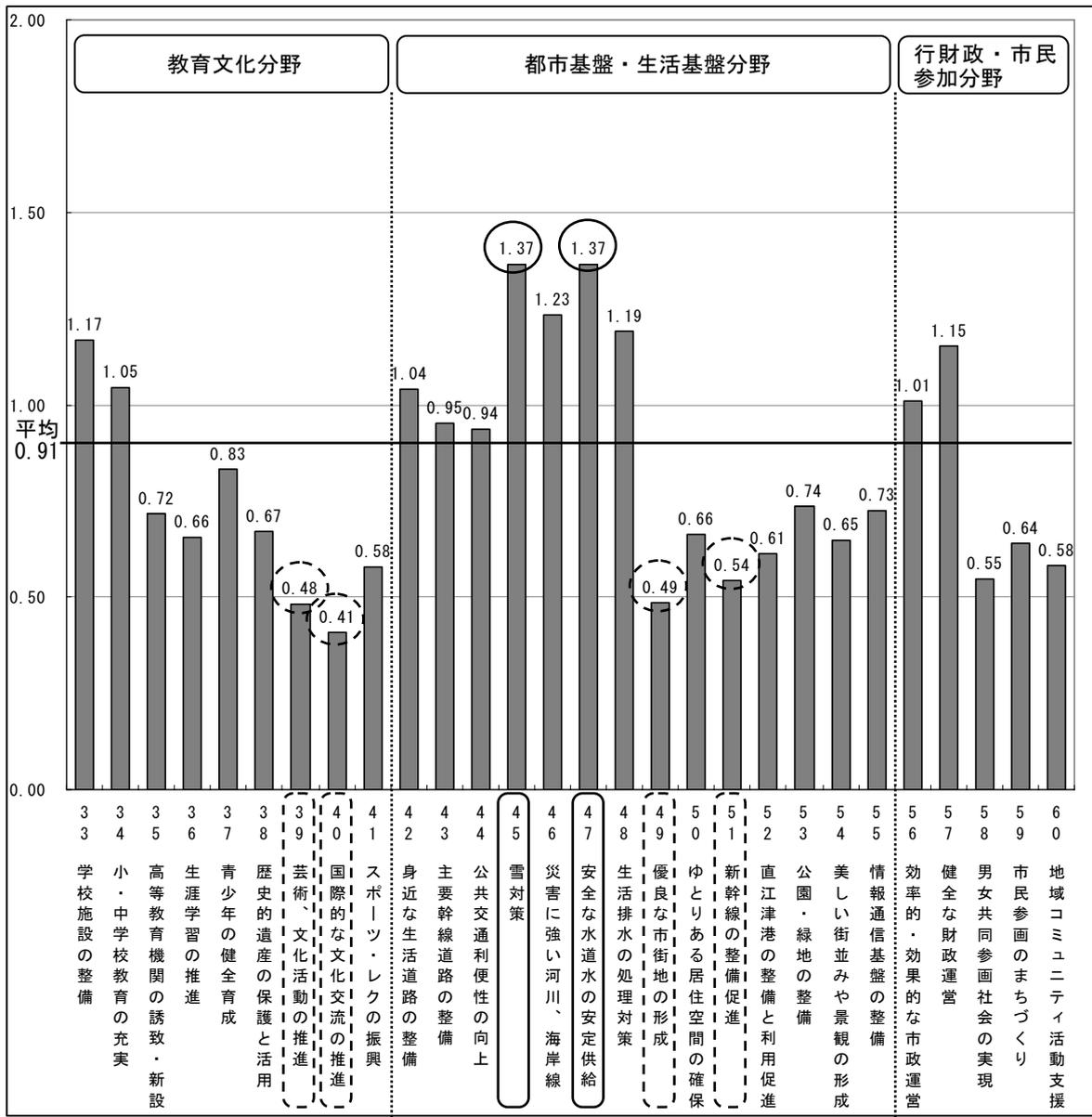
各項目に対する重要度の評価を点数化した「平均スコア」は以下のとおりである。

重要度の平均スコアは、住民の評価が高く全体の平均が0.91となった（0を下回る項目は無い）。



※ 平均スコアの算出方法

「大変重要である」に+2、「ある程度重要である」に+1、「どちらともいえない」に0、「あまり重要ではない」に-1、「全く重要ではない」に-2を与え、その平均点を算出した。未記入の回答は計算に含めず、母数からも除外した。



	「平均スコア」の高い取組	「平均スコア」の低い取組
1位	[1]防災対策 (1.54)	[40]国際的な文化交流の推進 (0.41)
2位	[19]医療体制の充実 (1.42)	[24]水産業の振興 (0.48) /
3位	[45]雪対策 (1.37) /	[39]芸術・文化活動の推進 (0.48)
4位	[47]安全な水道水の安定供給 (1.37)	[49]優良な市街地の形成 (0.49)
5位	[2]防犯対策 (1.35) /	[22]農村地域の基盤整備 (0.54)
	[9]ごみ減量とリサイクル (1.35)	[51]新幹線の整備促進 (0.54)

防災対策の得点が最も高い。これは、近年の中越大震災や台風、大雨災害などにより、自然災害の発生に対する意識が高まっていることが要因と考えられる。

4-5 満足度と重要度の比較

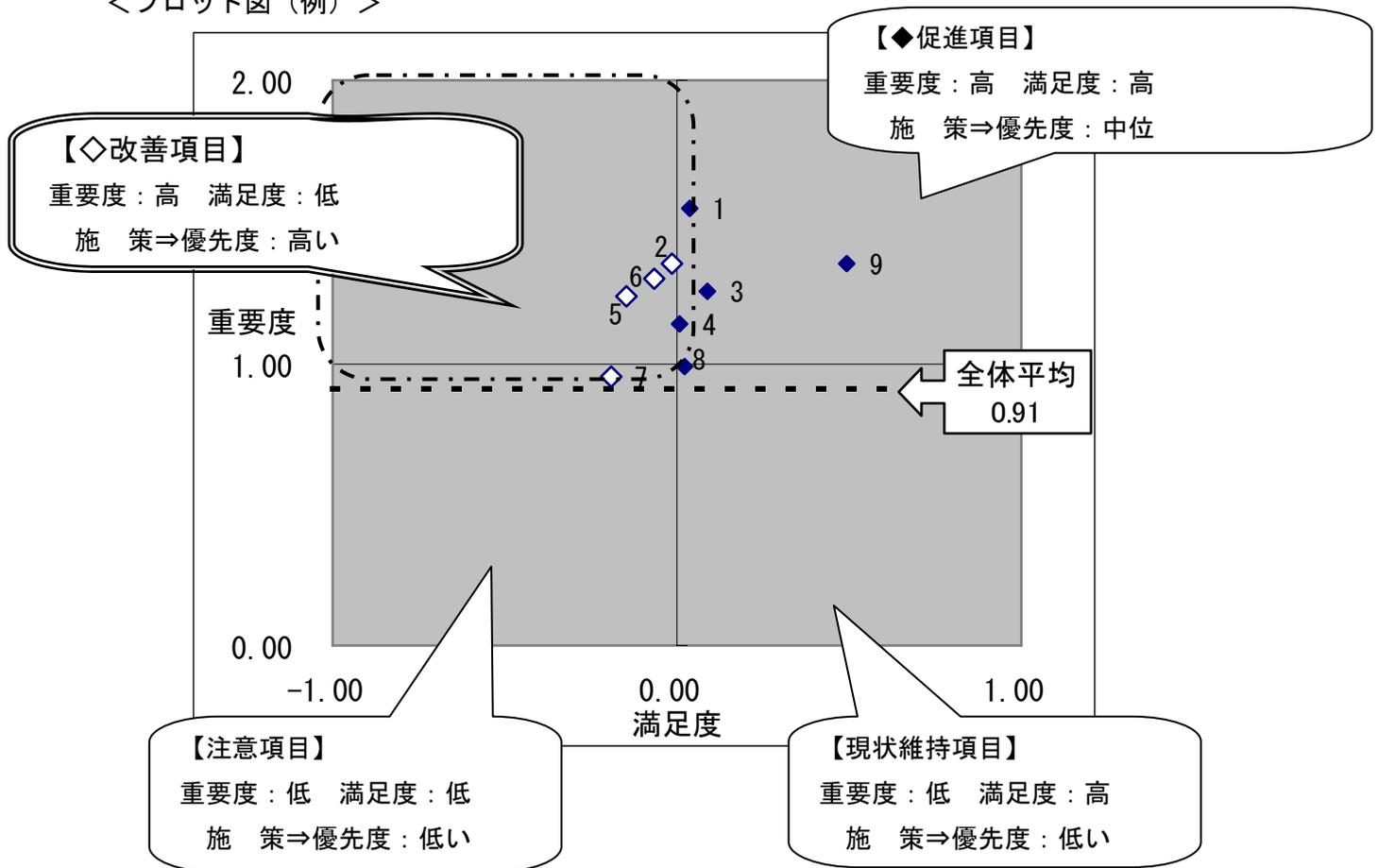
ここでは、各項目の満足度と重要度の比較を行う。

満足度と重要度の平均スコアを比較すると、すべての項目は次の4つのいずれかの項目に分類される。

- 1) 重要度が高いにも関わらず、満足度が低い . . . ◇改善項目
- 2) 重要度が高いが、満足度も高い . . . ◆促進項目
- 3) 重要度は低いが、満足度が低い . . . 注意項目
- 4) 重要度は低いが、満足度は高い . . . 現状維持項目

これら4つの項目は、x軸に前述の「満足度」の平均スコアを、y軸に「重要度」の平均スコアを取り、各項目をプロット図にて、表現すると分かりやすい。すなわち、軸の交差する部分を境界線として各々が存在する象限によっていずれの項目であるかが分かる。

<プロット図(例)>

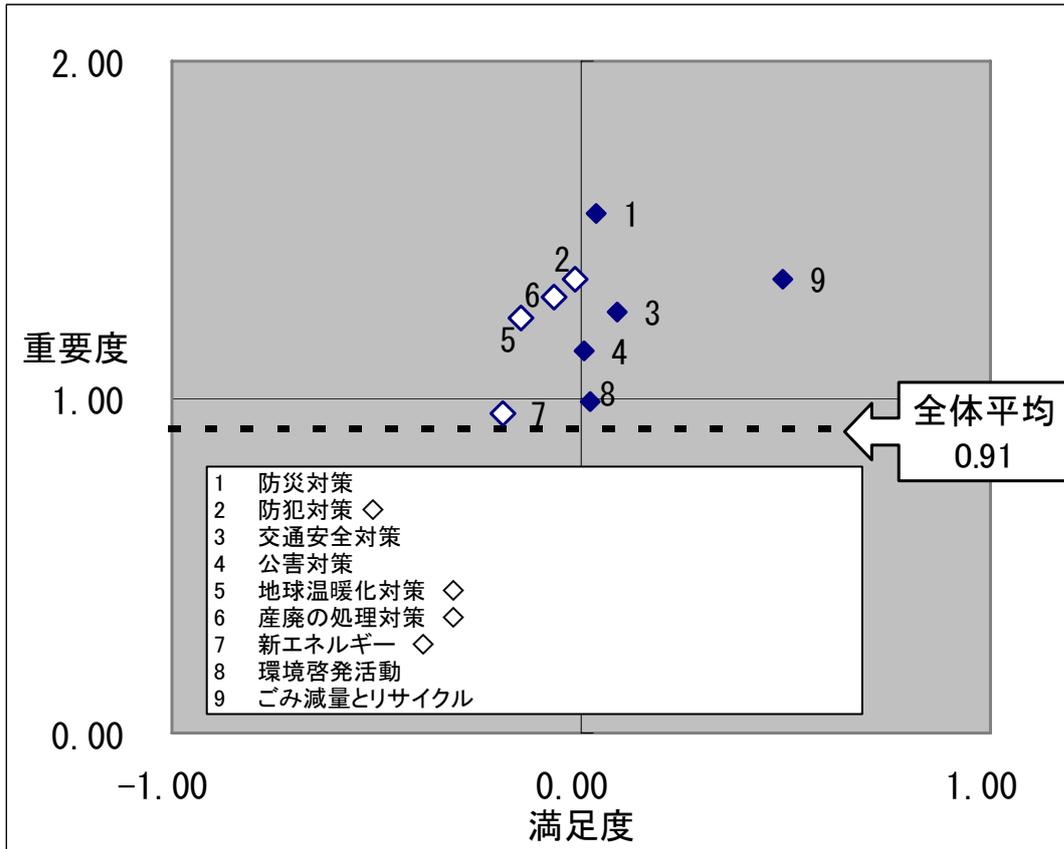


なお、満足度については、原点（高い・低いを判断する基準）を0としているが、重要度については、住民の評価が高くなっており（全体の平均が0.91、0を下回る項目は無し）、全体平均を原点とした。

4つの項目のうち、市としてこれまでの施策を見直し、推進していく必要性が高いのは、「改善項目」であり、本報告書では、改善項目に該当する項目の表記をその他の項目と区別している。

また、今後の施策のあり方については、「促進項目」のうち重要度の高いもの、「注意項目」のうち満足度の低いものについても述べる。

● 生活環境分野 ●



◇改善項目

- 「2 防犯対策」
- 「5 地球温暖化対策」
- 「6 産廃の処理対策」
- 「7 新エネルギー」

◆促進項目

- 「1 防災対策」
- 「3 交通安全対策」
- 「4 公害対策」
- 「8 環境啓発活動」
- 「9 ごみ減量とリサイクル」

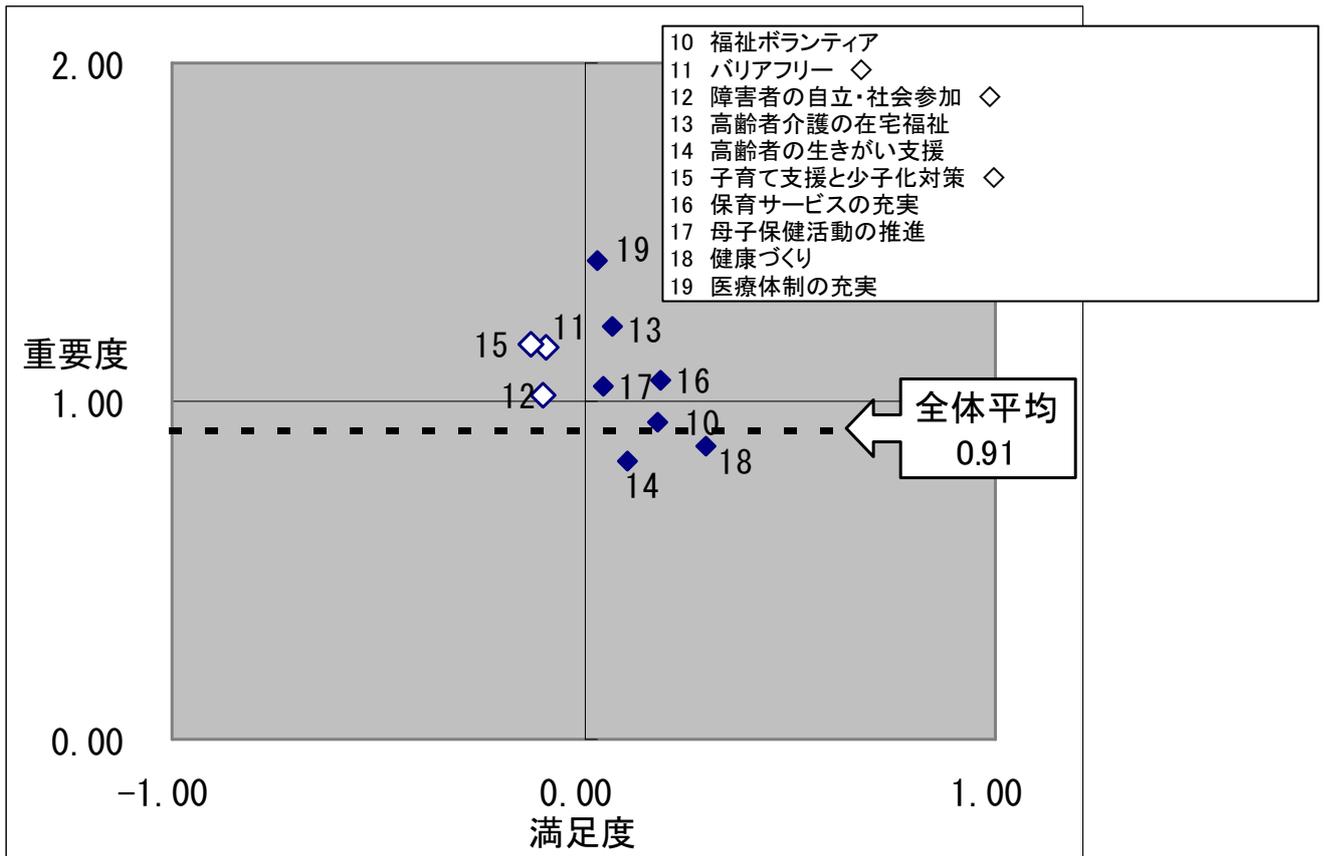
生活環境分野では、すべての項目が改善項目及び促進項目として含まれる。

「1 防災対策」は促進項目ではあるが、重要度は非常に高いため、今後一層の取組が求められる。

「2 防犯対策」については、改善項目として、年代別の満足度の違いに着目した施策の改善が求められる。子どもの安全確保という観点からは「3 交通安全対策」についても見直しの余地があると考えられる。

これまで先進的な取組を行ってきた環境政策についても、引き続き充実させていくことが求められている。満足度が非常に高くなっているために促進項目となっている「9 ごみ減量とリサイクル」とともに、改善項目としてあげられた「6 産廃の処理対策」、「7 新エネルギー」への取組を充実していく必要がある。

● 健康福祉分野 ●



◇改善項目

- 「11 バリアフリー」
- 「12 障害者の自立・社会参加」
- 「15 子育て支援と少子化対策」

◆促進項目

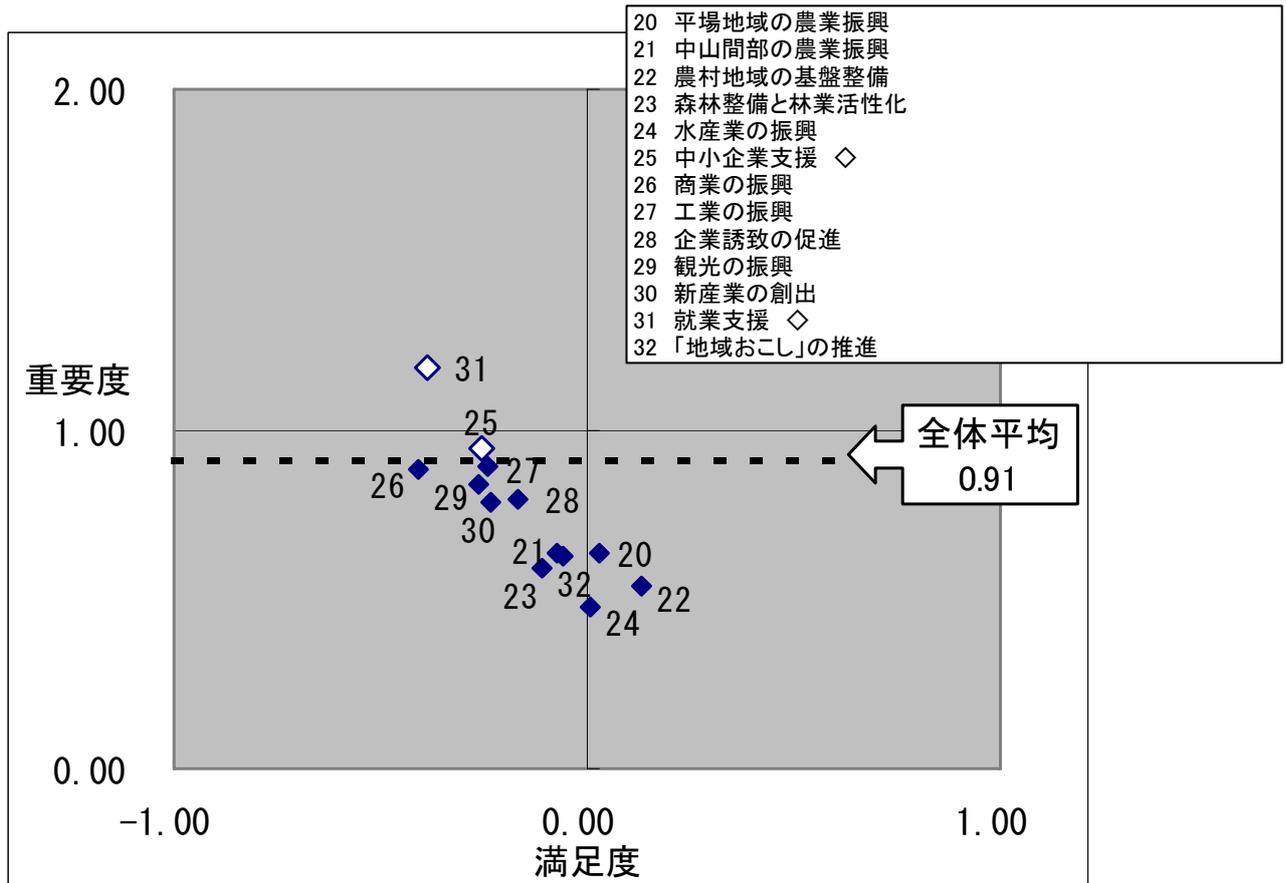
- 「10 福祉ボランティア」
- 「13 高齢者介護の在宅福祉」
- 「16 保育サービスの充実」
- 「17 母子保健活動の推進」
- 「19 医療体制の充実」

「15 子育て支援と少子化対策」については、促進項目である「16 保育サービスの充実」、
「17 母子保健活動の推進」を包括する項目として考えられ、本格的な少子化社会の到来を
迎えて、市の施策をより改善していく必要がある。

「11 バリアフリー」については、ハードだけでなく、同じ改善項目である「12 障害者
の自立・社会参加」、促進項目にある「10 福祉ボランティア」、「13 高齢者介護の在宅福祉」
などとあわせ、施策を総合的に展開していくことが求められている。

「19 医療体制の充実」は促進項目ではあるが、日常生活の安心の基本として、重要度は非
常に高いため、今後一層の取組が求められる。

● 産業経済分野 ●



◇改善項目

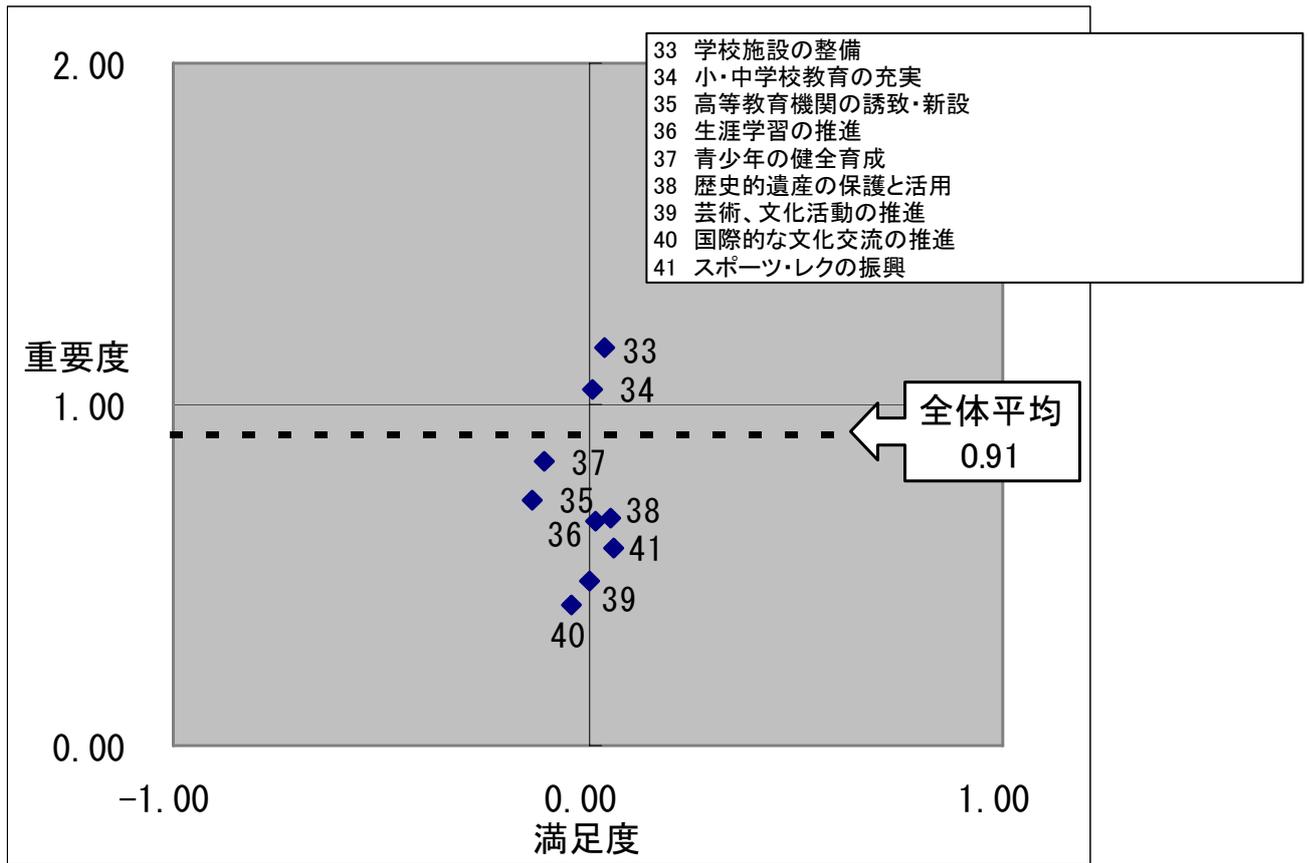
「25 中小企業支援」

「31 就業支援」

「25 中小企業支援」、「31 就業支援」は依然として厳しい地方経済の活性化に向けて、市として今後さらに力を入れていかなければならない項目である。

また、重要度は若干低いものの、「26 商業の振興」、「29 観光の振興」は満足度が低く、今後市としての取組について検討する必要がある。

● 教育文化分野 ●



◆促進項目

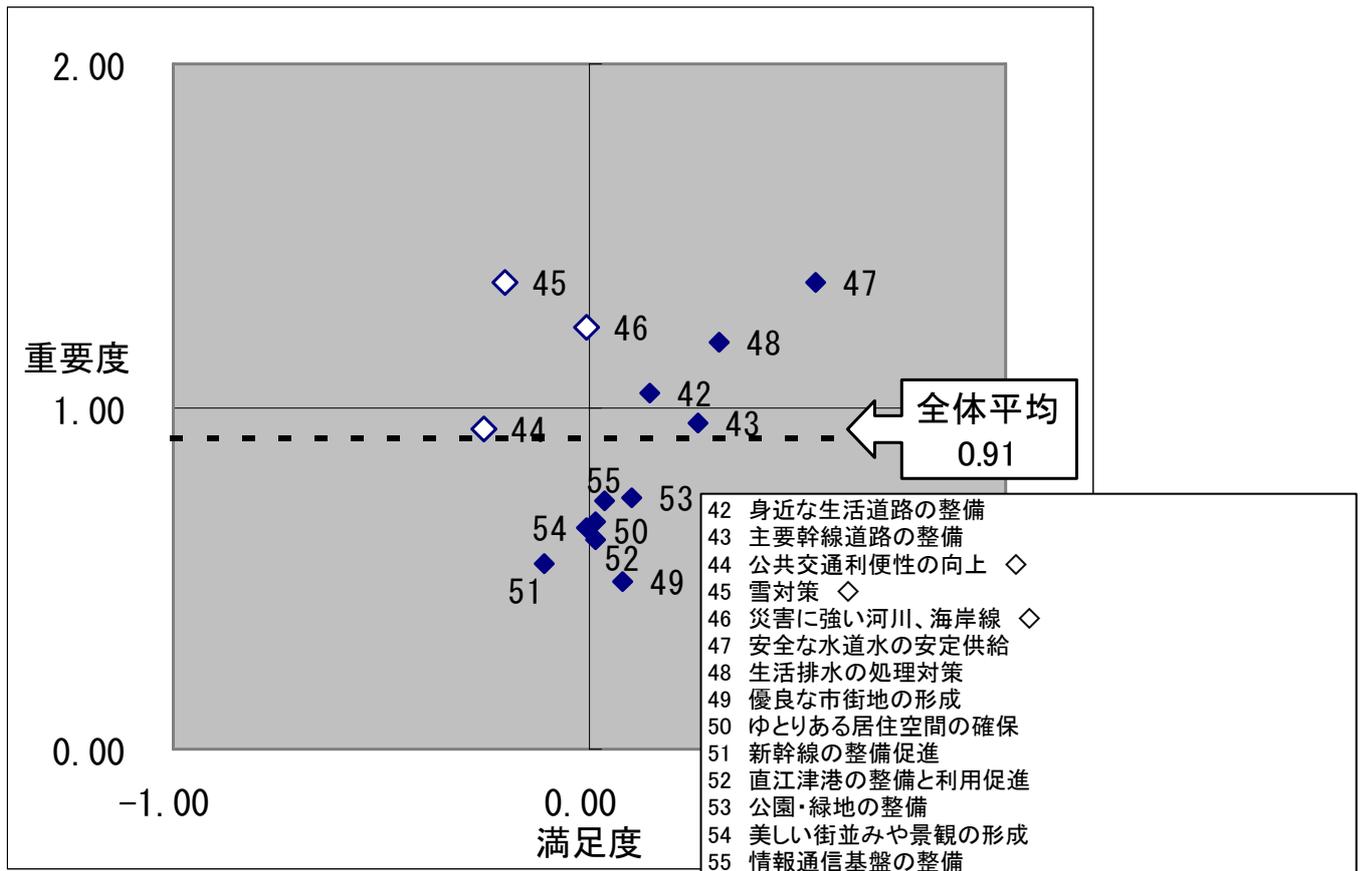
- 「33 学校施設の整備」
- 「34 小・中学校教育の充実」

教育文化分野では、改善項目がなく、促進項目として上記2つが出された。

「33 学校施設の整備」、「34 小・中学校教育の充実」とともに、重要度が高くなっており、少子化社会において市民の関心は高く、今後、学校の役割が変化することも予想しながら、施策を見直していく必要がある。

また、重要度は低いものの、「35 高等教育機関の誘致・新設」は満足度が低く、今後市としての取組について検討する必要がある。

● 都市基盤・生活基盤整備分野 ●



◇改善項目

- 「44 公共交通利便性の向上」
- 「45 雪対策」
- 「46 災害に強い河川、海岸線」

◆促進項目

- 「42 身近な生活道路の整備」
- 「43 主要幹線道路の整備」
- 「47 安全な水道水の供給」
- 「48 生活排水の処理対策」

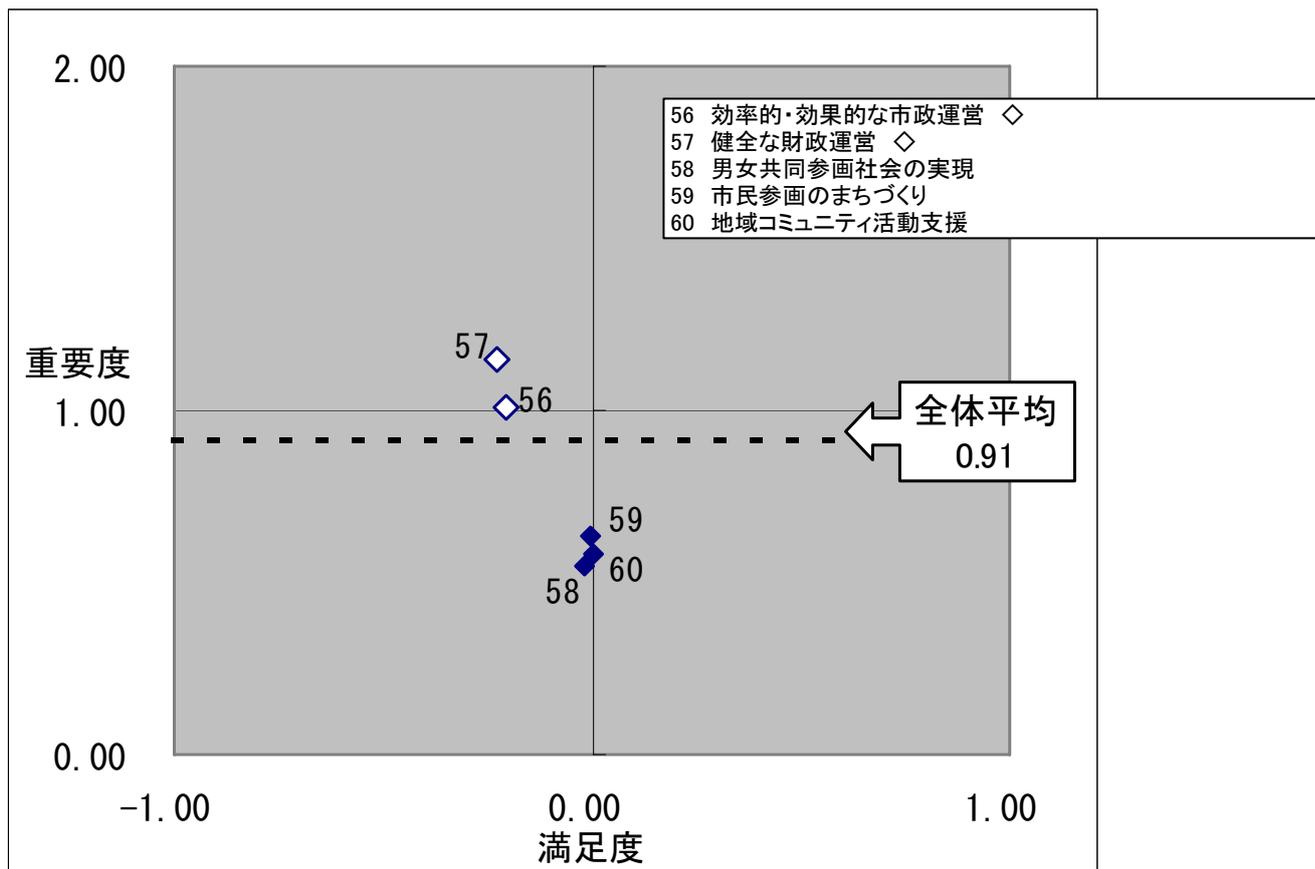
「44 公共交通利便性の向上」については、促進項目である「42 身近な生活道路の整備」、
「43 主要幹線道路の整備」とともに、広域となった上越市における交通施策を、総合的に検
討していくことが求められている。

また、「45 雪対策」についても、豪雪地帯を抱える本市において、市民の安全を守るために、
高齢化などの社会状況の変化に合わせて施策を改善していく必要がある。

「46 災害に強い河川、海岸線」については、改善項目として、合併による地勢変化に対応
していくことが求められる。

促進項目である「47 安全な水道水の安定供給」、「48 生活排水の処理対策」は、生活に
欠かせない基盤として引き続き整備を進めていく必要がある。

● 行財政・市民参加分野 ●



◇改善項目

「56 効率的・効果的な市政運営」

「57 健全な財政運営」

「56 効率的・効果的な市政運営」、「57 健全な財政運営」については、ともに様々な社会経済状況や多様化する市民ニーズに対応していく行政の基本的なあり方として、常によりよい施策のあり方を見直し続け、効率的で質の高い行政サービスを展開していく必要がある。